

# 寮生大会資料

寮生大会資料.....	1
第116期総括.....	2
常任委員会.....	2
広報局.....	7
対処分戦略推進局.....	9
国際交流局.....	12
地域連帯局.....	14
増築建設局.....	17
寮外連携局.....	18
＜専門部＞.....	20
文化部.....	20
炊事部.....	26
庶務部.....	29
厚生部.....	31
人権擁護部.....	36
情報部.....	40
＜特別委員会＞.....	41
入退寮選考委員会.....	41
選挙管理委員会.....	44
監察委員会.....	47
資料委員会.....	48
居住理由判定委員会.....	49
寮祭実行委員会.....	49
第117期方針.....	77
常任委員会.....	77
広報局.....	85
対処分戦略推進局.....	89
国際交流局.....	92
地域連帯局.....	93
増築建設局.....	96
寮外連携局.....	97
＜専門部＞.....	98
文化部.....	98
炊事部.....	104
庶務部.....	107
厚生部.....	109
人権擁護部.....	111
情報部.....	119
＜特別委員会＞.....	120
入退寮選考委員会.....	120
選挙管理委員会.....	122

監察委員会.....	124
資料委員会.....	125
居住理由判定委員会.....	126
自治会会計.....	<b>127</b>
自治会会計決算.....	127
自治会会計予算.....	129
特別決議案.....	<b>131</b>

## 第116期総括

### 常任委員会

#### 【目次】

#### A.総論

#### B.各論

##### 1.SCのあり方

##### 2.部会委員会

##### 3.厨房問題

##### 4.寮外連帯

##### 5.対当局

##### 6.処分問題

##### 7.全学自治会再建

#### C.決算

#### A.総論

116期は寮自治が深まった期であった。熊野寮コンパで学習会を行い、熊野寮の方針に寮外生を獲得することに重点を置いて開催した。

バタ署攻めでは機動隊がものすごい構えをしていたが、臆することなくみんなで抗議行動を行った。

このような行動に表れているように、大学当局や国家権力と闘うという方針をはっきり打ち出し、その方針を寮外に対して堂々と説明していくことができた。

一方で常任委員会の中心で人を組織するような人を増やすことはあまりできなかった。SCの陣形の固定化が起きてしまい、負担の集中、来期以降の課題。

総長室突入に向けた議論では今の情勢の中で自治会のあり方を問い直し、自治寮防衛について考え直す機会となった。戦争のできる国作りがどんどん進んでいく中で一学生自治会としてどのような立場を取るのかということも含めて様々な議論が交わされた。議論し切れていない部分も残っているため継続的に議論していく必要性が改めて確認された。

総長室突入では去年と同様たくさんの学生が集まり、大人数で今大学で起きているおかしいことに対して行動を起こすことができた。キャンパスを一時的にでも解放区にするだけの力が学生にあることが示された。

以下に具体的な論を述べる。

## B.各論

### 1.SCのあり方

SCが方針を打ち出し旗振り役として全寮の議論を引っ張っていくことができた。一方で中心で動く人が固定化され、仕事や負担が偏ってしまった。人の組織化が足りていない。SCの方針を共有して組織者として動く人を増やす必要がある。

SCの組織化が不十分になってしまった原因としては、SCの領域が広くなりすぎていたことがあるだろう。SCの中心で動くときに広範な領域に責任を取らないといけないということが参加するハードルを高めてしまっているうえ、中心で動いている人は目の前のことをこなすのにいっぱいになってしまい、平SC1人1人に声かけをするなどのことが不十分になってしまった。

平SC1人1人が興味のあること、モチベーションのあることから継続的に討論を重ね、一緒に仕事をして、他の領域にも少しずつ責任を取ってもらうようにしていくなど、対策を考えていく。

### 2.部会委員会

部会、委員会が寮自治を維持していくうえでいかに大事か、どのような理念のもと存在するのか、そういう部分から全寮で確認するために、部会論・委員会論学習会を寮生大会で行った。また、入寮オリテに向けて改めて主に部長委員長向けに部会委員会論の学習会を行った。部会委員会の意義を大事にするという姿勢を示すことができた。

一方で部会委員会で中心で動いている人への声かけは不十分であった。それもあり方針で掲げていた部会委員会の長にSC会議に確実に来てもらうことはできなかった。

### 3.厨房問題

115期の総括をもとに食堂運営会を武器として寮生が厨房に関与していくという方針を立てていたが、この方針に沿って動くことはほとんどできなかった。また、今期は厨房員S氏によるパワハラが存在するかもしれないということが発覚した。事実確認を進めるとともに厨房員さんとコミュニケーションをちゃんと取っていくこと、食堂運営会を活用して寮生が主導権を握っていくことが必要。

### 4.寮外連帯

#### ・くまのまつり

「熊野寮の自治論が地域の住民には通用する」という一定の自負が今の寮自治会にはあるはずだ。2014年以降、熊野寮が対外的に堂々とガサの不当性を語る方向に舵を切ったのは、「自分たちの主張は十分世間に通用するものだ」という実感が、それまでの地域とのつながり＝くまのまつりの中で培われたからだ。

今期はより多くの寮生がこのような寮自治会方針への自負、自信を持つこと、そして持てない部分については議論し、より獲得力のある方針やその魅せ方を模索することを目指した。

昨年のもつりで大きな転換を迎えたくまのまつりでは、寮自治やガサの問題にとどまらず、処分弾圧についても大々的に会場でアピールされるようになった。熊野寮の闘争アピールに見られる政治性は、例えば行政管理の公園で開催されるようなイベントではタブーとされるようなものであるが、それが大々的に行われていることが寧ろくまのまつりの大きな魅力となってきている。出店者や出演者からも、「こんなまつりはほかにない。」「もっと大きく商業的なイベントはたくさんある

が、そういうところに出るのは全く違う気持ちでいつも参加を楽しみにしている。」と言われるほどだ。

今期2回のまつり、特に夏のまつりではアジテーションに慣れた寮生から初めての寮生まで多くの参画を得られた。そして人数が多かっただけでなく、内容も各人が確信を持てる言葉で、自分なりの視点から処分問題を語るものになっていた。さらに会場を回って署名を集めることでいかに熊野寮の闘争が多くの市民から支持を受けているかを実感できた。この経験が今後様々な弾圧の場面、また外部に弾圧対策の協力を訴える場面などで大きな糧となるだろう。秋のまつりでは、参加人数の組織こそあまり上手くはいかなかったが、以前のものをより洗練させたスライド等を用いたアピールによって、初めて熊野寮を訪れた来場者からも処分闘争への理解と賛同が得られた。これも来年以降のくまのまつりに生かされるものである。

## ・学寮連帯

### 【学寮交流会】

2023年8月に全国学寮交流会が東北大学日就寮にて開催され、熊野寮自治会として参加した。コロナ禍を超え、新しく参加する学寮が増えていく中で、金沢大学泉学寮の廃寮化問題や、第一審の終結が近い吉田寮訴訟問題が共有され、全国的に学生自治寮に対する攻撃があるということが確認された。北海道大学恵迪寮からは寮の改修案についての話があり、学生自治寮の改修は、寮自治の解体の一手になってきたという歴史的な前提を共有することができ、今後の対応について学寮交流会という枠組みで共に取り組んでいくことが確認された。

熊野寮自治会からは、国策としての学生自治寮潰しに対して闘って残ってきたというこれまでの総括を打ち出し、処分闘争や全学自治会建設といった、国を相手取って闘う熊野寮の実践を紹介できた。

これまでの総括を踏まえ、熊野寮の参加者は事前に、熊野寮の方針に他の寮の寮生を獲得しようという意思一致をしていたが、実質的な管理寮や、寮自治会に対して弾圧がない状況の寮との前提の違いを乗り越えて、「自治寮防衛とは国家を相手取る実力闘争である」という熊野寮の方針に、他の寮の寮生を獲得しきれなかった点は敗北点である。

また各寮における寮についての考え方の違いが明確になった。寮はどうあるべきなのかということについても、積極的な議論が必要である。

さらに学寮交流会に主体的に関わる熊野寮生が少数で固定化されている現状がある。継続的な運動のために、後進の育成が必要である。

### 【吉田寮】

吉田寮への攻撃は激しかった。今年の8月2日には学生担当理事・副学長 國府寛司名義で『吉田寮自治会』名義の入寮募集について」という文章が発出された。吉田寮への居住を「不法」と断定し、今後の入寮募集に応じないよう呼びかけている。吉田寮現棟・寮食堂明渡請求訴訟の判決も2/16に迫っている。この判決によっては来年度中に吉田寮の現棟および食堂への強制執行が来ることもありうる。

これらの攻撃の中で、これを吉田寮の問題だけではなく熊野寮、全社会に関係する問題として捉え、熊野寮も吉田寮と連帯して戦うことを「京都大学当局による吉田寮自治会への現棟・寮食堂明渡請求訴訟に対する抗議声明」にて宣言した。

また、吉田寮の今後取りうる方針を把握していなければ共闘することができないという問題意識から四寮会議という形で現状及び方針共有の場を求め、10月3日に実現した。詳しくはと四寮会議の報告議案を参照してもらいたいが、そこでは吉田寮の考えている方針の裏に情勢認識などがなく、当局への希望的観測に基づいたものになっていることが明らかになった。しかし、四寮会議の討論の場では自治つぶしが国策に沿って行われているという情勢認識、したがって当局に希望を持つことはできず、対決するべきであるという方針に獲得することはできなかった。今後は吉田寮生との情勢認識の一致から目指し、一緒に当局と対決する方針を取れるように連携していく必要がある。

## 5.対当局

11/21に来た寮生4人を含む5人の学生への処分に向けた呼び出しに表れるように当局からの弾圧は激しくなっている。第三小委員会からの踏み込み文書や寮祭に対する通告文書などの弾圧もあった。このような攻撃に対して1つ1つを毅然と跳ね返して対応できている。

第三小委員会からの踏み込み文書に寮全体で対抗していくために負担区分問題学習会を開催した。今後も全寮で様々な攻撃を跳ね返していけるよう、丁寧な議論を積み重ねていく必要がある。

## 6.処分問題

寮生4名を含む京大生5名に新たな呼び出しが来るという大きな踏み込みがあった。11ヶ月過ぎてからの踏み込みであり、当局側も追い詰められていると考えられる。処分問題は個人としての攻撃という形を取るが、実際にはネガティブキャンペーンと脅しを含んだ全体の萎縮を狙ったもので寮全体、大学全体、社会全体の問題である。今期もそのことを確認しながら処分問題に取り組んできた。

処分局主催で処分問題学習会を開催した。処分について熊野寮自治会がどう向き合い、闘ってきたのかについて、処分という個人に降りかかる問題に対して分断を許さず全体の問題として取り組んできたことを丁寧に伝えるものになっただろう。

くまの夏の夜まつりでは処分問題について1回生が中心となってお祭りの来場者に対して熱い処分反対アジテーションが行われ、また寮祭に向けて処分について学習会が行われた。

激しい情勢に伴って激しい弾圧が来ているからこそ強く広い団結で反撃していきたい。

## 7.全学自治会再建

処分問題と一体で取り組んできたのが全学自治会再建。

処分問題から始まって、学内問題は全て大学改革に根を持つ処分問題にいきつき、全学で立ち向かっていかないといけないということで全学自治会再建運動が始まっている。

再建準備会主導で行った反戦集会、反戦シンポジウム等に多くの寮生が参加し、全学自治会建設を引っ張った。戦争の問題が身近に迫る中で全学自治会としても戦争の問題に取り組んできた。そしてその内容は総長室突入での議論に繋がった。

## C.決算

	収入	支出	予算	追加予算	自治会会計 に返還	備考
自治会 会計より(当初 予算)	¥4,525,000					
自治会 会計より(追加 予算)	¥159,800					
SC新歓		¥80,000	¥80,000		¥2,397	¥80,000支出の後、¥2,397の カンパを返還。

寮生大会差し入れ		¥9,845	¥10,000		¥155	
物品購入費		¥137,956	¥200,000		¥62,044	
コロナ対応費		¥130,178	¥50,000	¥100,000	¥19,822	
緊急事態対応費		¥0	¥80,000		¥80,000	
寮外交流費		¥138,477	¥300,000		¥161,523	
会議運営費		¥28,642	¥50,000		¥21,358	
学習会コンパ費		¥0	¥100,000		¥100,000	
学寮交流費		¥171,637	¥200,000		¥28,363	
PT予算		¥0	¥10,000		¥10,000	
寮祭		¥350,000	¥350,000		¥0	
広報局		¥183,124	¥245,000		¥61,876	
国際交流局		¥66,773	¥80,000	¥59,800	¥73,027	
寮外連携局		¥1,090,000	¥1,590,000		¥1,185,935	¥1,090,000を支出の後、当初返還予定の¥1,013,103とイベント売上金¥172,832を返還。
地域連帯局		¥700,348	¥710,000		¥9,652	
増築建設局		¥0	¥50,000		¥50,000	
対処分戦略推進局		¥70,309	¥420,000		¥349,691	
計	¥4,684,800	¥3,157,289	¥4,525,000	¥159,800	¥2,215,843	

## 広報局

### 1, 全体総括

116期広報局は人員不足と活動量の低下に悩まされた期であった。しかしNF出店や熊野あじり着ぐるみ制作など広報局の今後に活きる活動を行えたことも事実である。広報局に1回生は所属しておらず、局の存続には新たな人員の確保が不可欠である。そもそも「広報」の意義を局員で

共有することが出来ておらず中途半端な状態で活動してしまったのも問題であった。117期では改めて広報の意義を考えて局を立て直さなくてはならない。

#### 1-1, 寮外広報

116期では広報局では初の試みとなったNF出店を行い大量の熊野寮祭のビラの配布やグッズの販売に成功した。

#### 1-2, 寮内広報

116期で目立った活動はしていないものの、公式LINEや熊野寮通信は今後活用していく余地はある。

#### 1-3, 広報素材の発見

「熊野あじり」は立派な広報素材であり、着ぐるみを制作できたことは今後の広報局の活動の幅を大きく広げる可能性を持っている。NFのKMN48で活用されたように今後YouTubeで使用するなど行っていきたい。

#### 1-4, 寮内記録

広報局カメラは寮祭の記録やNFの記録などで役立った。引き続き、これらの活用を進めていくと共に、機材を使いこなすことが可能な人材の育成につとめていきたい。

### 2, 各論総括

ここでは広報局が行った具体的な活動や行う可能性があるプロジェクトについて述べていきたいと思う。

・テレビ取材: 今期はテレビの取材を受けた。地上波で放映された「アンタッチャブるTV」「よ〜いドン!」の他にもいくつか取材の依頼があったが寮祭期間と被っており対応できる寮生のキャパがなかったため断らざるを得なかった。テレビ取材のノウハウが蓄積されたので今後は積極的に対応していきたい。「アンタッチャブるTV」と「よ〜いドン!」の総括は別で詳しく出す。

・NF出店: NFにグラウンド企画と屋内企画を出店した。屋内企画は立地の悪さと企画内容から中止しグラウンド企画のみを行った。グラウンド企画では局の連携不足からテントの設営に時間がかかりNF2日目からの出店となった。しかし、大量の熊野寮祭のビラの配布、グッズの販売や来場者との積極的な交流を行うことができた。NFの総括も別ですが詳しく出す。

・着ぐるみ制作: 熊野あじりの着ぐるみ(頭だけ)を制作した。30時間ほどかかった。お世辞にも上出来とはいいいがたいが、独特の風味が出ており可愛い。今後、YouTubeチャンネルや寮のイベントなど活動の幅を増やしていきたい。

・YouTubeチャンネル: 投稿者の多忙により投稿が止まってしまっている。今後は着ぐるみを使った動画を投稿したい。117期ではYouTubeチャンネルに携わる人を増やして定期的に動画を投稿するシステムを作っていきたい。

・グッズ: 新しいグッズ(Tシャツ・缶バッジ・クリアファイル)を制作しNFで販売した。制作費と売上は以下の表にて示す。

制作費合計35630円

缶バッジ:72.6円×100個＝7260円

Tシャツ:1991円×10個＝19910円

クリアファイル:169.2円×50個＝8460円

売上合計28050円

缶バッジ:150円×47個＝7050円

Tシャツ:2000(※3000)円×7個＝15000円

クリアファイル:200円×30個＝6000円

※Tシャツは通常料金:3000円、中高生料金:2000円で販売した。中高生には6枚販売した。

・ラジオ:YouTubeチャンネル「熊野寮広報局」で投稿されているラジオ。今期に活動は無かったが活躍の余地はある。

・頒布物作成:寮祭やNF宣伝のビラを作成し、大学構内に貼ったりNFの来場者に配布したりした。

・SNS広報:今期も継続して寮が保有しているTwitterアカウントの運用を行った。インスタグラムのアカウントは存在はするものの積極的に動かすことは出来なかった。広報局カメラで撮った写真を定期的に投稿するなど行っていきたい。

### 3. 決算

決算は以下ようになった

項目	収入	支出
自治会会計より	¥245,000	¥0
カメラ	¥0	¥120,000
カメラ備品	¥0	¥5,879
新歓飲み物代	¥0	¥1,870
着ぐるみ費用	¥0	¥16,859
備品	¥0	¥330
オープンドミトリー	¥0	¥2,556
グッズ費用	¥0	¥35,630



自治会会計へ返還	¥0	¥61,876
合計	¥245,000	¥245,000

## 対処分戦略推進局

### 1. 総論

2019年の処分PT設立以来、学内の決定権をめぐる攻防として続いてきた処分闘争が、学内の力関係を作ってきた。いまや、学内でキャンパス宣伝をしても職員は一切出てこない。以前は少し宣伝ただけで職員が出てきたにもかかわらず、弾圧を許さない状況が生まれている。また、さまざまな勢力が弾圧もほとんどない状況でスタンディングを成功させるなど、学内の政治的高揚も生まれている。

学生全体への攻撃としての処分を自分たちで阻止・撤回しようという全寮的な一致が作られ、そこから処分と闘う団結を寮内外で拡大してきた。熊野寮が先頭に立って処分闘争・全学自治会建設運動を作ってきたことに確信を持ち、今後は街頭やキャンパスに打って出よう。

### 2. 情勢

学生処分の問題も自治寮つぶしや管理強化の問題と同様、社会情勢から規定される。大きな情勢と社会の動きを見て処分の背景を捉えて闘ってきたからこそ、これまで団結を拡大することができてきた。

今社会は戦争情勢である。パレスチナではすでに2万人以上がイスラエルによって虐殺され、多くの人々が避難している南部への侵攻も始まっている。ウクライナでは「反転攻勢」が停滞し、バイデンは290億円規模の追加支援を表明している。ここ日本でも、南西諸島へのミサイル配備、軍事費2倍化などの戦争政策が次々と打たれ、アメリカと一体となって対中国戦争への準備が進められている。

この戦争情勢の中で、大学の動員も狙われている。2013年国家安全保障戦略で「産官学の力を結集させて、安全保障分野においても有効に活用する」と明言され、2015年から防衛省の安保技術研究推進制度が始まった。しかし日本学術会議が過去の軍事研究反対の立場を踏襲した声明を出したことで、大学からの応募は激減する。これをひっくり返すために、2020年に菅政権が安保関連法に反対した6名の教授を任命拒否し、学術会議バッシングを展開したことで学術会議は今年に入って軍事研究容認に転じ、あとは各大学において現場の反対を潰せばいいという状況になった。

先日可決された国立大学法人法改悪は、この状況を加速させるものである。「ガバナンス強化」と言っているが、要は学生教職員の自治をつぶし反対勢力を一掃するということだ。この大きな

流れの中に学生への処分はあり、国家が戦争に進んでいく中で声を上げる学生がひとりひとりつぶされようとしているのだ。

だからこそ、我々は反戦闘争と一体で処分闘争を闘っていく必要がある。

### 3. 各論

#### a. 寮内議論

寮内の議論については、夏と寮祭前に学習会を行い、19年からの処分闘争を改めて振り返り総括する内容を提起した。まとまったものを出したのは初めてだが、これからの寮内のスタンダードにしていけるような議論が作れただろう。

さらに、12月全国学生反戦集会への賛同議論を牽引した。先にも述べた反戦闘争と処分闘争の一体性について、寮内での議論が始まっている。これをさらに深める議論を117期以降進めていきたい。

#### b. 安田さん卒業

2018年に無期停学処分を受けて以来、一貫して処分撤回運動を闘ってきた元B201安田さんが、7月の集会をラストステージとして学生の身分を「卒業」し、新天地にて活動に励むことになった。

安田さんの処分撤回運動においては、無期停学中に発生する学費の支援や、2021年7月以降の処分撤回集会での入構発言への賛同・支援があったからこそ、本人も処分局も運動を続けてこられた。安田さんの処分撤回運動に賛同し、物心両面にわたって支援してくださった全ての寮生に感謝申し上げます。

安田さんの処分の文字通りの撤回にはいまだ至っていないが、処分撤回運動の成果として、安田さんに続く学生に対する重処分を阻止し、全学自治会再建に向かう運動を作ってきたことは非常に勝利的である。

#### c. 全国大学との連帯

先にも述べたように、処分問題は社会全体の情勢に規定されているからこそ、京大だけの問題でもない。全国の大学でも処分が起きており、処分局としては他大学の学生とも連帯して活動を行った。

5月の広島G7サミット反対闘争で逮捕・不起訴釈放された広島大学の学生に対し、広島大学当局から処分に向けた呼び出しがかけられた。これを受けて広島大学で処分撤回集会が行われ、これに京大から処分局員も参加した。

広島大学は被爆地としての歴史もある反戦・反核闘争の拠点大学として、権力から激しく攻撃されている。今後も全国の処分闘争と連帯し、全国的・社会的な広がりを持った闘いとして構えていきたい。

#### d. 5学生呼び出し

11月21日付で、昨年度寮祭企画「総長室突入」に参加したとして、寮生4名を含む5名の学生に処分に向けた呼び出しがかけられた。詳しくは周知議案を参照されたいが、当該らは萎縮せず呼び出し拒否で闘うことを決断し、後述する寮祭の闘いも貫徹した。これも、当該と団結して闘う路線を確立してきた処分闘争の地平である。

#### e. 寮祭

全寮生の力で、寮祭を貫徹した！

まず初日の時計台コンパでは、主体となる1回生らと事前に議論を重ね、弾圧対策を講じたうえで、当日大学当局はタテカン含め一切の手出しができないという結果に終わった。弾圧を一切許さずコンパとタテカンを防衛しきった大勝利。

さらに総長室突入では、本部棟に立てこもり、学生の声を「ないもの」にするという大学当局の戦略によって、逆にキャンパスが学生の手明け渡されるという結果になった。キャンパスが解放区となり、警察も弾圧職員もひとりもいないという歴史的状況が発生した。処分呼び出しを受けても怯まず闘うことで逆に当局を追い詰め、弾圧を学内から一掃した大勝利である。

#### f. 学内外での登場

学内での存在感も向上している。処分局のキャンパス街宣では、処分局の寮生がマイクアピールに立ち、ビラまきと署名集めを行った。その際ビラはけが非常によく、署名も多く集まったうえ、処分問題を知っている学生、集会に来たことがある学生も多数いた。

学内に日和らず登場することで学内世論が形成されてきている。今後も定期的にキャンパス宣伝を行い、存在感を高めていきたい。

また、くまのまつりに向けて処分に関するアジテーションなどを組織した。くまのまつりは地域の方と顔を合わせて話すことができる貴重な機会であり、ここで処分の不当性と闘いの展望をアジテーションで伝え、地域ぐるみの運動として処分闘争を作り上げることを目指した。夏のまつりではステージ出演の合間にアジテーションを行い、まつりの高揚も相まって多くの共感の声とカンパ・署名が寄せられた。117期には春のまつりに向けて、地域をまるっと獲得できるアジテーションを練り上げていきたい。

#### 4. 決算

以下の通り。

項目	収入 (円)	支出(円)
自治会会計より	420000	
6/21学習会交流費		5420

項目	収入 (円)	支出(円)
同学会代議員会交流会		10193
7月集会雑費		1906
7月集会交流会費用		9947
7月集会宣伝(カラービラ・印刷用紙)費用		4920
処分問題学習会交流会費		9756
11/3処分問題学習会		12717
覆面(ニット帽・マスク)費		10565
12月集会宣伝費(カラービラ)		4465
処分呼び出しへの返答送付用切手代		420
自治会会計に返還		349691
		420000

※12月集会のカラービラ代4465円は117期自治会会計に返還する。

## 国際交流局

### 0. はじめに

国際交流局は、今期入寮の留学生を対象とし、英語のサポート資料を面接当日に配布するなどのサポート体制を用意した。今期は新しく寮内資料の英訳版などは作成できなかった。また寮生と寮内外の留学生との交流や熊野寮を寮外に発信することを目的として活動し、本局が主催するCLUB KUMANOにおいては処分者へのチャリティーパーティーであることを広く周知したうえで処分者へのカンパを募った。その結果、寮生のみならず寮外生も多くスタッフとして参加してもらい、寮外生に関しても熊野寮に興味を持つに留まらず寮の広報に積極的に関わる人が現れた。また、特に今期は西部講堂やCLUB METROとのコラボイベントに成功し、学内の自治組織や地域との連帯を達成できた。しかし今期はパブイベントの開催には至らなかった。

今期集まった被処分者への学費カンパは135100円であり、国際交流局から対処分戦略推進局へと拠出した。なお、現在学費カンパが既に来期分まで集まっていることを踏まえ、来期のカンパの用途については処分局と共に検討していく予定である。

### 1. 開催した交流イベントについて

以下の日程で交流カンパを企画した。

- 6月24日 CLUB KUMANO
- 9月 9日 CLUB KUMANO
- 10月13日 CLUB KUMANO
- 11月22日 CLUB KUMANOコラボイベント（西部講堂にて開催）
- 12月16日 CLUB KUMANO

### 2. 本局の目的、課題

最後に、改めて国際交流局の開催するカンパの意義、具体策および課題を以下に示す。

#### [国際交流]

これまで触れてこなかった文化や人間について理解する環境を整えることは、多種多様な人間で構成された集団を維持するための取り組みとして大切であるという理念のもと、留学生にとって身近な存在であるナイトクラブイベントを国際交流局主催で行い、普段交流の場が少ない留学生に交流の場を設けることは国際交流局の活動理念と一致すると考えている。

#### [コンパの多様化（パブイベント未開催に関して）]

普段の寮のコンパでは参加する人間が一定固定されていたり、また既存のコンパの形式に参加しにくさを感じる寮生もいる可能性がある。クラブイベントという他にないコンパを起点に、既存のコンパにはあまり参加しない寮生・寮外生と交流できた。また、その中には熊野寮に興味を持ってもらうことに留まらず、スタッフとして参加したりSNSや海外のカルチャー誌を通して熊野寮の広報に積極的に取り組んだりする人が現れるなど多様な関わり方があった。

今期はCLUB KUMANOのみの開催となり、パブイベントを開催できなかった。理由としては11月下旬に開催を予定していたものの寮内のインフルエンザ流行により開催を断念したためである。パブイベントはCLUB KUMANOとは異なり参加しやすい時間帯での開催や食事の提供、またどうしても西洋的な文化であるナイトクラブとは別の留学生層をキャッチできる可能性があるという点で重要視しており、開催できなかったのは大きな反省点である。

#### [学費カンパとcharity partyについて]

今期、国際交流局は処分戦略推進局への学費カンパを135100円拠出した。この学費カンパを集める際には国際交流局のイベントが処分者へのcharity partyであること、また自治寮への弾圧の現状などを広く周知できた。この周知には本局員だけでなく、イベントの参加を通じて熊野寮の理念に共感した寮外の留学生などと連帯して行うことができた。

寮外生も集まるパーティーを主催することで寮外にも広く熊野寮の現状や弾圧に対しての協力を周知できるパーティーを開催できたことは本局の理念に沿ったイベント運営ができたと考えている。

#### [広報]

CLUB KUMANOによって熊野寮のことについて知ったという人も一定数おり、国際交流局の活動はこれまで手の届かなかった層へのフックとして大きく機能している。現段階でCLUB KUMANOのInstagramのフォロワーは2700人を超え、今期を通してフォロワーは2倍近く増えた。投稿しているステートメントにはCLUB KUMANO開催にあたっての運営のポリシーや熊野寮が立ち向かうべき問題についての記述がなされている。また、ストーリーズなどに定期的にステートメントを周知することで多くの寮外生に熊野寮が現在抱えている廃寮化攻撃や当局からの弾圧といった問題を知らせることができた。

#### [CLUB KUMANOにおける騒音対策]

CLUB KUMANOの初開催以来、騒音による寮内外からの苦情は大きな課題であった。今期はこの問題に対して、従来は深夜～朝にイベントを開催していたのを夕方～深夜に変更する、また寮外の来客者を正門ではなく専用入口（踏水会側に階段を設置したもの）から入れるという2つの変更を初めて実施した。この対策を講じた回は寮内外の苦情はなく、騒音問題に対して大きく進歩できたと考えている。

#### [今後の課題]

国際交流局が主催するイベントは、留学生を含む多数の寮外生に熊野寮について興味を抱いてもらうフックとして働くだけではなく、寮自治や処分問題への認識やそれらを広めたいとする寮外生が寮との関わりを持つ起点になることができる。しかしそのような人の数はまだ少なく、また寮に対する認識も十分に広まっておらず、それらが騒音問題の一因

でもあると考えられる。音響の改善や騒音対策を続けて治安の良いイベントづくりを心がけながら、さらに多くの寮内の留学生との交流や寮外生の獲得を今後の課題としたい。

### 3. 決算

	予算 (円)	収入 (円)	支出 (円)	備考
自治会会計より		80,000		
パブ企画	70,000			開催中止
新歓	10,000		6,593	
自治会会計へ返還			73,407	
合計	80,000	80,000	80,000	

※自治会とは別の独自会計を組むCLUB KUMANOの現在の繰越金は254,840円

### 地域連帯局

#### ・地域獲得の意識

97期からの渉外局と、それ以前のSCが取り組んでいた地域（町内会から左京区規模まで）との関係づくりを継承する局として今期も地域連帯に取り組んだ。

連帯の対象として、近場から言えば寮裏の聖護院幼稚園、川東学区の自治連合会（町内会）、2010年にくまのまつりの前身である「熊野聖護院まつり」を発起した地元の商店主の人達、さらには左京区内でイベントを催している数々の団体、などが挙げられる。

#### ・左京区内のイベントとの絡み

秋に開催される様々な外部イベントと、昨年に引き続き連帯した。

外部イベントへの参画はすべて「くまのまつり」に繋げる意識で進めた。イベント企画者、出店者、出演者など外部イベントでいろんな人と関わる中で人脈をつくり、この人脈がくまのまつりに参加してもらう、宣伝協力をしてもらう、機材協力をしてもらう、出店・出演に興味ありそうな人を紹介してもらう、など、くまのまつりの連帯の輪の拡大を目指した。

一方で、テントを貸し出すだけの浅い関係に成り下がる可能性も指摘された。くまのまつりを軸とした人間関係が引き継がれていかなければ、イベント設備レンタルを行うだけの関係になってしまう。地域活動への協力それ自体は悪いことではないが、寮自治会の活動である以上、熊野寮防衛の明確な意識を据えた活動として確立していく必要がある。

- ①「おむすび祭 omusubi sai」 @吉田神社 : 設営から当日運営まで協力。
- ②「かもがわデルタフェス」@出町柳 養正希望の広場 : 設営協力および出店・出演。
- ③「田中神社大祭」 @田中神社 : 出店
- ④「一乗寺フェスー秋まつり」: 設営協力、出店
- ⑤「紵の森ワンダーマーケット」 @紵の森 : 出店および当日運営協力。

・ワークショップくまの

おむすび祭と田中神社大祭および一乗寺フェスにタテカンワークショップで参加した。子育て層に対してくまのまつりや熊野寮の宣伝を行った。

・くまのまつり

今期は夏と秋の二回開催された。寮としては自治発信のまつりとして注力してきたが、昨今の問題意識として出店・出演者紹介が疎かになっていたことが挙げられていた。

処分問題のアピールを昨年よりさらに大きな陣形で展開したが、一方でMCの体制についても試行錯誤し、元来地域おこしと寮防衛の2本の柱で開催されるまつりとしてやるべきことを改めて考える期であった。

引き継ぎ体制などはまだまだ不十分だが、自治発信と出店・出演紹介とをどちらも充実させていく展望は見えただろう。

夏には処分問題を大々的に扱い、以下の意識を確認した。

(くまのまつりの基本趣旨)

地域住民として―①地域を盛り上げる。

熊野寮生として―②寮自治の素晴らしさを発信。

・地域社会に開かれた自治寮のあり方を目指す(根底の理念)

・寮が持つ自治空間は全ての人に益する。表現活動や市民交流の場としても。

・そのためには寮を一緒に守る人を増やす。当面は処分問題が焦点。

(処分問題はそれ単体で通用する話である)

街宣などをイメージするとわかりやすい。寮自治の前提なしでも学生不当処分の話は一般市民に通用する。大学自治の思想が身近でない人にとっても、今の日本社会の抑圧構造の一部として捉えてもらえれば共感・賛同できる部分は多いだろう。

(行動を求めるということ)

署名・カンパというわかりやすい形で熊野寮への支援を求める。それ自体が当然処分闘争の糧になるが、市民が実際に行動を起こすことで、寮を不当な攻撃から一緒に守る当事者として関わってもらうという意味もある。

また、実際にカンパや署名を求めていくことで、一致はもちろん不一致も見えてくるだろう。不一致にいかにか丁寧に向き合っていけるかが問われる。

(今期の自治会活動においてのくまのまつりの位置付け)

夏は処分話を主に扱う。いかに不当かを説明し、署名やカンパをもらう。

当日会場でいかに集めるかはもちろん大事だが、単発の取り組みでは終わらせない。寮祭への処分弾圧に全寮で対峙する、寮祭に対して一切の処分弾圧をさせない、ということを見据えていく。

総長室突入、時計台コンパ、四条大運動会などが目立っているが、究極的にはどんな企画でも処分の対象になりうる。

弾圧を回避するために時計台占拠をやめたら、その年から時計台コンパが弾圧され始めたように、前線を下げても次に目立つ企画が標的になっていく。

寮祭に参加する人に対しては処分や逮捕のリスクを説明しなければならず、同時に寮自治会としてそれに対抗する構えがあることを示し、自治会が責任をもって対処することを伝えなければならない。さらに広くは、弾圧目的の処分や逮捕の不当性を広報する必要もあり、そこに繋がる見識をより多くの寮生が実体験として蓄積できる場としてまつりを活用する。

(寮生アジ、署名・カンパ集め組織化―獲得目標)

①地域のひとにちゃんと理解してもらおう+行動してもらおう。

②若手が処分問題について自信を持って語れるようになること。

③寮祭等の大弾圧が予期される局面に向けて、処分に対峙できる自治会を組織する。

・東竹屋町町内会との関係構築

2021年度より寮自治会として3人分の町内会費を払い、町内会に正式に加入している。  
継続して町内会関連のお手伝いや、熊野神社の祭事への人員派遣、川東自治連合会（川東学区の町内会連合体）の集会所を会場とする寺子屋企画「KUMAN」の共同開催を通して町内会との良好な関係が構築されてきた。

・土地整備

寮内各地の粗大ゴミ、清掃員が処分せず集め続けている落ち葉などを大規模に清掃した。農機具等を購入し、くまのまつり関連用地を均した。また、夏まつりに向けた除草作業の手間を省き、見世物にもなるヤギを飼い始めた。冬季は飼料として干し草を購入した。

・物品貸借

地域連帯局として管理する単管、電源コード、テントなどをいくつかの外部イベントに貸借した。基本的には信頼関係のある団体を対象とし、現場で責任をとれる寮生がいることを最低条件として貸借している。なお、明らかに故意でない限り、破損時にも原則として弁償は求めないこととしているが、西部講堂でのイベントで破損した電気ドラムリールについては、財政的余裕があるため弁償するという申し出があったので特例として弁償してもらった。

・収支内訳

局には会計が存在せず、経費はSC会計からの直接支出である。決算処理についてはSC総括決算表を確認するものとし、ここでは収支内訳を掲載する。

116期地域連帯局 収支内訳				
項目	収入	支出	内訳・備考	金額
自治会会計より	¥700,348			
夏まつりカンパ等	¥33,000			
秋まつりカンパ等	¥37,466			
ほかカンパ	¥1,228			
新歓		¥11,645		
まつり		¥462,500	広報物印刷費	¥28,180
			夏まつり出演者謝金	¥76,000
			秋まつり出演者謝金	¥72,000
			夏まつり打ち上げ	¥19,634
			秋まつり打ち上げ	¥20,080
			景品ステッカー	¥4,400
			夏まつりうちわ	¥25,200



			工具類	¥41,425
			単管等	¥54,378
			夏まつり設備費	¥47,120
			秋まつり設備費	¥49,589
			まつり子ども企画補助	¥8,048
			準備・出演者差し入れ	¥7,102
			外部出店経費	¥4,614
			イベント保険	¥4,730
ワークショップくまの		¥55,843	塗料・ハケ等	
設備修繕・木材等資材費		¥77,334	テーブル天板、枠組み用木材等	
KUMAN		¥34,720		
土地整備/修繕費		¥130,000	ヤギ用ロープ・首輪・カラビナ・エサ・スコップ・バケツ・エサ入れ・レーキ・箒など	
合計	¥772,042	¥772,042		

## 増築建設局

### 1. はじめに

増員に注力した第116期増築建設局だったが、ノウハウの引継ぎなどがうまくできたわけではなかった。

### 2. 設置コンテナについて

今期は感染症隔離に使われた。窓を改修した。

### 3. 現在建設中の臨時キャパシティについて

寮生複数名が有志で始めた建設計画であったが、寮にとって有意義なものとするために、増築建設局で扱うこととなった。これについては引き続き検討する必要がある。

### 4. 狂奏祭・CLUB KUMANO

結果的に今期の活動の中心となったのは、他局との連携である。狂奏祭では寮外連携局からの依頼を受け、イントレの仮組みや当日設営の一部を補佐した。

### 5. 会議

今期の新たに始めた取り組みとして、定例会議を開催したことがある。会議は原則月曜20時半から開催したが、局員が集まらず、開催されない週も多くあった。

### 6. 新歓費について

局員が追加予算請求の手順を誤って把握していたため、追加予算請求が遅れ、期限内に予算をとることができなかった。再度このような事態が発生しないよう、今後局内の周知を徹底する。

## 7. 支出内訳

今期増築建設局は予算を使用しなかった。

## 寮外連携局

### 0.はじめに

1971年6月の中央教育審議会答申で文部省に「紛争の根源地」と断定された「学寮」である熊野寮の自治を守っていくためには国策としての寮潰しに対抗する必要がある。そして、そのためには寮生のみならず寮外への団結の拡大が必要であり、熊野寮ではこれまでに地域連帯局・国際交流局・広報局などが主にそうした活動をおこなってきた。寮外連携局は学内での自治寮防衛の団結をより大きい物にするために寮外の学生を主なターゲットとし、イベントという手法で団結の拡大を目指している。

寮外連携局がイベントを主な手法として団結の拡大を目指しているのは、イベント特有のメリットがあると考えているためだ。

それは大きく2つあり、寮に実際に連れてくることができることと体感的な自治発信ができることだ。

熊野寮と関わりのない寮外生もイベントというきっかけ、それも魅力的なイベントであれば興味を持って(好意的に)寮を訪れてくれる。そして、寮に実際に来てもらうことに成功すれば、寮への親近感や実際に寮を訪れた感想(それが好意的であれそうでなかれ)を覚えてくれるだろう。また、そこで生まれる寮生との交流によって寮についてよく知ってもらうこともできる。とにかく連れてくることはそれ自体で一つの広報になる。

また、寮の自治発信は現状、多くが言葉によるものである。しかし、イベントという場での体験は、それは自治の精神によるものであるという知識さえ与えれば強く効果的な自治発信になると考えている。学生が自治の精神のもとで自主的・主体的につくったイベントこそが学生の自治の精神の魅力の表れとして強く映し出されるだろう。

115期に立ち上がった寮外連携局はこれまでの実践の中でこうした考えを構築し、試みてきた。

### 1.総論

116期の寮外連携局では京都学生狂奏祭(付随して、映画チア部との映画上映会)、yoeiリリースライブ、京大ダークjazzライブの3つのイベントを行った。これらのイベントの運営段階で、多くの寮外生や今まであまり表に出てこなかった寮生が継続的に参加した。また、狂奏祭総括でも確認したように、寮のイメージアップには十分な効果を出せた。

イベント自体の成功や好感度上昇などには成功した一方で、やはりそこからの深い獲得には課題が残った。

### 2.各論

イベントごとの総括を確認する。

#### 2.1.京都学生狂奏祭

1000人以上の来場者数を記録したこのイベントは、これまでの寮外連携局の一つの到達点であると考えている。32の寮外団体の出演、浪漫革命やパソコン音楽クラブなどプロアーティストの出演、吉田寮や西部講堂との連携など寮外に大きく輪を広げるきっかけを作ることができた。イベントそれ自体の規模・完成度とイベントという広報戦略としては今までの寮外連携局で最大だったと考える。一方で、狂奏祭を通じてイベントという手段での限界が見えたことも確かだ。イベントという短時間・単発の場でどうやって深い獲得を狙っていくか、熊野寮の団結を大きく強いものにしていくかは一朝一夕に答えが出て実践できる問題ではないとわかった。

#### 2.2.yoeiリリースライブ

115期のサークル合同新歓から繋がりのある寮外バンドのyoeiのリリースライブでは狂奏祭での反省を踏まえて、転換時の学習会とライブ終了後のコンパなど新たな施策を試みた。ただし、「熊野寮でのイベント」という認識ではなく「yoeiのライブ」という認識でくる人が多かったため、誘導や学習会が行いづらかった。事前広報からの戦略的な獲得が必要だとわかった。

### 2.3.京大ダークjazzライブ

昨年から繋がりのある京大ダークのjazzライブを行った。京大ダークの集客力により多くの来寮者(神戸等からも含む)を獲得できたが、ダークとの情報共有や来客の誘導に課題が残った。また、寮開催のイベントでありながらも、寮生の参加者がダーク関係者よりも圧倒的に少数であり、寮内での広報の必要性を感じた。

### 2.4.芸術祭

今期では予定していた芸術祭は準備期間の短さなどから開催しなかった。

### 3.今後の課題

116期の活動の中では引き続き寮への深い理解は作れないでいる。イベントとしての成功やイメージアップには十分な結果を示せているので、より貪欲に自治発信をイベント内に組み込んでいく。

### 4.決算案

決算案は以下の通り。

項目	収入	予算	支出	備考
自治会会計より	¥90,000			
上映会		¥10,000	¥491	
京大ダークライブ		¥30,000	¥30,000	
雑費		¥50,000	¥46,406	主にyoeiリリースライブ及び秋新歓費に支出した
音楽祭	¥2,713,105		¥2,540,273	収入は借入を含む、また支出には返金分を含む
自治会会計に返金(イベント等利益・カンパ)			¥172,832	
自治会会計に返金(予算未使用分)			¥13,103	
計	¥2,803,105		¥2,803,105	

## <専門部>

### 文化部

【始めに】

今期の方針において文化部は寮生間のつながりを増やし団結を深めるためにあると書いた。それを様々なコンパ、そして寮祭などの場において強く感じる事ができたという意味で文化部としてはうまくいったと感じる。ただコンパの運営や料理人がかなり固定化してしまったのは反省すべきである。寮生間のつながりを深めるのが文化部の役割であるが、その中に100人規模の企画を運営するというやってみないとわからない楽しさがあるというのを伝えていくのが今後の課題である。

#### 【企画一覧】

- ・恒例企画
  - 七夕コンパ
  - 津々浦々コンパ
  - 文化部秋新歓
  - なすさんまコンパ
  - 麻将皇帝戦
  - ピザ窯コンパ
  - 古本市
- ・持ち込み企画
  - 熊野大運動会
  - 鴨川遊び&BBQ
  - 民青池掃除
  - KMN新歓
  - 井ものコンパ
  - 介抱学習会

#### 【恒例企画について】

今期も夏休みから寮祭にかけての企画をおよそつつがなく行うことができた。ただ今期は寮祭が近づくとつれ1回生が忙しくなっていたので、もう少し上回生へのアプローチをすべきであった。また去年もそうであったが特に夏休み末は各部局委員会のイベントが多く、そのまま新歓期に入るので周知が直前になりがちであったというのは来年に引き継ぎたい。

#### 【持ち込み企画について】

今期は寮生の溢れんばかりのイマジネーションが寮祭に向かったのもあり、前期よりも金額としては余った。ただ理由として持ち込み企画への敷居が高かったというのは大きな要因の一つであろう。今期が始まってすぐにブロック会議に議案を出してはいたが、寮祭企画のgoogleformのようにもう少し気軽に企画を出せる形にすべきであったと寮祭企画を見ていて感じた。

#### 【文化部管轄の物品について】

今期は新たに文化部棚を一つ増設し、そこにコンパで持ってきたまま残されていた食器等を置く場所とした。また相変わらず一回のコンパで使いきれなかった調味料が増えていったということもあり買い出しマニュアルを作ろうとしていたが、今期は作れなかったので来期に持ち越したい。

#### 【決算について】

下記の決算表を参照。今期は収入が¥1,109,006、支出¥1,109,006、残高¥240,698であった。ただ残念ながら2250円の損金が発生した。文化部は寮の中でも多額の金額を取り扱う部会であるので、お金の管理は十分に気を付けたい。持ち込み企画については【持ち込み企画について】で述べた理由により、偶数期には奇数期より減らした方がよいのかもしれない。

#### 【B地下セクションについて】

今期のB地下セクションは、以下の方針のもとに活動を行った。

- 1.B地下について問題意識のある人がいれば話し合った。

2. 今期は、B201安田、A101中川によりB地下は管理された。
3. 硬鉄庵の使用目的に関しては、政治的及びプライバシーに関する項目が優先された。
4. 私物に関しては、話し合いながら残したり減らしたりしていった。退出時にガサ物は残留させない。
5. ドライスペースは必要に応じて掃除した。
6. 廊下の防火扉は、音楽室利用時には騒音防止のため閉めるよう徹底した。

今期も、人権擁護部による利用があったほか、音楽室でのライブやCLUB KUMANO、鉄扉コンパなどのイベントが開催される際などには、硬鉄庵を解放した。今期は、寮外の団体を招いた音楽イベントなども多数開催され、これまでより多くの人々にB地下空間を解放できたと言えるが、その分、使用開始・終了時刻などがセクション長に伝わってこないなど、一定の課題も生じた。B地下を利用したい人は、できるだけ早い段階からセクション長に連絡を取るようにしてほしい。

また来期のB地下セクションの担当は、図書室長江、A101中川となる。

### 【第116期音楽室利用者会議 (MUC) 総括案】

#### 目次

1. 総論
2. 各論
  - 2-1. 会議運営
  - 2-2. ライブについて
  - 2-3. 各種企画
  - 2-4. 機材について
  - 2-5. 機材等貸し出しについて
3. 決算

#### 1. 総論

まず、音楽室利用者会議 (以下MUC) の存在意義について述べる。MUCの存在意義は全人民に開かれた音楽活動の場を提供することと、音楽の力で団結を拡大することである。前者は毎週の会議による音楽室の管理や、ライブを運営することによって達成される。特に重要なのは後者である。ここでいう団結とはただ仲良くすることではなく、今の熊野寮が存在するのは自治の力であるということを認識し、自治寮防衛のために意思を同じくして活動していくことを指す。自分たちでライブを作り上げ、そして出演者、観客が双方に盛り上げるといことは自治によってはじめて成し得るものである。これを全人民と確認できる組織がMUCである。

116期ではある程度団結が拡大できたように思う。毎回、ライブではたくさんの人が来て盛り上がった。特に寮祭ライブでは寮祭をがんばった新入寮生がトリの全寮1回生バンドで盛り上げ、最後に寮祭実がステージで寮祭ががんばったねと言っていたシーンは感動的だった。しかし、ライブの最初のほうでは人が少なかったり、設営に人が集まらなかったりという点で団結を拡大するという目標が完全に達成されたとは言えない。来期以降さらに団結を拡大していきたい。

#### 2. 各論

##### 2-1. 会議運営

毎週月曜21:30-22:00に会議をおこなって音楽室の管理やライブの運営について話し合った。方針に述べたように22:00から始まる文化部会議と重ならないようにするということは今期は達成できなかった。それは、今期はライブの獲得目標を決めてそれを会議で共有、議論するというを行ったことや、水上ライブの開催の是非に関する議案が出されたことなどにより、話し合うべきことが増えたことが原因であると考えられる。効率的

な会議運営をして時間を短縮したり、それでも30分以内に終わりそうにないときはあらかじめ文化部と折衝したりすることにより、文化部会議と重ならないようにしたい。

## 2-2. ライブについて

今期はもともと予定していた夏フェス、くまの夏の夜まつりでのライブ、秋新歓ライブ(ハロウィンライブ)、くまの秋まつりでのライブ、寮祭ライブに加えて、秋の新歓費と不定期ライブ費を用いて水上ライブを主催した。詳しくは総括議案を見てほしい。過去に行ったライブの映像は次のリンクにまとめられているので見て楽しそうだなと思ったらぜひライブにも足を運んでほしい。

<https://docs.google.com/spreadsheets/d/1-hU-bMhvgEb7SQdgMdRuc6p58H0lsmyaSFNS5xpzCa4/edit?usp=sharing>

(※リンクの転載・寮外共有禁止)

今期は各ライブに獲得目標を設定した。この獲得目標で今回のライブではどのようにして団結を拡大していくのかというのを確認しようとしたが、会議運営の拙さなどから完全に確認できたとは言えなかった。来期からは会議を通じてこの獲得目標を構成員全体で確認してライブを行いたい。

モッシュに関しては今期の前半のライブでは注意点をまとめてライブ前に音楽室LINEや全寮LINEを用いて周知した。後半のライブではある程度周知がされたと考えたため改めて周知をすることは行わなかったが、来期の春の新入寮生が入った時にまた何度か周知して忘れないようにしたい。

設営やPAに関しては、今期のライブは転換時間を5分にしてタイムテーブルを作成してライブを行った。ほとんどのライブが大きな遅れがなく時間通りにライブを終了することができたが、そうではないライブも存在した。それは音楽室外で行うライブにおいて設営に時間がかかって開始時間がそもそも遅れることが原因であった。近年、ライブの出演バンド数が増えたことによりライブの開始時間が早くなっているため、設営開始時刻が午前中になることもあり、設営開始時刻に人員を集めることが困難になっている。しかし、MUCは自主管理貫徹、つまり、自分たちで管理、運営することによって成り立つものであるはずだから構成員全員が設営に携わっていくべきである。今後はこの自主管理貫徹の意識を構成員全体に共有して設営開始時刻にかかわらず構成員全員が設営に携わり、予定通りの時間にライブを始めることができるようにしたい。PAの知識等、技術的なことについては1回生を中心に若手が習得してきているので継続して引き継いでいきたい。

水上ライブに関して、民青池でライブをすることを禁止するという議案がブロック会議に提出された。この背景にはMUCの防音への意識の低さがあった。詳しくは水上ライブの総括をよんでほしいが、ライブの音がうるさいと感じる人と対話しながらともに納得できる形でのライブを模索していきたい。

## 2-3. 各種企画

今期はケーブル自作講座をおこなった。

ケーブル自作講座についてはケーブルを自作することがギタリストやベーシスト個人にメリットがあるだけでなく、ライブ運営においても役に立つ技術であるため能力者を増やすために行った。具体的な内容は理論編でケーブルは自作できることとケーブル自作のメリットを説明し、実践編で実際にシールドを自作する実践も行った。質の高いものを自作しようと思ったら慣れが必要であるためそれを自作できる人を育成することはできなかったが理論編で説明した内容は参加した数名に理解してもらえたので良かった。

## 2-4. 機材について

今期は壊れた機材を新しく買ったり構成員から買い取ったり、あらたに必要なものを買ったりした。それに加えて故障していたギターアンプのMarshallも修理した。

115期に購入した100mのマイクケーブルや端子が壊れているスピーカーケーブルを活用し、端子のみを買って自作し、技術によって出費を減らして必要なものを揃えていった。

構成員から32チャンネルのミキサーを寄付してもらったためこれを活用していきたい。

Marshallの修理に関しては修理に必要な真空管が世界情勢による供給不足で価格が高騰していて、修理費用が高額になった。しかし、今期見つけた楽器店に修理の相談をしに

行くと店長さんがとても丁寧に対応してくださり、今回の修理の話もそれ以外の話も様々な相談をしていただいた。信頼できる楽器店だったため修理費用が高額ではあったが修理を依頼した。修理が寮祭ライブの直前に終わったため寮祭ライブで修理済みのMarshallを使用した問題なく使用でき、それだけでなく、汚れも取られていて丁寧な仕事をしていただいたと感じたため、今後もこの楽器店と連帯していきたい。

国際交流局と機材の貸し借りをしてお互いのライブを良くしているが、夏フェスでスピーカーを借りた際に変な音が出るという異常が確認された。その後確認したら明かな故障はしていなかったが心配である。高価な機材であるため責任をもって扱いたい。

機材の知識について、今期機材に詳しい構成員が退寮してしまうため若手を中心に引き継いでいきたい。さらに、必要に応じて上にMarshallを修理してもらった楽器店に相談したい。

#### 2-5. 機材等貸し出しについて

今期は狂奏祭、yoeiリリパ、west祭、北部祭、Dark Jazzライブに機材を貸し出した。機材を貸し出すだけではなく北部祭では北部祭実行委員と、狂奏祭とyoeiリリパとwest祭とDark Jazzライブについては寮外連携局等ともに連帯して運営するという形になった。しかし、MUCからは積極的な寮外の獲得はあまりできず、一部の少数の構成員のみが運営に携わるという形にとどまってしまった。来期からはMUCとして積極的に寮外を獲得していきたい。

#### 3. 決算

音楽室利用者会議には積み立てているお金が存在する。機材故障等対応積立金、カンパプールである。

機材故障等対応積立金は高額な機材が故障した際に対応するために99期から每期積み立てているお金である。いままで高額な機材が故障したときに新しいものを購入したり、音楽室整備費が尽きているときに新しいものが必要になった時に使用してきた。今期はギターアンプのmarshallの修理等に全額使い、2023年12月14日現在で残額は0円である。内訳は表を見てほしい。

カンパプールは毎回のライブでのカンパの余りを保管しているものでライブでの赤字の補填や機材の整備などに用いる。今期はライブで44,434円の収入があり、機材の整備で73,661円の支出があり、今期終了時点での残額は71,232円である。

積み立てていないものの決算については決算表を見てほしい。

#### 第116期文化部決算表

項目	収入	予算	支出	差額	備考
自治会会計より	¥960,000				
第115期より繰り越し	¥141,668				
七タコンパ		¥80,000	¥80,000	¥0	

津々浦々 コンパ		¥65,000	¥45,472	¥19,528	
文化部秋 新歓		¥25,000	¥24,969	¥31	
ナスサン マコンパ		¥140,000	¥126,305	¥13,695	
ピザ窯コ ンパ		¥60,000	¥53,049	¥6,951	
麻将皇帝 戦		¥20,000	¥19,577	¥423	
持ち込み 企画費		¥400,000	¥242,657	¥157,34 3	
スポーツ 用具費		¥5,000	¥0	¥5,000	
仕事問題 検討費		¥6,000	¥4,890	¥1,110	
物品購入 費		¥40,000	¥17,600	¥22,400	
夏フェス		¥30,000	¥30,000	¥0	
秋新歓ラ イブ		¥30,000	¥30,000	¥0	
寮祭ライ ブ		¥40,000	¥40,000	¥0	
熊野夏の 夜祭り		¥2,000	¥2,000	¥0	



熊野秋祭り		¥2,000	¥0	¥2,000	
水上ライブコンパ		¥30,000	¥29,544	¥456	新歓費(¥10,000)と不定期ライブ費(¥20,000)を使って開催された
音楽室整備費		¥100,000	¥100,000	¥0	
機材故障等対応積立金		¥20,000	¥20,000	¥0	
雑費		¥7,461	¥0	¥7,461	
古本売り上げ	¥7,338	¥0	¥0	¥0	
損金		¥0	¥2,250	(¥2,250)	
117期へ繰り越し		¥0	¥240,693	¥0	
総計	¥1,109,006	¥1,102,461	¥1,109,006	¥240,693	

#### 116期機材故障等積立金

項目	収入	支出
115期より	¥63,304	

項目	収入	支出
文化部会計より	¥20,000	
シンバルスタンド		¥20,000
ギターアンプ修理		¥62,132
コネクター類		¥1,172
117期へ繰り越し		¥0
総計	¥83,304	¥83,304

## 炊事部

### [目次]

1. 総論
2. 各論
  - 2-1. 喫食数
  - 2-2. 食堂環境
  - 2-3. 炊事当番
  - 2-4. 寮祭企画
  - 2-5. 寮食人気投票
  - 2-6. 炊事場清掃
  - 2-7. 部会新歓
  - 2-8. 朝食ダービー
  - 2-9. 厨房問題
3. 決算表

### 1. 総論

食堂は寮自治の根幹となる場所である。寮食堂の衰退は寮自治の衰退に繋がる。今期は様々な企画を催し、厨房で起こっている問題を部会で取り上げることにより、食堂の衰退を防ぎ、活気づいたものになるよう努めた。以下、今期に執り行った施策を挙げていく。

### 2. 各論

#### 2-1. 喫食数

毎週の炊事部会毎に次週の食数についてデータを見つつ議論を行い、調整した。10月あたりから売れ行きの低迷が見え始め、ポテッカードを書く、放送で呼びかける等で対策した。主菜が魚の日は売れ行きが悪く、選り好みが見られる。寮生全体が喫食に対して主体的な意識を持つ事が肝要である。11月には大規模な風邪の流行が見られ、寮食運搬を炊事部主導で行うことになり、マニュアルが作成された。喫食数向上のためにも、何かしらの原因で食堂に入れない人に対しての措置は行っていきたい。

## 2-2. 食堂環境

7月にハエ取り紙を交換、扇風機の購入を行った。11月からは扇風機をしまい、ヒーターを出した。寮祭前は同釜会から食堂東側の清掃を任せられ、炊事部会後、東側に溜まったゴミを掃除した。部会全体で食堂を掃除するのは環境の向上に繋がる。今後も行っていきたい。

## 2-3. 炊事当番

各ブロックの炊事部員が炊事当番の週ごとにシフトを作成してくれた。シフトに関して、人が足りないと応援を求める旨が炊事部LINEに投稿されることがあった。炊事当番は1日あたり11分の手が必要になる。積極的に当番に入ってもらいたい。

## 2-4. 寮祭企画

炊事部として次の企画を出し、それぞれ炊事部の一回生が主体となって運営した。詳細はそれぞれの企画総括に準ずる。

- ・全寮コンパ
- ・nグラム計れ
- ・寮食クイズ
- ・ドレッシングまつり
- ・ケーキコンパ

## 2-5. 寮食人気投票

寮食への関心喚起、喫食率が減りがちな試験終わりの喫食率向上を目的に7月に行われた。

昼、夜寮食の投票が行われた。有志によって朝寮食の人気投票も行われた。早くからメニューを出す日程を決め、厨房に伝えることが重要。準備が遅かったため、投票期間を一回しか設けられなかったのが悔やまれる。

## 2-6. 炊事場清掃

夏休みの9月中に炊事場清掃を行った。清掃用具は厨房に貸してもらい、寮生のみで行った。日時を希望するも清掃を忘れていたブロックが見受けられた。衛生の観点からも炊事場清掃を行わないのは良くない。リマインドが必要である。

## 2-7. 部会新歓

人権擁護部とともに合同新歓を行った。秋の新入寮生が誰一人として来なかった。各ブロックの部員に周知をするよう求めるのが必要である。

## 2-8. 朝食ダービー

朝寮食の喫食推進のため、11月に朝食ダービーを行った。朝寮食が売り切れるほどの盛り上がりを見せた。

## 2-9. 厨房問題

7月～8月

厨房員のS氏がハラスメントを行っている疑いがある。と炊事部に報告が来た。炊事部、常任委員会主導で動き、他厨房員に話を聞く、議案をあげ情報提供を求める、といったように動いた。結果、ハラスメントの断定は出来なく、S氏との話し合いは行わなかった。

7月下旬

S氏が厨房内の休憩場所が暑く、クーラーをつけるために勝手に業者を呼んでしまった。

11月

新しい厨房員さんのMさんと面談しようとするも、栄養士S氏を通して面談の日程を決めていなく、断られた。

労働環境の悪化は厨房員の離職に繋がり、寮食堂の衰退に繋がる。食堂の諸問題だけでなく厨房の労働環境に目を配っていきたい。厨房と寮生の信頼関係、厨房員からの自治寮への理解があれば、上記のような問題が起こった時に厨房側から改善を求めてもらう事が可能である。全寮コンパに厨房員さんが来てくださり、次第に寮生と厨房の距離は縮まっているように感じる。来期はもっと距離を縮めていきたい。

### 3. 決算表

決算表は以下の通り。

項目	予算(円)	収入(円)	支出(円)	
第115期から繰越		29,523		
自治会会計より		200,000		
部会新歓	15,000		14,666	
朝食ダービー	15,000		10,738	主に景品代として
全寮コンパ	150,000		148,140	以下寮祭企画
全寮コンパでのカンパ		3,686		
ケーキコンパ	30,000		27,583	
ドレッシング祭り	10,000		9,898	

ngはかれ	1,500		2,150	
寮食クイズ	1,500		1,260	
キーボックス代	2,000		1,683	
雑費	4,523		177	主にヒーター差し込みプラグ代として
第117期への繰越			16,914	
合計	229,523	233,209	233,209	

## 庶務部

### 1. 全体としての活動

#### ・在寮証明書の発行

在寮証明書が必要な寮生に対して在寮証明書を発行した。

#### ・事務室備品管理

事務室の備品の補充（ケトル、文具、飲料等）を行なった。

今期も引き続き事務室用品費を多く請求したが、計画していた泊まり事務当の環境改善を大幅に進めることが出来なかったため、多く余ってしまった。

#### ・事務室に置く雑誌の購入

今期では定期的に雑誌を購入した。

期の後半は月1で書籍購入を行うことができたが、前半の3か月分については、諸々の怠慢で11月に一斉購入することになってしまった。引き続き、書籍購入の担当者を適正に定め、明確にした上で、方針に沿った活動ができるように努める。

#### ・荷物アプリの運用

寮生情報の編集（退寮、部屋移動など）を行った。

#### ・放置自転車の撤去

今期も放置自転車の移動を行った。具体的には、駐輪場の自転車にビニールひもをつけ、一定期間後もひもがついたままの自転車に関して、C棟北側に移動、トラロープで隔離した。

#### ・短期駐車場の整備

毎週の部会後に、短期駐車登録と枠内の車の照会、および短期駐車登録の事務当番控えの整理を行った。輪留めを購入した。また料金の定期的な回収を行い、自治会会計に納入した。これまで短期駐車制度には「新入寮生等は、駐車場利用者会議での登録が済むまでの間一時的に短期駐車をする場合は、短期駐車料金は免除とします。」という条項があったが、諸々の事情で駐車場利用者会議が無期限で延期となっており、短期駐車のカパシティが長期にわたり圧迫されてしまうため、11/23付けで一時的に停止した。

## 2. 恒常業務

### ・自転車整備

部会後に、白線からはみ出している自転車の位置を直すなどして駐輪場の整備を行った。これは車両などが寮の玄関前を安全に通行できるようにするためのものである。

最近では白線からはみ出す自転車やポールにチェーンを括り付けて停めている自転車（はみ出している自転車が多い）もあるため対策が必要である。

また、寮生の要望に基づき、先期に引き続き、ロードバイク用スタンドの増設を行った。しかし、現在は復旧したものの、設置後まもなく、寮生が自転車を停めるために、スタンドを無理やり奥に押し込み続け、結果崩壊してしまい、スタンドの更なる増設への疑義が呈されたため、一個しか購入しなかった。

### ・荷物確認

部会後に、事務室の荷物や荷物アプリへの登録が正しく合致するかをブロックごとに確認した。

### ・各種用紙の補充

各月初めの部会終了後に事務当日誌や短期駐車登録用紙などの用紙の補充を行った。

### ・事務当布団の洗濯

毎月一度、泊まり事務当用の寝具の洗濯を行った。

### ・荷物管理アプリのデータのバックアップ

毎週の部会後に庶務部長に荷物管理アプリのデータをSlackで送信しバックアップを行った。

## 3. 新歓について

10/18に毎期恒例の餃子新歓を行った。詳細については庶務部新歓総括を参照してください。

## 4. 決算表

以下の表に掲載

	収入	支出
115期からの繰越金	72,271	
自治会会計より	52,000	
短期駐車料金	29,920	
短期駐車料金(自治会会計に返上)		29,920

事務室用品費		7,322
駐輪場整備費		16,380
書籍費		11,561
新歓費		14,934
短期駐車場整備費		9,110
雑費		
第117期へ繰越		64,964
合計	154,191	154,191

## 厚生部

### 1. 全体総括

前期に引き続き、恒常業務に加えて新型コロナウイルス感染症(以下コロナとする)関連の対応を行った。

今期は当初の部長が途中で部長をやめたため、他2人で部長の仕事を分担する体制となった。

### 2. コロナ等感染症対応総括

従来と同様、コロナ感染が疑われる事例の場合は、抗原検査を行い、可能であれば隔離を行った。

今期は、厚生部の予算ではなくSCの予算ではあるが追加予算請求を行った。コロナの隔離で使用する東門付近のコンテナにインターネット環境がないことが居住性を下げているため、5万円の追加予算請求を行い、アクセスポイントを購入してB12のKumaLanから無線でコンテナにインターネット環境を提供することにした。

また、抗原検査キットなどに充てられるコロナ対策費に関して、5万円の追加予算請求を行った。追加予算請求を行った原因は、当初の想定よりコロナ感染が疑われる事例が多くあったためである。

なお、追加予算請求の際は部内でのミスが多発し何度か議案の投稿を間違える・忘れるような事態が発生したため、以後気をつけたい。

### 3. 各部門総括

#### 3.1. シャワー部門

・シャワーカードチャージを原則毎週月・水・金の2145-2215に各ブロック厚生部員持ち回りで行った。

・退寮者にシャワーカードを返却するよう、ブロックラインを用いて周知した。

・新規シャワーカードにシャワー番号を記載したラベルを印刷し添付した。

・今期は新規シャワーカードを購入しなかった。

・入寮オリエンテーションの日に新入寮生にシャワーカードを販売した。

・期末にシャワー局口座から自治会会計にガス代を引き渡すことになっていたが、動き出しが遅く通帳を誰が持っているかわからず混乱するなどのトラブルもあった。結局代議員会直前に自治会会計に引き渡し、二回目の自治会会計監査までに間に合わすことができたが、来期以降は早

めに動いて引き渡しを忘れないようにしたい。なお、自治会会計に拠出したガス代は913,000円であり、シャワーカードのデポジット用として残されている口座の残額は709,357円である。

- ・シャワー室清掃を10月に実施した。なお、この際厚生部が消防点検の予定と被っていることを見逃していたため問題となった（結果的には他の要因で消防点検の日程が動き解決された）。また、シャワー室清掃の直後に民青池に人が飛び込むコンパが開催されたため、少し悲しい気持ちになった。前期でも屋上清掃が他のイベントと被る事態があったため、以後気をつけたい。

- ・シャワー室内のかご、カーテン、マットを買い替えた。

- ・シャワーカードチャージの実施遅れに対応するため、当日に厚生部LINEにてリマインドを行うようにした。この結果、実施遅れなどは多少マシになったように思える。当初は部長が行っていたが、現在は負担軽減のため別に担当者を立ててリマインドを行っている。

- ・シャワーのサッシを交換する工事を行った。

- ・男子シャワー室の陥没した床の工事はまだ進んでいない。

- ・シャワーチャージPCのバッテリーが古くなっており、その対応に関して議論したが、OSを変更した際のシャワーカードチャージアプリの動作確認で手詰まりになり、一旦先送りになった。アプリ開発者の力を借りればなんとかなる見込みがあるので、117期に再び取り組む予定である。

### 3.2. 物品補充部門

- ・前期で夜間の便宜のため事務室から文化部棚に移動させた医薬品を、さらに食堂PC裏に移動させた。

- ・自主清掃用具の購入費として各階5,000円を配布した。B1のみ10,000円とした。今期は自主清掃費の使い忘れが多かったため、共益費ではなく自主清掃費から物品を購入できることを周知するとともに、厚生部員が率先して物品の購入を行うようにしたい。

- ・設備修繕・物品補充は正常に実施された。

- ・炊事場、トイレ等の水回りの不具合を全寮的に集計し、まとめて修理を行った。

- ・守衛さんに補修・補充のために必要な現認を取る手順を知っている人が少なく現認が滞ることがあったので、現認マニュアルを作成した。効果はあったと思うが、依然として動く人は限られていて現認のプロセスが滞ることがあったので、日頃の交流を通じ部員を獲得し現認に実働してくれる寮生を増やす必要がある。

- ・厚生課による検査・検収の人集めが徹底されていない問題に対応するため、各ブロックに担当者を設定し、担当者で構成されたLINEグループを作った。熊野寮は巨大でなかなか各ブロックの事情を全て把握することは難しいが、各ブロックでの担当者の設定により補修・補充の流れも改善されたように思える。

- ・当局から7月に廃蛍光灯管の回収の話が回ってきたが、段ボールに詰めた上で有料で回収されるという話だったため、結局当局の手は借りず京都市の拠点回収に出した。

- ・今期はネズミによる被害が例年に比べても著しく大きかった。被害は特にA棟を中心としており、寮の裏の畑から厨房に向けてネズミが行き来していると思われる。非常口のドアを閉めたり、当局を通じて業者にトラップを設置してもらうなどの対策を行い、B・C棟ではおおむね被害は解消されたものの、A棟ではまだ被害が続いており、現在は再び業者に対策を依頼している状況である。



- ・今期もまた、女子シャワー室増設に関しては放置気味になってしまい、あまり進展はなかった。長期の交渉が必要となりそうな問題だが、次期以降本腰を据えて取り組む必要がある。
- ・ある部屋の内部が浸水したという件が厚生部に持ち込まれたが、上階のエアコンの排水を処理したところ浸水が止まったため、厚生課に補修の依頼は行わなかった。将来的に同様の事例が起こった場合は、エアコンの排水を疑うことを忘れないようにしたい。

### 3.3 衛生部門

- ・人権擁護部と協力しお掃除デーを実施した。
- ・くまのまつりのゴミ処理を手伝った。なお、11月の回では各店舗が自ら京都市のゴミ袋を持ち込み、そこに全てのゴミを捨ててもらうこととしたので、厚生部はほとんど関わらなかった。
- ・当局からアスベストが寮内に残存しているかを調べるための検査の依頼が来たため、対応を行った。厚生課の職員を立ち入らせないため、寮生が触って素材を確認し、破れのある箇所は厚生課に写真を送って確認するという方法をとった。結果としてはアスベストは見つからなかった。なお、熊野寮は既に大部分のアスベストが撤去されており、またこの検査も過去に定期的に何度も行われてきたものである。

### 3.4 その他

- ・寮内で蜂を飼っている寮生が存在し、その蜂が部屋に入ってくる事例が厚生部に持ち込まれたが、飼い主により自主的に撤去されたので厚生部としては対応を行わなかった。

## 4. 粗大ごみ処理総括

粗大ごみ処理については、専用の班を結成し、寮生からアルバイトを雇って行った。具体的な業務としては、粗大ごみを京都市のクリーンセンターへの持ち込み、粗大ごみの解体や分別などによる粗大ごみ置き場の整理を行った。また、粗大ごみ処理班のグループLINE内で呼びかけてもなかなか寮生が集まりにくい事態を解消するべく、全寮LINEなどで大々的に新しいアルバイトを募集した。

今期は不法投棄やルールを守らない捨て方が目立ったこと、業務が追いつかず粗大ごみ置き場が拡大し、車への影響が出たことが反省点として挙げられる。来期は入寮オリテやボテッカーでのルール周知の徹底、定期的な粗大ごみ置き場整理の呼びかけにより改善を図りたい。

最近ではクリーンセンターの持ち込みのルールが厳しくなったり、熊野寮が目をつけられたりしていて、今のごみ処理体制の不安定さが露呈しているが、可能な限り維持していけるように尽力していきたい。

## 5. 新歓

秋の新入寮生が入ってきたので、厚生部の魅力を紹介するため厚生部新歓を開催した。詳細は過去議案を参照されたい。

## 6. 決算表

以下を参照。

第116期厚生部決算表

	収入(円)	予算(円)	支出(円)
自治会会計より	¥420,000		
第115期からの繰越金	¥381,046		
A1自主清掃		¥5,000	¥3,855
A2自主清掃		¥5,000	¥5,000
A3自主清掃		¥5,000	
A4自主清掃		¥5,000	¥4,943
B12自主清掃		¥15,000	¥658
B3自主清掃		¥5,000	¥3,857
B4自主清掃		¥5,000	¥4,998
C12自主清掃		¥10,000	
C34自主清掃		¥10,000	¥9,977
粗大ごみ回収		¥300,000	¥100,500
ゴミ袋購入		¥350,000	¥280,000
シャワー室備品購入費		¥30,000	¥13,972
医薬品等購入費		¥20,000	¥13,985
吐瀉物処理備品購入費		¥5,000	
新飲費		¥15,000	¥15,000
寮内清掃費		¥10,000	

雑費		¥6,046	¥3,418
カンパ	¥2,161		
第117期へ繰越			¥343,044
計	¥803,207	¥801,046	¥803,207

#### 粗大ゴミ処理部門決算表

項目	収入(円)	支出(円)
厚生部会計より	¥300,000	
粗大ごみ回収費		¥9,500
整備作業費		¥57,500
ガス代		¥3,000
ドライバー代		¥10,000
ドライバー補助作業費		¥10,500
厚生部会計に返還		¥209,500
計	¥300,000	¥300,000

#### 厚生部秋新歓決算表

項目	収入(円)	支出(円)
厚生部会計より	¥15,000	
食材等		¥7,412
酒・ソフドリ		¥6,886
お菓子		¥2,281
カンパ	¥1,579	
厚生部会計に返還		¥0
合計	¥16,579	¥16,579

## 人権擁護部

### 目次

- 1.はじめに
- 2.部会の運営について
- 3.弾圧対策
- 4.防犯・防災
- 5.ハラスメント対応・仲裁・救護
- 6.決算

#### 1.はじめに

人権擁護部は、警察や大学当局といった外部権力からの暴力に始まり、災害や寮内事故、さらには寮での共同生活におけるハラスメントに至るまで幅広い問題に対処し、特に弱い立場にある人に寄り添うことで「すべての寮生が不快な思いをせずに生活できるように」という理念を実現するために活動している専門部である。

以上の理念のもと、人権擁護部は、新入寮生オリエンテーションを出発点に継続的な学習会で活発な議論を促すこと、家宅搜索や逮捕・勾留による外部権力からの人権侵害に対応すること、防犯・防災態勢の整備や相談受付によって寮自治会の福利厚生機能を維持・向上させること、などの業務を精力的に行った。

#### 2.部会の運営について

今期の部会も、原則として毎週火曜の22時から1時間程度、食堂で行った。別の会議との兼ね合いで調整が必要な時は、適宜対応した。夏休みも部会を行うことで、部員に部会出席を習慣化させ、その後控えていた防災訓練や寮祭に向けて話し合いを進めることができた。

今期も「弾圧対策局」「防犯防災局」「ハラスメント対策局」の3つの局及び各々の局長を設置した。部員を各局に振り分けるという形ではなく、各局の業務領域に関わる学習会の企画・開催を局長中心に進めるなどして、多岐にわたる人権擁護部の業務を分担し、その理念を継承することを目的としたものである。方針では各局長に学習会や企画などそれぞれ少なくとも一つは遂行したいと書いたが、防災訓練などすでに実務がある防犯防災局は局長が企画を主導してくれたものの、弾圧対策局やハラスメント対策局は每期具体的な仕事が決まっているわけではなく、今期もさまざまな学習会やマニュアル作成など検討したものはあったが、なかなか実現させることができず、局長をうまく機能させることはむずかしかった。今後は期が始まる前に局長とその期の方針について議論し、どのように運用するか検討したい。

また、今期も主に部長経験者からなる「人権擁護部幹部会」を設置した。「人権擁護部幹部会」は、幅広い領域にわたる人権擁護部の活動を統括する部長を補佐すると共に、人権擁護部の各領域の活動の中でも、逮捕事案やハラスメント対応など、特に情報の扱いに注意を要し、通常の部会内では対応が難しい事柄を専門的に処理するための組織である。現在、人権擁護部幹部会は若手が不足しているため、組織の特性も考慮しつつ、継承していきたい。

月例点検などの恒常業務は先んじて人を募ることで、部会で見かけない部員なども実働してくれた。

相談受付については、これまで同様相談アドレス(kumano.jinken@gmail.com)を管理し寮生からの相談や意見を受け付けた。プライバシー保護の観点から、期の初めにパスワードを変更し、115期以前に対応済みの事案に関わるメールは削除した。プライバシーの観点から、投稿された内容は担当者のみが閲覧できるようにし、担当者が誰であるかについてはブロック会議議案等で周知を行った。

#### 3.弾圧対策

##### (1)家宅搜索への対応

今期、家宅搜索は行われなかった。サングラスなどの弾圧対策グッズが段ボールに入っていることで目立たず、食堂を一斉清掃した時に行方不明になることが多々あったため、ちょっといい箱

を購入し目立つようにした。また、実力闘争などで弾圧対策グッズが使われたあと箱に戻されないことでサングラスの量が前々期の半分程度に減ってしまっていたため、寮祭前に大量購入した。今後は定期的な個数の確認、箱の場所や使ったら元に戻すことの徹底の周知を心がけたい。

また115期に二度あったガサを受けてガサ対マニュアルを更新することを方針に掲げていたが、遂行することができなかった。逮捕等がなかったことで、先延ばしにしていたが、事が起きてから対応するようなことがないように来期が始まり次第迅速に内容を検討したい。

#### (2)逮捕弾圧への対応

今期、寮生及び寮関係者が逮捕されることはなかった。今期の方針として、救援活動のノウハウやその意義を学習会などを通じて周知し、特に寮祭に向けた学習会を行うことを掲げていた。寮祭企画の企画者向けの学習会を行うことはできたが、寮祭実向けや全寮向けの学習会を提起することができなかった。

#### (3)大学当局への対応

今期は学内集会における対応は行わなかったが、来期以降も引き続き学内集会における当局職員による盗撮をはじめとする人権侵害への対応を行う。

### 4.防犯・防災

#### [防犯領域]

##### (1)不審者・特別来寮者対応

今期は特に対応を要する来寮者はいなかった。

##### (2)各種防犯

寮の防犯のために、居室の合鍵の把握や事務室にある原キーの管理、防犯器具の管理、防犯ブザーの貸し出し、合鍵作成費補助及びその周知を行った。特に方針として115期において各棟東側に非常口設置したキーボックスが機能を果たしていないため施錠を徹底してもらうための策を議論していくことを挙げたが、今期は具体的な議論ができなかった。来期は非常口だけでなくそれに伴う寮生の防犯意識の向上や防犯対策を継続議論していきたい。

##### (3)喫煙所

今期は喫煙所会議は開催されなかった。くまのまつりなどに際して喫煙者の協力のもと喫煙所を一時的に移動した。

#### [防災領域]

##### (1)避難訓練

10月15日に消防訓練を行った。総括は過去議案を参照されたい。避難訓練を行う際は消防との折衝が必要であるため、継承性の観点から避難訓練開催までのマニュアルを作成したい。

##### (2)日常点検

月1回をめぐりに部会で寮内の防災点検を行い、各ブロック単位で避難経路の確保や消防設備のスムーズな使用ができるよう指導した。また、慣習的に人権擁護部が担当してきた消火器ポンプ・関西電気保安協会点検の立ち合いを行った。

##### (3)マニュアル整備

焚き火マニュアルの内容の検討、周知の徹底はできなかったが、10年以上前に作られた避難経路マップを大幅に更新する事ができた。今後諸々のマニュアルの検討や作成を検討したい。

##### (4)お掃除デー開催

8月5日にお掃除デーを開催した。総括は過去議案を参照されたい

## 5. ハラスメント対策・仲裁・救護

ハラスメントが起きることのない寮を目指し、防止のための啓発活動や、起きてしまった場合の事後対応を行った。ハラスメント対策局領域におけるハラスメント対応・トラブル仲裁のフローは以下の通りである。

1. 部員が相談を受けた場合、または相談メールへ相談があった場合、当事者の承諾の下、部長に情報が共有される。また、当事者の承諾があれば、人権擁護部幹部会へも共有され、対応が協議される。この際に、各段階において相談者が情報の共有を望まない主体に対しては、情報の共有は行われない。

2. 女子寮生向け相談窓口への相談は、当事者の承諾と、女子寮生向けハラスメント相談窓口の判断の下で、1.と同様に部長および人権擁護部幹部会に情報が共有され、対応が協議される。情報の取り扱いに関しては、1.と同様。

3. 協議され決定された方針に基づき、対応を行う。

### (1) 啓発活動及び事後対応

入寮オリエンテーションで新入寮生にハラスメント防止や飲酒に関する注意喚起を行ったが、在寮生に対して寮祭企画者会議以外での学習会を行えなかった。

### (2) 相談メールと目安箱の設置

寮内で起こったトラブル、その他自治会への改善要求をする場として引き続き相談メール(kumano.jinken@gmail.com)を管理し、目安箱を設置した。相談メールの運用については「部会の運営について」に述べた通りである。

### (3) 新歓・寮祭期における相談受付およびハラスメント対策

寮祭期は非日常的であったり、飲酒が盛んになることでハラスメントが起きやすいものである。そのために人権擁護部員を中心に、有志によるハラスメント対策グループを組織し、腕章を付けるなどして誰に相談すればよいのか分かりやすく示した上で、迅速な対応ができるようにし、相談受付やハラスメントに対する事後対応を行った。

### (4) 女子寮生向けハラスメント相談窓口の設置

前期に引き続き、人権擁護部の下部組織として女子寮生向けハラスメント相談窓口を設置した。詳細は下に示す『第116期女子寮生向けハラスメント相談窓口総括』を参照されたい。

### (以下、女子寮生向けハラスメント相談窓口総括)

#### ・相談への対応

今期、二件相談を受け付けた。

#### ・構成員の拡大、学習

ブロック会議や寮生大会のアピール時間に構成員の募集を行い、構成員が新たに加わった。相談を受ける際の注意点を確認し、構成員間で意見交換を行った。

#### ・女子寮生新歓の企画運営

女子寮生新歓の開催目的の継承を円滑にすべく、前回に続いて今回も本セクション主催で新歓を行った。新歓の際に、女子寮生新歓の開催目的の説明や本セクションについての周知を行った。

#### ・定例会議の開催

前期に引き続き、月に1度、人権擁護部会後に定例会議を行い、お互いの状況の把握や新歓に向けた話し合い等を行った。

#### ・反省

今期の方針で外部講師を招く学習会を寮祭で行うことを掲げていたが、準備不足や講師を招く予定となっていた外部機関とのコミュニケーション不足で開催できなかった。まず、来期は改めて窓口内でどのような学習会を開くべきか検討するところから始めたい。

(以上、女子寮生向けハラスメント相談窓口総括)

(5)救護活動

人権擁護部として事故や体調不良者の対応に関する啓蒙活動は行えなかった。文化部持ち込み企画で介抱者学習会が行われたが、本来は人権擁護部が主体となって恒例企画にするべきものである。今後は人権擁護部として組織的な協力、または人権擁護部としての開催などができるようにしていきたい。

6.決算

	予算	収入	支出
115期より繰り越し		¥173,305	
自治会会計より		¥220,000	
カンパ(女子寮生新歓)		¥1,800	¥1,366
学習会費	¥25,000		¥0
弾圧対策費	¥60,000		¥16,239
カメラ購入費	¥60,000		¥58,758
防犯費	¥20,000		¥0
合鍵作成補助費	¥10,000		¥0
防災費	¥20,000		¥9,661
耐震対策費	¥15,000		¥0
お掃除デー昼食代	¥10,000		¥9,993
パッチテスト費	¥5,000		¥4,620
ハラスメント対応費	¥100,000		¥38,800
喫煙所備品費	¥30,000		¥12,208
新歓費	¥15,000		¥12,245
女子寮生新歓費	¥15,000		¥15,000
ラミネートフィルム費	¥4,000		¥0
雑費	¥4,305		¥1,950
117期に繰り越し			¥214,265
計		¥395,105	¥395,105

## 情報部

### 部長から

今期は恒常業務外の特別な仕事をする事はなかったが、マイクやビデオカメラを買ったことで予算が底をつき、長めのHDMIケーブルを買い足すことができなかった。

### 発信セクション

発信セクションとして今期は以下のような活動をした。

- 1.熊野寮として出した声明文を熊野寮ホームページに載せた。
- 2.Twitterを用いて上の声明文の発信や補足などを行った。

### 監督セクション

①機材の購入を行った。

②情報機器の管理

SCPCや食堂PC、プロジェクターとスクリーンの管理を行った。

③寮生大会の準備

寮生大会の実施にあたり、各種準備

(議事録を映すために必要なプロジェクターの準備等)

を行った。

### 技術セクション

技術セクションは116期に以下の業務を行なった。

アプリケーションの保守管理

情報部で作成したアプリケーション(資料システムなど)の不具合等に対処し、保守・管理作業を行なった。

### 116期情報部会決算表

項目(円)	予算(円)	収入(円)	支出(円)
115期より		¥104,059	
自治会会計より		¥31,000	
自治会メール	¥1,000		¥1,048
さくらVPS	¥43,560		¥43,560
修理消耗品代	¥70,499		¥62,579
117期へ			¥27,872



合計		¥135,059	¥135,059
----	--	----------	----------

#### 修理消耗品代の内訳

項目	代金
ワイヤレスマイク	¥34,200
充電ケーブル	¥1,199
ビデオカメラ	¥26,600
充電器	¥580
合計	¥62,579

## <特別委員会>

### 入寮選考委員会

#### 1. 入寮選考総括

##### 1-1. 概括

##### 1-1-1. 実施日時

8月25日（金）10時～12時、13時～17時

8月26日（土）10時～12時、13時～17時

9月9日（土）10時～12時、13時～17時

9月10日（日）10時～12時、13時～17時

部屋決め会議 9月12日（火）21時～

##### 1-1-2. 結果

表を参照。

#### 1-2. 各種総括

##### 1-2-1. 面接

前年度は、入寮面接の日程が3日連続であったため、例外的な面接日程が生じたり、初日に面接官希望者が集中し、以降モチベーションが下がってしまうなどといった問題があった。今年度は反省を生かし、面接日程を、8月下旬、9月上旬の2回に分けて行った。夏休みということもあり、人は慢性的に不足していたが、入寮希望者の数がそれほど多くなかったということもあり、対応することができた。

##### 1-2-2. 部屋決め会議

女子部屋の部屋決め会議において、空きキャパの多いブロックの参加者がなかったことが反省点だった。積極的な周知などで改善する。

##### 1-2-3. 途中入寮希望者

秋入選終了後、途中入寮の申し込みが2名からあった。2人とも受け入れた。

##### 1-2-4 臨時キャパシティ、+α化部屋補助金

臨時キャパシティ部屋、+α化部屋についての予算をそれぞれ4万円ずつとっていたが、申請がなかった。周知が不足していたことも原因の一つと思われるため、来季は秋入選前の周知だけでなく、秋入選終了後にも周知を行いたい。

## 2. 在寮選考総括

今期は監察委員会から在寮選考被適用者の報告を受けなかった。

## 3. 男子部屋化会議について

4月から、男子部屋化について入選とは別の会議体を作って議論していたが、その会議体に参加する人が少なく、うまく機能しなかったため、議論の場を入選会議に移した。

10月5日のブロック会議にこの議論の進捗を報告し、全寮から意見を募集する議案を投稿した。そこで収集された意見をもとに、その後の入選での議論で以下のことが確認された。

- ・男子ブロック化するなどの採決を全寮でとった場合、ブロック移動することになる人たちの意見が過小に評価されてしまうおそれがある。寮生大会やブロック会議での採決は行わない。

- ・入寮希望者数が確定しないと具体的にどのような方策を取るべきか決められないが、何人くらい希望者がいればどのようにするかといった仮の決定は事前しておく方がよい。そのために、遅くとも空きキャパ調査の結果が出る頃にはどの部屋が男子部屋化の対象になりうるかを入選で把握し、事前に部屋移動・ブロック移動の可能性があることを話しておく。

- ・その上で、寮全体で女性が少ないことにより女子寮生受ける不利益を是正するため、積極的に女子寮生を呼び込むような方策（入寮パンフに女性向けの記事を掲載する、女子比率が高い学部の入試のパンフまきに女子寮生を多く配置するなど）を入選としてとっていく。

春入選に向けて議論を進め、必要と判断された場合は男子部屋化できるようにしていく。

## 4. その他

8/9,10 オープンキャンパス時に、高校生向けの情宣を行った。入寮パンフレットを配布し、熊野寮のことや、大学生活のことを紹介する説明会をJ地下で開催した。

## 4. 決算案

表を参照

項目	収入(円)	予算(円)	支出(円)
115期より繰越金	105,381		
自治会計より	40,000		
文房具代		3,381	597

面接差し入れ	2,000	1,907
新歓費	15,000	13,649
入寮募集宣伝費	40,000	11,220
電話連絡代	5000	0
臨時キャパシティ、+ α化部屋助成金	40,000	0
女子部屋化・男子部 屋化助成金	40,000	0
117期へ繰り越し		118,008
計	145,381	145,381

#### 秋入選表

	男性	女性	合計
出願者数	25	3	28
キャンセル者数	2	0	2
空き数	23	14	37
入寮者	男性	女性	合計
A1	5	0	5

A2	1	1	2
A3	1	0	1
A4	4	0	4
B12	3	1	4
B3	3	1	4
B4	3	0	3
C12	0	0	0
C34	3	0	3

## 選挙管理委員会

### 目次

- 1.はじめに
- 2.委員会運営
- 3.正副常任委員長選挙
- 4.寮生大会
- 5.物品購入
- 6.選管マニュアル
- 7.決算

### 本文

#### 1.はじめに

選挙管理委員会は、正副常任委員長選挙と寮生大会の運営を担う委員会である。常任委員長選挙および寮生大会の健全な運営は、全寮生の寮自治への参画を促すものとなる。

第116期は選管のノウハウを若い世代に引き継ぎつつ、恒常業務を着実に進めることに尽力した期であった。

来期もさらなる飛躍を遂げられるように、委員長のみならず、選挙管理委員会一同で団結して、業務に取り組んでいきたい。

今期も円滑な選挙運営及び問題解決に協力していただいている寮生の皆さん本当にありがとうございます。

#### 2.委員会運営

## 2-1 恒常会議

月曜21時から食堂で委員会会議を開催した。寮生大会終了後に寮生大会の総括をおこない、以降7月まで規則の見直しや反省について議論した。その後は定期的に会議を開催して細かな議題を扱いつつ、10月ごろから正副常任委員長選挙や寮生大会に関わる業務を本格的に進めていった。

## 2-2 新歓

今期は選挙管理委員会単独で秋新歓を開催した。美味しい食べ物に舌鼓を打ちつつ、選管の意義や寮生大会日程の確認を行った。詳しくは、「選管新歓総括」を参照されたい。

## 3.正副常任委員長選挙

### 3-1 候補者団募集

10月2日の委員会で立候補者団募集の議案の承認を得て、10月5日のブロック会議に議案を投稿した。また、同内容のポテッカードで周知をした。今期は選挙と寮生大会の業務が重なることを避けるために選挙日程をこれまでより1週間前倒しにした。

期限までに1組の候補者団から立候補があった。公示日にその時点で立候補のあった候補者団を周知した。

今期は前期と同様に立候補受付の後に、一週間程度候補者団内の人員追加を受け付ける期間を設けた。この間、候補者団から人員の追加があった。

### 3-2 立会演説会

11月8日の22時00分から食堂とズーム上で立会演説会を行った。開催の周知は周知さんを用いた。司会と書記は選挙管理委員が担当した。はじめに候補者団構成員の自己紹介をしてもらい、そのあと方針の説明、質疑応答と続いた。

[反省点]

- ・立会演説会に主体的に関わる人材を増やす目的もあり書記を1回生に任せたが、立会演説会は規模が大きく質疑応答などの部分はかなり書記が難しいことから、上回生で書記に専念出来る人を用意しておくべきだった。

- ・部会が長引いたことで開始時間が予定時刻である21時半から30分ほど遅れてしまった。そもそも21時半でも遅いという意見もあり、来期は部会委員会と調整しつつもっと早い時間から行えないうか検討していきたい。

## 3-3 投票

### 3-3-1 投票準備

投票準備には前期のやり方を踏襲した。監察委員会から寮生名簿を借り、最新の寮生の総数・休寮者数を数え、定足数を計算した。選択肢に候補者団を信任する、信任しないと書いた投票用紙を作り印刷した。投票用紙には庶務部長から借りた自治会印を捺した。

### 3-3-2 投票受付

11月14日から11月18日まで、12:15～13:00、18:30～22:00の時間帯で食堂にて投票受付を行った。11月18日は予備日として設定していたが、前日17日の時点で定足数をわずかに上回る程度であったため18日も受付を行った。投票所のそばに正しい投票用紙の書き方を記した紙をおき、無効票の数が減るよう努力した。また、選管を介した代理投票を受け付けた。

インフルエンザなる疫病が流行ったことで、受付や部屋周りが滞ってしまった。代わりに代理投票を中心に進めたが、ブロックごとに連絡形式が異なったことで進捗に差が出てしまった。来期は会議内で十分な話し合いを行っていきたい。

### 3-3-3 開票

開票は11月20日の選挙管理委員会会議後に行われた。無効票も少なく余裕を持って定足数を満たすことができた。選挙結果は開票後すぐポテッカーで全寮に周知した。その後投票用紙や寮生名簿は滅却処分した。

### 3-4 そのほか

候補者団のマニフェスト共有に関して、防衛上の理由から全寮ラインを用いることなく、選管は周知さんで、候補者団は談話室や部屋周りで周知した。

また、選挙関連の公示ポテッカーについても、寮外生が頻繁に寮にくる昨今の状況では防衛上よくないという意見があり、選管内で検討を行った。差し詰め候補者団が特定できるようなポテッカーは控えようという話になったが、来期も継続議論していく予定である。

## 4. 寮生大会

### 4-1 前期寮生大会

2023年6月17日に行われた寮生大会について、今期の初めに総括案を7月5日のブロック会議から提出した。選管では6月19日、26日の会議にて寮生大会を振り返る会を行い、寮生の記憶の新しいうちにブロック会議にも議案を提出して意見を集めた。

### 4-2 今期寮生大会

2023年12月23日に食堂で原則対面開催の予定である。また、今期は前期と同様、原則オンラインは認めず、事情がある場合のみ寮内でのオンライン参加のみ認める予定である。これは、コロナも4月から5類に移行したことや、寮の防衛上からも、オンラインを継続する必要性がないという考えからの方針である。大会当日の業務については117期で総括をする予定である。

### 4-3 欠席理由書およびオンライン参加申請書

前期に周知不足との指摘があったので、投票場所に欠席理由書およびオンライン参加申請書のGoogleフォームのQRコードを貼ったポテッカーを置いた。同様のポテッカーを寮内に貼ったり、周知さんや各ブロックの選管構成員の呼びかけで周知を徹底した。

今期は、前期に引き続き、明文化した判断基準に従い、申請の受理棄却を行った。

## 5. 物品購入

投票箱が1つ破損していたので同じものを1つ購入した。

## 6. 選管マニュアル

前期に選管の恒常的な業務について、引継ぎを確実にを行うためマニュアルを作成した。今期も追加事項を記入し、今後も選管内で扱い精査、改編していくものである。

## 7. 決算

決算は下表。

	収入(円)	予算(円)	支出(円)	備考
自治会会計より	23,000			

新歓費		15,000	14,916	
立会演説会差し 入れ		3,000	2,978	
雑費		5,000	1,870	
自治会会計に返 還			3,236	
計	23,000	23,000	23,000	

## 監察委員会

### 116期監察委員会の行った業務

#### 1. 通常業務

- ・ 毎月の維持費支払いチェック
- ・ 各部会委員会、自治会予算、食堂関係費の寮生大会前の会計監査
- ・ 維持費滞納者に対する督促
- ・ 高額維持費滞納者に対する在寮選考の告知
- ・ 休寮申請の審査および `結果の通知
- ・ 高額滞納者の増える9月の監察に向けて(8月に監察委員会が行われない事に起因する可能性が高い)、7月に、2か月以上の滞納者に対し催促を行った。

#### 2. 維持費在選システムの運営

- ・ 維持費在選システムを運用した。

#### 3. 維持費在選システムの周知

- ・ 入退寮選考委員会への維持費滞納者情報提供等の業務提携
- ・ 寮生に対する維持費在選システム、維持費免除規定の周知、新入寮生に配布された「生活マニュアル」への、維持費支払いと維持費在選システムに係る項の掲載

#### 4. 振り込みシステム

- ・ 115期に引き続き、維持費の振り込み支払いシステムを運用

#### 5. 全寮寮生名簿の管理

- ・ 事務室の在寮生名簿の更新
- ・ 2023年度秋入寮に向けてのキャンパ °シティ調査にあたって、入退寮選考委員会へ全寮寮生名簿を提供
- ・ 117期正副常任委員長選挙にあたって、選挙管理委員会へ全寮寮生名簿を提供
- ・ 朝食ダービーに向けて、炊事部に全寮生名簿を提供

#### 6. 自治会財政状況報告

- ・ 財政状況報告を10月に行った。

## 7. その他

- ・予算請求していないので、決算表は存在しない。

## 資料委員会

### 1. 恒常業務について

資料委員会の構成員により、以下の業務を行った。

- ・ブロック会議資料のチェック、編集、印刷
- ・ブロック会議議事録の校正、保存・自治会業務に用いるための印刷用紙やインクの補充、並びに印刷機(オルフィス)、シュレッダーの管理
- ・ブロック会議資料システム関連のバグやトラブルがあったときの情報部への対応の依頼
- ・資料委員会が補充、管理する物品を自治会用途以外で使用しない旨の注意喚起
- ・ブロック会議の議案投稿についての注意喚起

### 2. 特筆すべきこと

- ・今期から設置された議事運営セクションであるが、今期では議事が荒れるような議題が出なかったのも特に活動を行うことはなかった。

### 3. 決算表

以下の決算表の通り。

項目	収入 (円)	支出(円)	116期予算 (円)	残り(円)	備考
第115期からの繰越金	162,296				
自治会会計より	500,000				
銀行利息	6				
コピー用紙代		46,262	147,424	101,162	



インク代	796,840	619,520	-177,320 ※1
印刷機積立金	200,000	200,000	0
検討会運営費		5,000	5,000
雑費	9,577	15,072	5,495
インク購入のための追加予算	324,720		
第117期へ繰越		111,663	
合計	987,022	1,164,342	987,016 -177,326 ※2

※1: 追加予算も予算に含めている

※2: インク購入赤字分と、来期に繰り越した銀行利息分

## 居住理由判定委員会

第116期居住理由判定委員会は、居住理由判定制度に基づき、下記の業務を行った。

- ・前期に引き続き、学籍確認書類を回収すること。
- ・各棟委員会を組織すること。
- ・各棟委員会において、学籍確認書類を提出できない者(学籍喪失推定者)を確定し、該当者にその旨を通知し、審理に必要な書類を準備し、終局判定を行うこと。

参考として、各棟における学籍喪失推定者の数を下記に示す。

【A棟】

確定作業中

【B棟】

6人

【C棟】

4人

以上

## 寮祭実行委員会

### 1.全体総括

前年度寮祭実行委員会の主催によって7月5日に行われた寮祭実立ち上げ会において、寮祭と寮祭実の仕事内容についての説明を受けた後、実行委員長1名、副実行委員長6名、会計責2名、企画責2名、広告責3名、パンフ責2名、記録責2名、広報責2名、グッズ責2名、タテカン責2名、渉外責1名、web責2名、デザイン責1名、人権擁護責2名、クラファン責2名を選任した(責を掛け持ちする者もいて重複あり)。なお、前年度存在したコロナ対策責は廃止した。そして、その他12名を平実行委員として、新入寮生総勢36名による2023年度熊野寮祭実行委員会(以下、寮

祭実という)が発足した。その後、新たに記録責として1名、タテカン責として2名、その他平実行委員として数名が参加した。

### 1.1 全体会議

全体会議は、夏休み前に2回、夏休み後に9回の全11回行った。夏休み後は毎週一回、土日または祝日に行った。主にラインとDiscordで周知したが、特に前半はポテッカーを寮内にたくさん貼って周知を強化した。毎回の会議には20人から30人程の構成員が集まった。会議の内容は、各責の人間が共有事項を出し、その次に時期に応じた議題(広報戦略、寮祭とは何か、実力闘争とは何か、時計台コンパ、時計台占拠)を扱った。時計台コンパの意義や内容に関して全体会議で扱ったことは非常に有意義であった。秋の新歓期の会議では会議に来た秋入寮生に向けて各責の仕事内容を説明した。その後の会議には秋入寮生が数名参加したが、寮祭実の活動に秋入寮生を迎え入れることはあまり出来なかった。ここに関してはきちんと来年度に引き継ぎたい。

### 1.2 正副実行委員長会議

正副実行委員長会議(以下、正副会議)では主に会議の議論のたたき台の作成、寮祭実全体の方針の議論、実力闘争などの時間のかかりそうな話題についての議論、突発的な出来事への対応、各責の進捗の確認を行った。会議は主に全体会議の直前の平日の夜に行われ、11回行われた。そのほかにも正副実行委員長(以下、正副)の人たちが軽く集まり話し合いを行うこともあった。場所は食堂や食北、ロビー、事務室など空いている空間を用いた。会議は、正副(全員集まらないことも多い)と自主的に参加した渉外責を中心に、時計台コンパ責任者や時計台占拠有志を呼んだりした。正副以外の人で積極的に参加する人は少なかったが、誰でも参加できるものとしており、食北で行った際は元々食北にいた新入寮生や食北に来た新入寮生が自然と会議に参加する場面は何度もあった。様々な人と会議することで新たな視点も取り入れることができたことはとても良かったと思う。

### 1.3 各責

例年通り、正副実長の他に寮祭実の仕事内容ごとに責を設けた。昨年度まであったコロナ対策責は廃止された。責を割り振ってはいたが、あくまで仕事内容の責任者であり、企画責、広告責、パンフ責、タテカン責など実務の量が多い責に対しては他の寮祭実のメンバーによるサポートが盛んに行われた。その際には、副実長や時期的に仕事のない責、平実行委員などが中心となって働いていた。

### 1.4 平実行委員

責以外の寮祭実行委員は平寮祭実として人手が必要な仕事等を行った。初期の会議では責に入っていなかったが、途中から平寮祭実から責になった寮祭実もいた。特に広告については、各ブロックに広告の打診先が割り振られブロックの寮祭実で打診に行ったが、ブロックごとの責任者は平寮祭実で行った。またオプションの多い広告の制作、打診についても平寮祭実が活躍した。また時計台コンパの担当者も平寮祭実であり、運営や時計台コンパ内の企画でも平寮祭実が企画していた。各責や担当者との連携が重要であり、今年はある程度うまくいっていた。平寮祭実は面白い企画をたくさん出していた。

### 1.5 コンパ

全体会議の後には適宜コンパを行った。人権擁護責が主体となって買い出しや調理を行い、鍋、カレー、そうめん、酒などを提供した。目的は、会議に人を多く呼ぶこと、委員間の親睦を深めることであった。実際に、コンパの中ではじめて互いの人となりを知るような場面があったりしたことから、これら二つの目的は大方達成され、寮祭実内の団結の形成に寄与できたと思われる。また、

## 1.6 連絡手段

以下、寮祭実内での円滑な情報伝達のために用いた連絡手段について述べる。用いた連絡手段としては、Discord、LINE（全体グループ、正副グループ、その他各責のグループ）、LINEオープンチャット、TimeTreeを用いた。特に、Discord、LINEは中心的な役割を果たしたため、以下にその役割を詳しく記す。

### 1.6.1 Discord

Discordの長所は、話題ごとにチャンネルを分けることによって会話が整理されて見やすくなり、かつ寮祭実全員が各部門の進捗状況を把握できる点である。使いやすさも申し分なく、寮祭実内の実務的なやり取りはほぼすべてDiscord上で行われていた。ただ、一つ問題点があるとすれば、日常的にDiscordを見る習慣のある人が少なかったことである。Discordを運用し始めて間もないころは会議などでDiscordを見ることを繰り返し周知する場面もあった。

### 1.6.2 LINE

周知、リマインド、緊急性のある連絡においては多くの委員が日ごろから利用しているLINEが便利だった。また、秘匿性の求められる文書の共有もLINEを用いて行われた。また、実務的な内容からは少し離れた雑談などにもよく用いられていた。

## 1.7 広報戦略

まず前提として、寮祭を寮外にも開くという方針で一致を取った。寮祭への参加だけでなく、企画者になることもふくめて寮外生に呼びかけることにした。具体的な広報としては、後述する紙媒体（ビラ・配布）による宣伝とネット上での宣伝を行った。結果として、寮外生が企画者となった企画は数えるほどであり400以上ある企画の中で多くはなかったが、多くの寮外生が寮祭に参加しており、広報の成果が一定見受けられた。広報の課題としては、フィードバックがもらいにくいことがある。どの手段が効果的か把握しにくいため、広報の方向性も定めにくかった。また、広報には①寮祭・寮を寮外に知ってもらう②クラファンなどが寮祭の資金につながる、という意味があるが、後者を目的とした広報に対して寮祭は金儲けではないとの批判もあり、寮祭広報の終盤になって議論が生まれた。この点についてはもう少し早い段階から議論やそれによる意思一致があっても良かった。

### 1.7.1 紙（ビラ・パンフなど）

10月に置きビラ、直前にカウントダウン置きビラを行った。キャンパス情宣でも主に中高生に向けてビラを渡していった。パンフはNFや時計台コンパで多く配布した。関西圏の主要な高校に対して寮祭パンフの郵送も行った。

### 1.7.2 ネット（X（Twitter）・Instagramなど）

ツイッターでは企画やタイムテーブルの紹介、準備中や寮祭中の写真を投稿した。寮祭50日前からカウントダウンカレンダーを作り、Instagramに投稿した。グッズ紹介もインスタで行った。

## 1.8 実力闘争について

この項では2023年度の寮祭実内でなされた実力闘争の議論について総括する。議論の内容にまで言及すると非常に長くなってしまうため、ここでは概観を述べるにとどめる。議論のより詳細な内容について知りたい方は、来年度以降の引継ぎ資料『これまでの寮祭実の位置づけ&実力闘争企画の議論まとめ』を参照してほしい。

本年度の寮祭実では、2023.08.01の第2回正副会議（正副会議については1.2を参照）から主に正副実行委員長内で、総長室突入を意識して実力闘争に寮祭実が関わるか否かの議論を

行った。数回の正副会議を経て、2023.10.10の正副会議で「何か動きが起こるまでスタンスを決めることはしない」という結論で文字通り一致をとった。その後、実行委員長と副実行委員長の数人から時計台占拠をやりたいという声が出たことをきっかけに、2023.10.21に2021年度の寮祭実の有志と本年度寮祭実の有志との間で検討会を開き、同日の全体会議で

①時計台コンパは実力闘争である

②(寮祭実主催で時計台コンパ内で)時計台占拠をやらないか

の2点が実長から提起された。①の提起は数回の全体会議の場で寮祭実全体で認識を深める形で議論が進み、②に関しては寮祭実内からの反対意見等を受け、まず寮祭実名義ではやらないことに決定。その旨を2023.10.29の全体会議で周知した。そのうえで時計台占拠を実施することに対して寮祭実で一致をとるために議論が交わされ、2023.11.11の全体会議で時計台コンパ内では行わない旨が伝えられた。最終的には有志の間で時計台占拠をやらないということが決まり、2023.11.17の正副会議で確認された後、翌日の全体会議で伝えられた。それから寮祭までは時計台コンパでやること、戦術を主に議論した。

時計台占拠の提起が途中で取り下げられたということは、本年度の寮祭実内での実力闘争の議論の特徴の1つだ。それ自体の是非は現段階では分からない。ただ、あの提起によって寮祭実内の議論が活性化し、寮祭実の結びつきを強める結果になったことは指摘できる。特に2023.10.29の全体会議は1つのターニングポイントだったと言える。この会議において、普段前に出てくるメンバーに限らず多くの実行委員が意見を述べたことは目に見える成長だった。自分は消極的・反対派であるという意見を言うことができた委員がいたのは、寮祭実への信頼があったからこそであろう。そしてその信頼は、恐らくこれまで実長をはじめ中心で動いてきた実行委員が築き上げてきた人望によるものだろう。あの議場の雰囲気はどうして生じたのか、意見を表明する活性化エネルギーを超えたのが何故あのタイミングだったのか、幹部への人望はどのようにして築かれたのか、といった点は正確には分からないが、とにかく会議の場が一体感で包まれている感覚は、寮祭実の団結が育まれているということを明示的に示すものであったように思う。同時に、実力闘争という敷居が高い議題に対して寮祭実として向き合い、全体会議の場で皆が議論に参加したこと、そして途中で帰ることなく食堂にとどまっていたということは、今後一生手に入らないであろう貴重な資産になった。さらにはその先に待つ寮祭への道を照らし、進むべき1歩を示すかがり火のように感じられた。

## 1.9 時計台コンパ

別議案「2023時計台コンパ総括」を参照

### 1.10 寮祭期間中の対応

寮祭期間中は、寮祭実のメンバーも寮祭を楽しむことに全力を注いでいたが、多くの寮外生が来ると予想される企画(例としては「陰謀論者VS京大生」など)では、人の誘導やパンフレットの配布、ハラスメントに関する注意喚起などを行った。

寮外生に対する連絡手段が不足していたことは一つ反省すべき点である。企画主催者の怠惰およびその他の不都合によって中止になった企画がいくつかあったが、その旨が寮外に伝えられておらず、何人か寮外生が来てしまうという事例があった。ラインのオープンチャットなどで寮外生を含む連絡網をつくるのは対応策の1つであろう。

## 2.各責より

### 2.1 会計責

#### I 仕事内容

- ・金庫の管理
- ・予算の振り分け(企画責と共に)
- ・広告費、自治会費等の収入の管理

- ・レシート回収に関するこまめな周知
- ・レシート回収とそれに基づく寮祭関係支出の計算
- ・決算表の作成

## Ⅱ 仕事の流れ

### 【寮祭前】

- ・収入を概算し、企画、タテカン、グッズ、パンフのおおまかな予算の枠組みを決めた。
- ・各ブロックの広告担当者にお店に渡す領収書をまとめて渡した。
- ・各人に振り分けられたお店の広告費を回収した。
- ・企画費と共に企画一つ一つに仮予算として振り分けた。
- ・仮予算をグーグルスプレッドシートにまとめたものを企画者に周知し、変更希望を募った。
- ・変更希望をもとに予算の最終決定を行い、確定版として周知した。
- ・レシートの回収方法及び注意点についてブロック会議やオープンチャットにて周知した。

### 【寮祭期間中】

- ・回収する時間帯をオープンチャットにて周知して各企画の予算を集めた。

### 【寮祭後】

- ・回収する時間帯をオープンチャットにて周知して各企画の予算を集めた。
- ・予算の余剰金を計算し、補正予算とし新たにふり分けた。
- ・決算表を作成した。

## Ⅲ 反省

### 【広告費回収について】

- ・昨年度の反省を踏まえ、広告費は各ブロックで集めてもらい、その回収は広告費に委託していた。しかし、グッズの発注が100万円にのぼり、急遽広告費を回収することになった。この時、グッズ発注の入金締め切りが迫っていたこともあり、手早に会計を済ませたため、金額の確認が疎かになった。
- ・広告費を回収する期限を設けていなかったため、寮祭終了後も回収できていない広告費がいくらかあった。

→以上の反省を踏まえ、来年度では広告費の集め方について以下の二つどちらかを選択することを推奨する。

- ① 会計費が広告を取った当人から直接広告費を回収する。
- ② 広告費に広告費の回収を委託し、会計費に渡す期限を設ける。その時、期限はグッズ発注に間に合うようにする。

### 【グッズ発注について】

前述の通り、グッズの発注費が100万にのぼり、締め切り目前にして広告費の回収に追われることになった。グッズ費と連携をとりながら入金に間に合うように広告費を回収するべきであった。

### 【レシート回収について】

・寮祭前にレシート回収する日程を作成し、オープンチャットで周知したが、寮祭が終わった時点で回収できていたレシートは全体の3分の1にも満たなかった。寮祭後も何度かレシート回収を行なったが、最後のレシート回収が終わった時点で、全体の3分の2程度であった。その後、オープンチャットにて「最後のレシート回収であるというメッセージを読み落としていました。もう一度レ

シート回収をお願いできますか？」などの懇願メッセージが相次いだため、泣く泣くアディショナルレシート回収をした。この時点でようやく全体の70%に到達した。

→以上の反省から、来年度ではオープンチャットだけでなく、全寮ラインで周知する、さらにはBLKに周知議案として投稿することを推奨する。それでもレシート回収にこなかった企画者に対しては心を鬼にして厳正に対処すべきである。

#### 【補正予算について】

・予算が当初の予定より多く余ったため補正予算を組んだ。レシート回収がアディショナルレシート回収までもつれ込んだため、かなり遅れてしまったことは今回の大きな反省である。来年度では、レシート回収は寮祭最終日の次の日にするなど、早めに切り上げることを勧める。

#### 【その他】

・実際、金庫にある金額は421,779円であるが、エクセルを駆使して収入から出費を引くと、421,140円となる。また、帳簿表では418,884円となっている。エクセルの421,140円が正しいものであると考えられるが、金庫に639円余分なお金が入っていることになる。この原因としては、レシート回収を1人で行っており、膨大なレシートを短時間に処理していたことによるミスであると考えられる。

→来年度からは2人一組でレシート回収を行うことを推奨する。

・また、帳簿表と実際の金額が合わなかったことに関して、お金のやりとりをする際、帳簿表と同時にエクセルに打ち込むべきだった。スピードを重視しすぎるあまり、エクセルに打ち込むことを怠けてしまった。大反省点。

#### IV 決算表

監査の承認を得て以下に表を掲載する。

#### 2.2 企画責

時系列順に仕事内容と反省・改善案を記入した。

##### ・企画一次募集

7月中旬から企画一次募集を開始した。食堂と各談話室に設置した企画募集BOXによる紙での提出とgoogle formを利用したオンライン提出の二通りを用意した。締め切りは10月10日に設定した。9月ごろには募集している旨をブロック会議の議案で提出したり、締め切り直前期には全寮ラインで繰り返し周知するなどリマインドを徹底した。結果として一次募集の段階で630もの企画が集まったことは大きな成果だといえると思う。寮内にQRコードポテッカーを貼るのが少し遅れたのは課題である。(8月下旬ごろ?)

寮外生向けにも「企画の運営を行う」「企画案のみ」を選択できる別のgoogle formを用意した。フリーライドにならないように各企画ごとに寮祭実から寮外企画者との交渉を行う連絡担当者を決めるなどの対策を行った。企画案のみの投稿は寮内で企画責任者を募集するのを失念していたため実現されなかった。少しでも寮祭への門戸を広げるという目的で寮外生からの募集を行ったにもかかわらず、形骸化してしまったのは大きな反省点である。来年以降は寮外からの企画募集について明確な立場・プロセスを初期段階で示し、その通り実行するべきだ。

また、オンライン提出がある以上紙での提出は不要なのではないかという声もあったが、食堂や談話室内で生まれたノリから気軽に企画を応募しその輪を広げて行けるという点で一定の価値があった。寮祭実後の募集BOX作りやその後に行われた募集用紙を片手に企画を考える時間も寮祭の熱を盛り上げるのに寄与していたと思う。

#### ・スローガン募集・決定

企画一次募集と同時に寮祭スローガンを募集した。提出方法やリマインドの過程は企画一次募集のものと同じである。10月10日の締め切り後寮祭実内で投票などを行ったが、応募数が少なかったこと、スローガンを多数決で決定して良いものかなどの議論があり決定までに一悶着あった。最終的に10月末ごろに「いつだって逸脱」に決定した。ここまで決定が延期してしまったのは寮祭実内でもスローガンの存在意義が共有出来ておらず温度差があったため、スローガンの決定方法を事前に周知していなかったためだと考えられる。

#### ・恒例企画催促

企画一次募集中に行った。例年一回生が企画者となるものについては寮祭実の会議で決定し、そうでないものは去年の企画者に打診した。打診中に恒例企画とそうでないものの線引きとは何かという質問があった。現状は責の裁量による判断となっているし明確な線引きを設けるつもりもないが、恒例企画は企画内容の固定化にも結びつく要素であるため運用には注意が必要である。

#### ・企画者会議

10月11日と10月17日に企画一次募集を出した人を対象に食堂で企画者会議を行った。出席しなければ企画を実行に移せないで議案やポテッカー、全寮LINEなどで徹底的に周知した。今回はオンラインでの参加可としたため研究活動などで寮に長期的に不在の企画者を多く捕捉することが出来た。内容は企画二次募集の提出の呼びかけと企画者オープンチャットへの参加、その他会計責や広報責などからの企画者への説明とJKからのハラスメントや弾圧対策の説明である。企画者オープンチャットは企画者会議に出席した人にのみパスワードを伝えた。以降の連絡や周知に非常に便利だったので作成して本当によかった。

一方で、一次募集の集計にリソースをとられて各責との連絡がおろそかになってしまい、本来会議の場で周知しておくべきだった情報であるのに後日オープンチャットで連絡するというカタチになってしまった事項が多くあったことは反省すべき点である。また、会議日程を決めるにあたって必要だったJKへの連絡が遅くなってしまったため日程の確定が一次募集の締め切りギリギリぐらいになってしまった。結果として多くの人が会議に参加してくれたので企画者会議がスカスカになるという心配は杞憂に終わったが、もっと早くから動いておくに越したことはなかった。

#### ・企画二次募集

一次募集よりも詳しい情報を二次募集として集めた。こちらは、google formのみでの提出にした。同時に企画広告画像も集めた。当初の締め切りは10月20日だったのだが、17日の企画者会議に参加した人の余裕がないことを考慮して23日にずらした。企画者会議と虹募集締切の日程はセットで考えた方がよい。

#### ・JKチェック

JKに企画二次募集で集まった企画二次募集の内容を渡し、チェックしてもらった。

#### ・タイテ作成

寮祭実の有志で食北を借り切り模造紙を用いてタイムテーブルを決めた。毎日食北に集まりながらワイワイ作業をするのは楽しかったが、最終的に500近くになった企画を振り分けてから仮パンフに載せるためにデータ化する作業は半月に及び大変な重労働となった。また、膨大な数の企画を希望通りにタイムテーブルに反映するのは困難でヒューマンエラーが多発した。寮祭実全体から助力を求めたおかげで特定の人物がつぶれるような事態は起こらなかったが寮祭実全体が疲弊した感是否めない。企画募集の段階で日程の希望を詳細に書いてもらうなどして負担を減らす努力が必要である。企画タイムテーブル異議申し立てなどは企画者オープンチャットで

行った。しかし、異議申し立てに期限を設けず柔軟に対応しすぎてしまったため、企画責及びパンフ責に負担がかかった。基本的には期限を設けて、タイムテーブル上の諸々の問題発見・指摘は企画者に一任し、指摘がないまま期限が過ぎたら以降タイムテーブルは変更しなくてよいという形で良いと思われる。これは重要なことだがレシート回収の日をタイトに反映してなかった。会計責との連携ミスである。猛省している。

#### ・予算決め

会計責とともに各企画の予算を決めた。異議申し立てなどは企画者オープンチャットで行った。今回はそもそも予算が110万円ほど使えたため、概ね希望通りの額で割り振ることが出来た。部会主催かつその部会から予算が出る企画が一部あるが、企画者がそれを把握しておらず会計責に予算請求する、あるいは請求先が分からないという事態が発生した。部会での事前周知、企画責・会計責からの連絡が必要だろう。

#### ・企画総括集め

google formを用いて各企画総括を集めた。12月12日のブロック会議で第一版を出すため、寮祭期間中から動き出すべきだった。またフォーマットが企画者によってバラバラで最終編集が煩雑になってしまった。もう少しフォーマットの指定を厳しくする。

## 2.3 広告責

### 1.仕事内容

寮祭パンフレット、熊野寮祭HP、熊野寮祭公式Twitterに掲載する広告を取り扱う。主な手順は以下の通りである。

- 各ブロックに担当する店舗を割り振る。なお、この際に各ブロックに割り振られた広告について管理するブロック責を決める。
- 広告掲載申込書と昨年の寮祭パンフレットを使って、店舗に伺い、広告について説明する。
- 仮パンフができれば、広告主に持っていき、確認してもらう。この際に、料金を頂く。
- 寮祭パンフレットが完成したら、広告主に持っていく。

### 2.反省点(→後は解決策)

- ・ブロックに割り振る時期自体は遅くなかったが、bの作業が大変遅れたことでパンフ責やweb責、広報責などの業務に支障をきたした。  
→業務の進行具合などをもっと把握するべきだった。ブロック責としっかり連携をとるように引き継ぐ。
- ・料金を頂く際の領収書の作成に手間取り、仮パンフを確認して頂く業務が遅れた。会計責と広告責のどちらの業務であるかが不明だった為、業務が遅れた。  
→どちらの業務かを先にはっきりさせたい。また、領収書を全て手書きするのは、大変なので、領収書発行元である、2023年度熊野寮祭実行委員会と熊野寮の所在地が書かれたハンコなどがあればいいと思った。来年の寮祭実と相談してみる。
- ・広告費の管理が杜撰だった  
→広告費用の金庫を買うなどで対応したい。
- ・広告主に対し不誠実な対応をしたとして、信頼関係を壊しかねない事例が起きた。また、仮パンフの段階でミスを見つけられず、完成版パンフにもミスが残ってしまった。  
→似たような事案が発生しないように、しっかり引き継ぎしていきたい。
- ・広告責内での連携や作業分担がうまくできなかった。  
→連携する。

## 2.4 パنف責



## 【仕事内容】

### ◎パンフ制作

1. 発行部数の決定
2. 大学の厚生課にB4用紙の発注
3. 資料委員会にインク発注の依頼
4. 締め切りの設定
5. パンフのコンセプト・方向性の決定
6. JK・処分局文書の依頼
7. 寄稿文の依頼
8. 企画画像の収集
9. フッターネタの募集
10. 広告画像の収集
11. 編集
  - a. 編集ソフトの決定
  - b. 企画画像・広告画像の貼り付け
  - c. JK・処分局、寄稿文などの貼り付け
  - d. 日付(12/1-10,常設,ゲリラ)の部分をページの左右に合わせて貼り付け
  - e. 仮パンフ印刷・校正
  - f. JKチェック
  - g. 企画画像・広告画像の修正
  - h. 企画画像・広告画像の配置整え・日時記載
  - i. フッターネタ掲載
  - j. その他のページ作成、編集後記
  - k. 最終チェック
12. 印刷
13. きょうとプリントに表紙の発注
14. 綴込み

## 【各内容】

### 1.発行部数の決定

→9/5に決定。

「昨年および2019年以前は2500部で、特に足りなかったということは書かれてない。NFに関しては情報入手できていないが昨年しょぼかったのでそれよりは規模が大きくなると予想できる。

→3500部

ページ数に関しては個人的には全体としてはそんなに増えないだろう&増えすぎてほしくない」

「今のところ多めに見て3500部×240ページ÷4=210,000枚」

### 2.大学の厚生課にB4用紙の発注

→発行部数・ページ数の見積もりにより算出された枚数を厚生課に注文するように依頼。

### 3.資料委員会にインク発注の依頼

→前パンフ責の人が資料委員会であるため、インクの本数も含めてお願いした。

### 4.締め切りの設定

→10/15寮祭実全体会議で周知。「▶」は×切自体の変更を意味する。「▶」は提出が遅れて実際に集まった日付を意味する。

10/20企画画像▶10/23

10/20-25フッターネタ募集(BLKで周知)

10/21他組織(JK・処分局・寄稿文)の原稿▶10/24

10/22責・寮祭実のみんなの一言▶10/30▶11/4

実長の言葉▶10/31(スローガンの決定10/29に変更のため)

広告画像締め切り▶10/27▶10/28

10/29仮パンフ完成、印刷▶11/5

10/31-11/5校正期間、BLKチェック▶11/5-10

## 5.パンフのコンセプト・方向性の決定

→今年度はこの部分のすり合わせを行わなかったため、本来作業だけに集中する期間に話し合いを行わなければならない、作業を手伝ってくれる人員をかなり要した。具体的には、パンフの方向性として一方は面白いほど良い(寮らしい小ネタがたくさん散りばめられていればいい)と考えていたのに対して、もう一方はシンプルさ・機能性のみを重視していたため、食い違ってしまった。

## 6.JK・処分局文書の依頼

→JKと処分局の方に連絡をとり、JKからは昨年と同じものを、処分局からは昨年のものから一部変更したものを受け取った。

## 7.寄稿文の依頼

→東竹屋町の会長さんに依頼した。

また、仮パンフの校正期間に、寄稿文2としてクジャク同好会会長(クジャク)の鳴き声mp3のQRコードを貼ろうとしたが、ネタだと理解はしてくれるだろうけど会長さんに失礼がないようにするため、そして寮との関係を記載すると衛生上の問題で当局からの攻撃材料になってしまうため、寄稿文として同列に扱うのはやめて、「クジャク同好会の会長さんから素敵なメッセージをいただきました！！」とだけ記した。

## 8.企画画像の収集

→企画画像は2通り。①長方形(縦:横=4:3)②正方形+説明文とした。企画者会議(1回目10/11、2回目10/17)にて周知。オンラインと紙の2通りの提出方法を設けた。締め切りは10月23日。

〈紙〉ここで配った企画画像用紙にかいて、各ブロック企画集め係に手渡しor食堂にあるBOXへ直接投入。欄を設け忘れたので、余白に企画者の部屋番・氏名と企画名の記入をお願いした。

〈オンライン〉紙と同じ内容のpdfを企画者オープンチャットに置き、縮尺を変えずにjpeg形式で寮祭Googleアカウント([2023.kumanoryousai.kikaku@gmail.com](mailto:2023.kumanoryousai.kikaku@gmail.com))に送信。メールの件名に部屋番・氏名と企画名の記入をお願いした。

- ・紙とオンラインに分けたこと自体は、スキャンの手間が増えるだけなので大きな負担ではなかった。(オンラインについて特にトリミングやファイル名の設定を指定しなかったため)

- ・メール提出の方は、企画者がファイル名を企画名にして送ってくれたり既にトリミングしてあったりするものもあり助かった。

▶パンフ責の作業を減らすためにファイル名の設定とトリミングを指定して、メールだけでの提出にした方がよかった。

## 9.フッターネタの募集

→募集期間は10/20-25。10/20のBLKで周知、以降毎日全寮ラインで周知。

- ・周知してから30,40分の間で集まることに気づき、最終日は昼(11時台)、夕方(18時台)、夜(22時台)と3回周知した。

- ・フォームは閉じなかったため、最終的に11/1まで集まった。

- ・総数は200であった。

- ・企画画像とフッターネタのJKチェックが11/8に行われ、修正が必要なものの修正×切は11/9。

## 10.広告画像の収集

→広告責が集めてくれたものを受け取るだけ。×切は10/22としていたが、間に合わないため10/27に変更した。当初の仮パンフ完成予定である10/29には間に合うよう日程を設定した。

### 11-a.編集ソフトの決定

→Canvaを使用した。

補助線が便利なのでAdobe illustrator を使う案もあったが、Canvaにも補助線の機能があること、さらに共同編集ができること、昨年も編集ソフトとしてCanvaを使っていたので横田さんに使い方などは教えてもらえることなどからCanvaを採用した。

### 11-b.企画画像・広告画像の貼り付け

→企画画像:紙で集めた企画画像はスキャン→トリミング→ファイル名設定(寮祭アカウントのGoogleドライブで管理)。メールで集めた企画画像はトリミング→ファイル名設定(同じくドライブで管理)。そしてCanvaの「ファイルをアップロード」でドライブに紐付け、これらのファイルを貼り付けていく。大きくしたい企画画像以外はタイムテーブル順に貼り付けた。

広告画像も同じくドライブで管理しているので、各日付で大体等分になるように分配し、広告主の希望なども考慮して配置した。

### 11-c.JK・処分局、寄稿文などの貼り付け

→もらったものを、去年のパンフを参考に貼り付けた。

### 11-d.日付(12/1-10,常設,ゲリラ)の部分をページの左右に合わせて貼り付け

→パワポでテンプレを作成し、各ページに貼り付けた。

### 11-e.仮パンフ印刷・校正

→寮生の名前が載っているところや誤字を報告してもらえた。また、マイ将皇帝戦の広告画像に対するリアクションが想定していた通りのもので、ネタが伝わるかどうかのすり合わせもできた。

#### 11-f.JKチェック

→企画画像やフッターネタについて、個人名が出ているものは本人の許可を取るのが必要であった。その他、グレーなものについて指摘を受けた。

#### 11-g.企画画像・広告画像の修正

→校正やJKチェックで報告を受けた部分を修正した。

#### 11-h.企画画像・広告画像の配置整え・日時記載

→仮パンフまででは必要ないが、本パンフを作るにあたっておこなった。

#### 11-i.フッターネタ掲載

→テキストボックスを用意して載せた。企画画像と関連のあるものを同じページに載せるなどした。

#### 11-j.その他のページ作成、編集後記

→おまけやフローチャートは手伝ってくれた寮祭実のアイデア。編集後記は名誉パンフ責の後等も一緒に書いた。

#### 11-k.最終チェック

### 12.印刷

→11/15初刷。11/20、11/29のBLK後の綴込みに合わせて印刷を行った。

### 13.きょうとプリントに表紙の発注

→3500部で21,600円。

### 14.綴込み

→11/20、11/29のBLKで周知をし、会議後に綴込みを行った。

## 2.5 記録責

### 業務内容

- ①寮祭期間前 会議の様子を主に撮影した。
- ②寮祭期間中 各企画の動画撮影や、個人の端末で撮影した動画を集めるための記録用GoogleDriveの運営をした。
- ③寮祭期間後 撮った動画を集約、編集して寮内でのオリエンテーション用とクラウドファンディングの返礼品用の寮祭まとめ動画を作る予定。

### 総論

寮祭期間中の動画は、時計台コンパや四条大運動会、総長室突入などの企画はJKと情報部のカメラで行った一方でその他の企画の多くは個人の端末で撮影し、GoogleDriveへアップロードし

た。これは記録責や寮祭実に限らず寮祭に関わる人が企画の記録に簡単にアクセスできる点や撮影の簡易さにおいて有意義であると考える。一方で多くの情報が詰まった記録用GoogleDriveをどこまで公開するかという議論があり、最終的には全寮LINEと企画者オープンチャットにリンクを掲載した。

全体として今年の記録責だけでは人数、経験共に不足しており、前年の記録責と実質的なチームとなって記録を行った。来年もそのような形態を想定している。寮祭後の編集作業はこれから行う予定である。

## 2.6 広報責

### 【仕事内容】

- ・Twitter運用
- ・instagram運用
- ・情宣ビラまき
- ・カウントダウンビラまき
- ・Twitterでの広告広報

#### <twitter・instagram運用>

作業の様子や企画の事前紹介、カウントダウンカレンダーの更新、寮祭日程などの周知を行った。パンフの表紙も！！！！

#### <情宣ビラまき>

キャンパス情宣において休み時間などに寮祭周知のビラを配った。キャンパス情宣は泊りでやるが、高校生が多い日中の方がビラのはけはいい。

#### <カウントダウンビラまき>

時計台コンパを周知するビラを4日前から吉田南に配った。始めは情報を黒く隠しておいて日がたつごとに情報を解禁していくようにした。かなり好評で広報の効果を十分に感じられた。人手がかなり必要な仕事。

#### <twitterでの広告広報>

パンフに乗せる広告のオプションとしてtwitter広告を設定した。パンフに乗せる広告画像とは別にtwitterに乗せる画像や一文を聞きにいかねばいけないため、注意が必要である。集めた画像や一文はtwitter寮祭アカウントにおいて他のツイートと混ぜて宣伝した。

### 【スケジュール】

- ・Twitterとインスタを7/17に運用開始。アイコンを変更、日程周知などした
- ・クラファンのリンクが完成次第Twitterで宣伝した(10/31)
- ・寮祭一ヶ月前から企画の宣伝を始めた
- ・10/12からインスタでカウントダウンカレンダーの写真を毎日投稿した。
- ・10/15に寮祭パンフの表紙(一部)をTwitterとインスタに投稿。
- ・寮祭1週間前から企画タイムテーブルの紹介をTwitter上で行なった。
- ・寮祭のホームページが完成し次第Twitterとインスタで周知した。
- ・寮祭3日前から吉田南の教室に置きビラを行なった。

### 【反省点】

- ・当初、運用者はTwitter、インスタ各1人だったが、運用者の怠惰とアイデア不足により、うまく広報ができていなかった。途中で運用者を二人追加したため、その後の広報はスムーズに進んだ。

・寮祭企画、基本的には運用者が自ら参加した企画の写真を寮祭SNSにあげるという運用方式を取っていたが、4人が参加できる企画の数には限りがあったため、あまり多くの企画を宣伝できなかった。寮祭Twitter用広報画像フォームを作って企画者に写真を送ってもらうなどすればよかった。

・インスタのカウントダウンカレンダーは好評だったが、あげ忘れが目立った。担当者を複数人決めるべきだった。カレンダーの所有者と投稿者を分けていたため、所有者が投稿者にわたし忘れたり、投稿者が投稿できなかったりいいことなした。そもそもカレンダーをすべて集めることができなかったのも反省。欠けがあるととてもめんどくさい。他の作業と同じように周知をたくさんかけて全部集めたかった。寮祭期間中には全くカレンダーがない状態に陥ったため、投稿者がクオリティーの低いカレンダーを作ってそれを上げざるを得なかった。50日前から行うのは少し長いように感じた。カレンダーの投稿が誰をターゲットにしているのかをあまり考えていなかったため、寮祭のことをほとんど知らない寮外生向けの投稿と、寮祭に詳しい上階性向けの投稿が混ざってしまった。フォロワーの構成などをきちんと調べて誰を意識した投稿をしていくのか考えておけるといい。準備頑張ろう！という投稿なのか準備頑張っているから楽しみにしてね！という方向で行くのか毎日悩んでいた。

・NFの広報において広報責以外にも主体的に動く人がいて、責任の所在があいまいになっていた。誰がパンフを印刷して誰が熊野寮のテントを立てるのかなどNF直前に少しごたついた。寮祭実会議などでできっちり確認するべきだった。結局NFの広報については全く広報責の管轄ではなかった。

・企画での写真を集めるドライブを作り全寮ラインにはったが、写真の集まりは芳しくなく、SNSへの投稿が少し窮屈になってしまった。もっと周知してたくさんの写真を集めたかった。そこに関しては記録責と協力してやっていくという話だったが、結局広報責だけでのSNS運用になってしまった。広報責が個別の企画者や参加者に声をかけて写真を集めるというあまり効率の良くない集め方になった。広報責と記録責の中間くらいの人がいるといい。めちゃくちゃ企画に参加して写真をSNSに上げてくれる人を頑張って見つけたかった。

・Twitter広告の投稿が計画的ではなかった。4日目から投稿し出したのももう少し早く。Animifさまからは「いつ上がるのか」とご連絡いただき、広告主を不安にさせてしまったのは猛省しなければならない。

・広報の仕事はアイデア次第で∞である。しかし別にアイデアを出さなくても、広報をしなくても寮祭は問題なく進む。やらなければいけないことが少ないが自由度は高いという広報責の一番難しいところと向き合えなかった。結局あまりアイデアを出すことなく既出の当たり前のことをやっただけにとどまることとなった。広報責がもっと主体的に動いてバリュー見せたかった。

・ツイッター担当とインスタ担当を完全に分けて広報責内でのコミュニケーションをほとんどとらなかったのも問題。お互いの仕事に意見をしあうということもなく、完全に個人作業だった。それでは活動するモチベーションも上がらないし活動の質もなかなか上がっていかない。その分責任の所在が明らかで誰が何をすべきなのかははっきりしていた。だから最終的な運用はツイッターとインスタで完全に分け、運用に至るまでの議論を広報責内でしっかり深めるという体制にした方がいい。前述の広報責が主体的に動くべきだったという反省も広報責内でのコミュニケーションをほとんどとらなかったことが原因。向こうは向こうで勝手にやってるでしょ、というマインドになってしまったのはよくない。そんな状態でも回ってしまう広報責は難しい。

・くまのまつりでの広報は行わなかった。というのも熊野まつりは地域の人々が主に来場するがその人たちに学生の色が強い寮祭に来てくださいというのは少し違うという意見が出たから。寮祭に来てくれというのでなくクラフターの宣伝をするという話もあったが、熊野寮として処分者のカンパを集めているのであっちこっちで金銭面での支援を求めることになってしまう。以上の理由から熊野まつりでの広報は行わなかったが、きちんとした広報戦略を練って行けば熊野まつりでもすることがあったかもしれない。

・SNSに写真を乗せる際、うつっている人のモザイクが薄いという指摘があった。知ってる人が見ればだれかわかるがモザイクとしての機能ははたしている程度にしかモザイクを書けなかったが

故の指摘。モザイクを強くすればするほど違和感が大きくなるという話はあるが、少なくとも個人の特定が難しくなるくらいにはかけた方がよかったのかもしれない。ここはモザイクをかけなければいけない理由からきちんと一致を取っておくべきだった。この場合、知らない人が見ても誰だか分からないという点においてプライバシーの問題や、自分の顔などをSNSに上げることへの抵抗がある人への配慮という点においてはまだまだが、防衛上の理由や上記の理由を徹底するという意味では不十分であったといえる。

#### 【良かった点】

- ・Twitterでバズっていたパンフの画像などを積極的にRTし、リプにクラファンの宣伝リンクを貼り付けた。
- ・寮祭期間中にアップロードしたいくつかの企画画像が500を超えるいいねを稼いだ。また。全手動マイニングは9000いいねを稼いだ。これらのリプライにクラファンの宣伝リンクをはりつけることができた。
- ・寮祭期間中にフォロワーが1500人近く増えた。
- ・寮祭2週間前~寮祭期間中は一日2,3回はツイート出来た。
- ・NFや情宣で寮祭についての周知ビラを撒くことができた。

## 2.7 グッズ責

### 大体の流れ

7月:引き継ぎ資料をもとに、大まかなスケジュールを考えた。作りたいグッズの案をいくつか出した。

8月:初週に作りたいグッズを具体的な注文サイト、商品まで含め決定した。その後デザイン責にデザインを依頼した。

9月:デザインが概ね出来上がった。ステッカーが欲しいという声があったので、追加で作ることにした。

10月:最終的なデザインと注文商品を決定し、予約用のGoogleフォームを作成し始めた。

11月:前半にフォームで予約を取り、その後発注・受け渡しをした。

12月:一部の企画で販売した。

### 詳細

今年制作した寮祭グッズ:パーカー、Tシャツ、トートバッグ、ステッカー

「1年を通して寮祭グッズを使えるようにする」という方針のもと、パーカー、Tシャツ、トートバッグ、ステッカーの4種のグッズを作成した。寒い間も日常的に着られるよう、パーカーは裏起毛の製品を選んだ。加えて暖かくなっても着られるものが欲しいということで、冬ではあるが半袖Tシャツを作ることを決めた。また、季節を問わず使えるものとしてトートバッグを考えた。ステッカーは当初の予定にはなかったが、需要があり、制作もあまり負担にならないので追加で作ることを決定した。

注文サイトは去年と同じで問題なさそうだったので同じにした。製品は質及びカラー展開の豊富さを重視して選んだ。

デザイン責に仕上がりのイメージ画像を作成してもらい、Googleフォームを作った。いくつか不備があったが、指摘されて訂正した。

値段設定の際は利益をだすことよりもなるべく値段を安くすることを優先し、原価の少しだけ上に設定した。

予約数はパーカーが約170着、Tシャツが約70着、トートバッグが約60個だった。パーカーとTシャツはそれぞれ各色(パーカーはネイビー・バーガンディ・黒の3色)各サイズ(M・L・XL)2~3着ずつ多めに発注した。トートバッグは30個ほど多めに発注した。

受け渡しは商品が届いた日から一週間、毎日昼(12:15~13:00)と夜(20:00~22:00)の2回行った。数人を除いて受け渡し期間中に受け渡すことができた。残りの人には個別に連絡を取り、寮祭前には全員分の受け渡しができた。

その後寮祭直前に余った商品を売った。パーカーは比較的良好に売れたが、Tシャツはほとんど売れなかった。トートバッグは少し売れた。

寮祭中は同釜会、京大生VS陰謀論者、全寮コンパなどの企画で販売を行った。

ステッカーは3種だったが、うち1種については人気で、途中で追加注文したにもかかわらず寮祭中に売り切れた。

## 反省点

途中でトートバッグを当初予定していた製品から変更したが、それに伴いデザイン原稿の形を大きく変える必要が生じ、デザイン責に負担をかけた。

グッズ責同士の連絡がうまく取れておらず、仕事の分担があまり出来なかった。

グッズ予約に関するポテッカーを貼るのが締め切りの直前になった。

フォームでの複数枚注文や訂正に関する説明がうまく伝わっておらず、結果的に何度もフォームを入れている人全員に個別に連絡を取って確認することになった。

色を間違えて渡してしまっただけで個数が合わず、やむなく色の変更をお願いしたことが一件あった。

寮祭中の販売が積極的にできなかった。特にステッカー類は売り始めるのが遅かったこともあり、余ってしまった。また、Tシャツも多めに注文した分が残ってしまった。

## 2.8 タテカン責

### 【制作したタテカン】

・時計台コンパ用クスノキ1周タテカン

(16枚×1、9枚×2、6枚×2、1枚×7

\* ライブペインティング用1枚看、クラファン返礼用6枚看を含む)

・宣伝用3枚看

### 【各タテカンの概要、制作経緯】

・時計台コンパ用クスノキ前1周タテカン

時計台コンパの際にクスノキ周りをタテカンで囲むタテカン。例年は16枚看一枚のみの製作だが、今年はクスノキの全面を360°タテカンで囲む構想が10月初頭の正副会議で提起された。コストや製作時間などの懸念はあったものの11/4の全体会議で360°タテカンの製作が決定された。タテカン製作は大きな予算を要するため例年との変更点がある場合は予算増額の可否など早めに意思一致が必要であることは教訓となった。製作面、防衛面でのコストを考え、正面の16枚看を中心に9枚看(×2)、6枚看(×2)、1枚看(×6)とクスノキの後ろ側に回るにつれて枚数が少なくなるように設置した。16枚看と片方の9枚看のみタテカン責で新たにデザインしたものを制作し、残りの9枚、6枚、1枚看はタテカン制作サークルなどから既存のタテカンを借用し、モザイクアートのつなぎ合わせることで形にした。また、6枚看の一部は新たに製作しクラファン返礼用の名前を記入した。ライブペインティング用1枚看は当日観客から見えやすい位置に置いた。

～デザイン、絵について～

デザインは11月中旬に投票により決定し、次第11月17日から25日にかけて16枚看、27日から30日(コンパ前日)にかけて9枚看をそれぞれ食北にて制作した。

16枚看について、多くの寮祭実が昼夜問わず色塗りを手伝ってくれたため、初動が遅かった割にはスムーズに進んだ。9枚看について、ベタ塗りが多いタテカンだったこともあって作業の指



示が出しやすく多くの寮祭実には手伝ってもらえた。タテカン責以外の人の意見も聞きつつ、役などのデザインを確定したため、皆で作り上げたタテカンという印象を強く持ち得るようになったのがよかった。作業開始がぎりぎりとなっても皆のおかげで満足のいくタテカンとすることができた。

～タテカンの枠組みについて～

足の部分以外のタテカンの枠組みについては、タテカン責の中に経験者もいたが、大型のタテカンについては未経験であり、事前に具体的な作業量を誰も体感としては持っていなかったことやタテカン責の多忙も重なり、前日まで作業が行えなかった。これらの事情により、前日の準備としては、動けるタテカン責はもっぱらこちらの作業に集中し、後に記す足の枠組みはその多くをHSGW氏一人に任せることになった。この作業を前日まで残したことはタテカン責の無計画が原因であり、この点は深く反省したい。

～足の骨組み作業について～

クスノキ後方の1枚看(×6)を除き、角材で足をつくり自立させる必要があったが、これには特殊な設計技術が必要なこともあり、タテカン責主導で行うことを敬遠し、前日まで何一つ進めることができなかった。(1枚看はクスノキ周りのベンチに立てかけるだけでよかった。)

今年は例年使用している16枚看のほか9枚看、6枚看の足を新たに設計、制作しなければならなかったが、毎年足の設計、設置を行ってくれているHSGW氏は無期停学中で入構ができないため、タテカン責が現場で自力で建てるができるように骨組みの構造を一から教わる必要があった。タテカン本体に足をつけ、実際に設置する作業は職員の目を避けるため深夜に行われるが、この作業をスムーズに進めるためには各パーツを完成させておいて現場での作業を最小限に抑える必要がある。16枚看の足を半分程度と9枚看、6枚看の足を前日～当日にかけて製作したが、今年度は360°タテカンをすることの意志一致が遅れたほか前年度使用した16枚看の足が廃材と誤認され散逸してしまったことなどが原因で想定より製作する足の本数が増えるなどトラブルはあったものの、急いで準備すれば十分間に合うだけの時間はあった。準備が時計台コンパ当日の午前1時半ごろまでかかってしまった根本的な原因としては、タテカン責自身が技術が必要な足の骨組みの制作を敬遠して後回しにしていたことや、準備が進められていない状況を早期に上回生に相談しなかったことが挙げられる。事前のパーツづくりは結局前日にHSGW氏の力を全面的に借りて行うことになったが、HSGW氏には深夜から予定があり、すべてを任せることはできなかったため、6枚看の足はタテカン責の一人が陣頭指揮を取り設計から製作まで一貫して行った。種々の尽力により現場での設置作業は予定通り自力で行うことができた。

コンパ終了後、撤収までは比較的スムーズに進んだが、前日までの重労働と徹夜での設置、防衛作業の反動もあり、片付けに手間取った。借り物の工具一式を紛失したりペンキや刷毛がほったらかしになったりした。寮祭が始まると寮内は雑然とするので片付けまでなるべく早めに、丁寧に進めるべきであった。

予算は時計台コンパ全体の予算20万のうち18万円を使用した。

～工具について～

タテカン製作において角材の切断や固定にあたり工具の使用は避けられない。今年度も寮内に置いてあるものや有志から拝借したものを中心に用意した。前日夜のタテカン設置にあたり途中でドリルの充電がなくなってしまったため、一度帰寮し充電器を用意して、コンパ当日用の発電機を稼働させ再度充電した。また寮内にあるのこぎりが10月頃紛失したため寮祭実で新しくのこぎりを購入したが、これもまた紛失してしまった。タテカン責で利用する工具の確保や保管は今後の課題である。

工具の種類や使い方はネットでも検索できることではあるが、使い方を誤ると怪我や物的損害の危険があるため可能な限り既に工具の使い方をマスターしている者から教わるのが望ましい。今年は主にHSGW氏からのこぎりや電動ドリルの使い方を教わったが、HSGW氏との連絡をうまく取れない場面もあったため技術を持つ他の寮生(シン・ゴリラやきらら同好会のメンバーなど)も巻き込んで早いうちに「工具の使い方講習会」などを開いて技術の伝承を促すべきだろう。

・宣伝用3枚看

寮前のフェンスに取り付ける寮祭宣伝用のタテカン。NFの熊野寮広報ブースでの来場者によるフリーペインティングをデザインに利用しつつ寮祭前日に仕上げ、設置した。

## 【全体の総括】

初動があまりに遅かったこと、タテカン責が4人おり、絵担当2人と角材担当2人と役割をそれぞれ事前には決めたものの、役割分担が機能せず、特定のメンバーに負担が集中し、結果として4人の作業量に大きな差が生まれてしまったことも反省点である。足の骨組み作業をはじめ、買い出しなども多くの寮祭実、上回生の協力なしでは成しえなかった。また、クスノキ一周タテカンの計画及び製作は時計台コンパの計画者や寮祭実長の協力を多く得たため、この場を借りて感謝の意を表明したい。

足の骨組み技術について、今回かなり詳細に教わり、理解することができたと考えている。わかりやすい形で資料にまとめ、パーツ作りから設置まで寮祭実が自力で進められる状態に持っていきたいと思う。各パーツの現物についても、前回までは保管、引き継ぎがうまくなされず、破損、紛失しているものが多かったようだが、今後は丁寧に保存し来年以降も繰り返し使えるようにしたい。(タテカン責用の置き場所が必要かもしれない)

色々述べたが、何よりも、クスノキ周りをタテカンで囲むという初めての試みを実現できて本当に良かった。圧巻の光景だったと自負している。いつか本部キャンパス一周タテカンを実現させたい。

## 2.9 渉外責

渉外責とは寮内の寮祭実外の組織と寮祭実との調整役を担う役職である。その上で、2023年度の寮祭では主に下記の仕事をした。

- ①同釜会や厨房との調整
- ②会議での書記

### ①について

寮祭では毎年同釜会という企画が行われる。同釜会とは熊野寮のOP会で、年に1度、寮祭期間中に寮で同窓会を開く。本年度はOPの松田さんから同釜会で食堂を使うので片づけてほしいという打診があった。そこで、片付けに向けて炊事部と調整をした。

2022年度の寮祭において、同釜会に以前公安のスパイをしていたOPが参加していることが発覚し、問題となった。それがきっかけで寮生と同釜会の間の確執が消えないまま寮祭に突入してしまった。同釜会に向けて食堂を整理する上で炊事部会に出席し、調整を進めていた。しかし、同釜会に協力するのに消極的な上回生を上手く動員しきれず、私自身もだんだん面倒くさくなってしまい、狂奏祭で使った寮外連携局の物品をSC室に運んだだけで終わってしまった。来年度も片付けをするなら、より徹底的に進めた方がいい。

厨房との調整は、私自身が同釜会のdiscordに入っていることから一部担った。

### ②について

上述したとおり、渉外責は寮祭実以外の寮内組織との交渉役である。この定義からすれば、来年度以降の寮祭実というのも渉外の対象たり得るはずだ。さらに、その渉外の手段というのは寮祭動画か議事録に限られる。特に寮祭を作り上げていった過程が分かるのは議事録のみであろう。そのような理念の下、2023年度は渉外責業務として(加えて個人的趣向もあって)会議での書記を行った。

### その他

上記以外にも、毎回正副会議に出席する等、寮祭実内の動きに気を配るよう意識した。これは実力闘争企画を寮祭実主催で実施するとなった場合の調整役をスムーズに行うためである。

また、夏休み明けにクマゼミとして職員同好会の中の人を招き、twitterでバズるコツなどを教えてもらった。その調整役も務めた。下記が総括議案のURLである。ドライブに撮影した動画があるので気になる方はご覧いただきたい。

【追加議案】くまゼミ「X(旧twitter学習会)」総括【周知】

<https://docs.kumano-ryo.com/meeting/335?page=17>

来年度に向けて

渉外責は作られてから3年しか経っていない、とても新しい役職である。それゆえ、まだ固定された仕事は決まっていない。渉外責は比較的柔軟に動ける役職であるため、その身軽さを活かして寮祭の成功に貢献してほしい。

## 2.10 デザイン責

仕事内容

- ・寮祭SNSのアイコン作成（デジタル）
- ・寮祭パンフレットの表紙作成（デジタル）
- ・寮祭グッズ（パーカー、トート、Tシャツ、ステッカー）のデザイン（デジタル）
- ・寮祭ビラ作成（手書き）
- ・クラファン活動報告
- ・インスタでグッズ紹介投稿
- ・パンフの寄せ書きページ（手書き）
- （・デザイン責としてではないが時計台コンパでライブペインティングもしたよ）

スケジュール

- ・アイコン: 7/15に頼まれる→7/17に完成
- ・パンフ: 夏休み中完成目標→10/17に完成
- ・パーカー: 夏休み中完成目標→10/17に完成
- ・トート: 夏休み中完成目標→8/19に完成（その後サイズ変更あり）
- ・Tシャツ: 夏休み中完成目標→10/18に完成
- ・ステッカー: 夏休み中完成目標→10/24に完成
- ・寮祭ビラ: 11/14に頼まれる→11/14に完成（15,16の情宣で配布）
- ・クラファン活動報告: 11/17の作成、投稿
- ・インスタ投稿: 12/3、12/6

反省点

- ・グッズとパンフの表紙の完成が遅れてしまった。  
→意外と忙しかった。アイデアが固まっていなかったものはすごく時間がかかってしまった。
- ・グッズ紹介を二回しかできなかった。  
→クラファンの返礼品で入手可能なパーカー、トートの紹介はできたが、他が間に合わなかった。寮祭を楽しんでいたら、写真を撮る暇がなかった、、。グッズがNF前には届いていたので、NF中のパンフ配りの時とかにまとめて撮れたらベストだった。

良かった点

- ・突然頼まれたもの（アイコン・ビラ）のデザインを待たせずにできた。  
→グッズとパンフデザインが終わった後も、いろんな仕事できて楽しかった。
- ・完成が遅れてしまったものも、影響があまりない範囲でおさめられた。  
→他の部分も遅れがあったので助かった。
- ・寮内外問わずたくさんの方がグッズを買ってくれた。着てくれた。使ってくれた。

- ・パンフの表紙は、雰囲気が寮祭に合うかかなり心配だったが、色々な人が褒めてくれたので、最終的にはいいものが作れたのだと思う。
  - ・二種類のクマのキャラがいたおかげで、デザインのレパートリーを増やしやすかった。
  - ・途中でデザイン費用のドライブを作った。そこに画像をあげて、ディスコードには報告のみ行った。
- データがまとまってわかりやすかった。

## その他

一人で全部やったことにつて

- ・アイデアが出てこないとつらいが、遠慮せず自由に考えられたのはとてもよかった。人間関係を気にしないでいいので圧倒的に楽。
- ・他の寮祭実が集まっているところでやっていたので、楽しくできた。

## 2.11 人権擁護責

今年度の人権擁護責の業務は

- ①寮祭実の全体会議後にコンパを開催した。
  - ②寮祭のハラ対グループに所属し、企画内でのハラスメントの防止、対応にあたった。
- の2点である。
- ①については、まず本議案の「1.5 コンパ」を参照。委員間の親睦を深めるコンパを作ることができ、とてもよかった。ノンアルコールコンパにするなど参加しやすいよう様々な工夫を凝らしたのもよかった。
- ②についてはハラ対グループとして業務を貫徹することができたと思う一方、こういった実働業務を割り当てるのは「責」というシステムの本来のあり方ではないし、これを人権擁護責の業務とすることによって他の意欲的な委員がハラ対グループに参加することを阻害しているのではないかという疑問も残った。

## 2.12 クラファン責

### 1 業務内容

昨年度に引き続きクラウドファンディングサイト「CAMPFIRE」にて、クラウドファンディング関連の業務を行った。具体的には、クラウドファンディングサイトの作成、返礼品の選定、活動報告の投稿、返礼品の発送を行った。

1.1 クラウドファンディングサイトの作成 本年度はクラファン責を二名設定したため、画像と文章で分担して作成した。当初、昨年度と同じアカウントを使おうとしたが、振込先が変わるとアカウントを変更しなければならず、申請が遅れた。

1.2 返礼品の選定 グッズ責、パンフ責、記録責と折衝をして返礼品の選定を行った。プランは1,000円、3,000円、5,000円、10,000円、15,000円、30,000円、50,000円、100,000円の8種類であった。(なお最高金額の100,000円のプランの返礼品は寮祭実長の腕時計であったが、支援者が入らなかったため、無事時計は守られた。)

1.3 活動報告の投稿 今年度は新しく、寮祭や熊野寮を身近に感じてもらえるように、寮生の日常を綴るブログを書いた。また、クラファン責だけでなく寮祭実の全員が活動報告を書けるようにした。

1.4 返礼品の発送 返礼品を順次発送していく。本総括が議案としてブロック会議に提出されている地点ではまだ発送は行っていない。

1.5 クラウドファンディングの広報 本年度はX(旧Twitter)上の広報と同釜会へのメール送信を行った。

## 2 活動結果

2023年10月31日～2023年12月10日(寮祭最終日)までの41日間を通して、76人の支援者から合計559,003円の支援をいただいた。支援者の皆様、本当にありがとうございました。

### 2.13 Web責

#### 【やったこと】

- ・2023年度の寮祭HPを作った。使用言語はhtml、css、javascript、python。
- ・Djangoを用いて企画の管理を行った。
- ・寮のサーバーを借り、サーバー関連は上回生に任せた。
- ・(予定)サーバーの負荷を考えて簡易ページにこれから移行させる。(移行後書き換えます)
- ・HPのURLは <https://ryosai2023.kumano-ryo.com/index.html>
- ・企画を登録するのにcsvを用い、pythonのpandasで無理やり読み込ませた(このcsvは寮祭実に協力してもらい用意したもの)
- ・企画画像はパンフからpythonのプログラムで無理やり切り抜き、csvを用いてファイル名をつけた
- ・グッズ画像は載せなかった

#### 【HPの総括(特筆するものがあるもののみ)】

##### 〈ホーム〉

基本情報のほかに現在開催中の企画やもうちょっとで始まる企画を表示するようにした

##### 〈企画詳細〉

パンフからきりぬいた画像と開催されている(はずの)時間を表示した

検索欄を搭載した

##### 〈ヘッダー〉

表示画面が小さいと三点ボタンとロゴだけになるようにした

##### 〈フッター〉

web広告と寮祭X、instagramとcampfireのURLと「© 2023年度熊野寮祭実行委員会」を乗せた

#### 【進捗】

10月に入るところにはhtmlなどはある程度の準備ができていたが11月の二週目になって初めて企画詳細、広告のないページを公開した(多忙と企画を待っていたため)

その後寮祭直前になってそろったページを公開した。

(予定)寮祭が終了し簡易ページに移行した。

#### 【反省】

- 完成が遅かった(特に企画詳細、広告をのせられたのが直前過ぎた)
- 連携をもっとするべきであった(特にパンフ責、広告責と企画詳細、web広告等で)
- 寮祭ロゴ等、web責外に頼む必要のあるものははやめに頼むべきだった。結局頼めなかったの自分で何とかした。
- 企画詳細は一人で用意したため、修正が間に合わなかった。協力を頼むべきであった
- サーバー関連は上回生に任せきりになってしまった

#### 【良かった点】

- 二人で作業をうまく分担し楽に作業することができた
- djangoを用いたため各種機能を付けるたり、企画を表示させるのは楽だった

- 開催中の企画ともうちよつとで始まる企画を表示させたのは好評だった
- 企画検索も褒められた
- 企画は多すぎて手打ちでするのは手間がかかるため寮祭実にcsvを入力してもらいそれを読み込んでできるようにしたのでweb責的には楽をできた
- 企画画像の切り抜きにpythonを使ったのである程度の楽はできた
- 「熊野寮祭2023」のロゴがかっこよかった
- web責のたゆまぬ努力により寮祭史上最高にクールなホームページを作成することができた

### 3. 謝辞

言うまでもなく寮祭は寮祭実のみの力で貫徹できた訳ではありません。まず歴代の寮祭実がつくってきたものがあり、そして日々、寮祭を実行できるような自治空間を守り発展させてきたのであり、在寮生が新入寮生をあたたく迎えて下さったのであり、さらには今回の寮祭開催にあたり多くの人が企画を出し、それを多くの人が盛り上げたのであり、そうしたこと全てが熊野寮祭2023を支えたのだと思います。寮祭実一同より、寮祭を支えて下さった全ての人に感謝申し上げます。ありがとうございました。

### 4. 決算表

以下の通り。

予算表

	収入	支出
昨年度より繰越	507,778	
自治会会計より	350,000	
広告収入(見込み)	300,000	
クラファン支援金(見込み)	400,000	
同釜会より	10,000	
カンパ(見込み)	100,000	
パンフ、ビラ類		100,000
タテカン		200,000
企画		1,100,000
時計台コンパ		50,000
その他雑費		100,000
合計	1,667,778	1,550,000

決算表

	収入	支出
昨年度より繰越	507,778	
自治会会計より	350,000	

広告収入	408,000	
同釜会より	10,000	
村上さんより寮祭実に寄付	100,000	
カンパ	52,197	
グッズ売上	996,300	
企画出費		704,334
グッズ発注費		999,827
時計台コンパ費及びタテカン 作成費		262,921
寮祭実コンパ及び打ち上げ費		28,895
その他雑費(パンフ郵送費、印 刷費)		7,158
来年度に繰越		421,140
計	2,424,275	2,424,275

広告収入

広告主	金額
aminif kyoto 銀閣寺	11,000
ART SMITH	3,000
ASTN3	5,000
CHANDER	14,000
CUTHOUSE BIGTEN	3,000
EL LATINO	5,000
mArk	1,000
MARUHUKU	3,000
MOONSTAR	3,000
quatre saisons	3,000
屯風	3,000
アラシのキッチン	3,000
或いは、「」	5,000
一福サービス	9,000
井上果物店	5,000
お狩場	3,000
オーガニックゆうき	10,000
株式会社 国元商会	9,000
からこ	3,000

寛舗重慶火鍋	14,000
喫茶泉輪	3,000
キッチンくじら	3,000
京都中華物産	14,000
京大生協	3,000
京大多浪交流会	5,000
京のつくね家	10,000
串揚げ串焼き棒野	3,000
國田屋酒屋	5,000
熊野寮F棟	11,000
くまのワインハウス	5,000
シネマ研	3,000
社会科学研究会 ピース・ナビ	3,000
聖護院早起き亭うどん	3,000
白川和弥	3,000
シンゴリラ	9,000
深夜喫茶 しんしん	3,000
炭火焼隠屋	3,000
セブンイレブン京都神宮丸太町店	5,000
セブンイレブン吉田近衛町店	3,000
全学連	9,000
第一旭 熊野店	3,000
宅配ワック	5,000
竹内自転車商会	3,000
タコとケンタロー	7,000
蛸安	3,000
たつや 古物	7,000
中華料理 火楓源	12,000
天寅	3,000
哲学研究会	5,000
てらこや	3,000
天下一品 銀閣寺店	3,000
中村真二	14,000
西村結生	12,000
日本バプテスト京都教会	1,000



博多長浜ラーメンみよし	3,000
ハバットハウスオブジャパン	10,000
ビンタン食堂	4,000
ファミリーマート聖護院店	3,000
ブラウニーブレッド&ベーグルズ	3,000
平安湯	6,000
ベーカリー チェルキオ	3,000
本格ソウルBBQ YABOO HOUSE	17,000
本郷スタディコンサルティング	7,000
麻雀POTTI	9,000
メディアインパクト	14,000
焼肉里乃家	3,000
安本バイクプールレンタサイクル	3,000
吉田チキン京大前店	3,000
ラ・タコ	5,000
倫理学研究会	3,000
わたつね	7,000
誠光社	3,000
	408,000

企画出費

企画名	支払額
『バーフバリ』マサラ上映会	3,000
〇〇太解禁	1,000
1日一回大文字火床	2,000
1日一回登頂	3,000
AB棟間綱引き	2,898
BC棟間コンパ・地下	1,887
MainCraft熊野鯖	2,200
RITZ PARTY	4,000
RRR上映会	1,500
YouTubeShortsメシ	5,000
あたたまり屋	5,000
アップルパイ食べる	2,500
ありがとうの木 リターンズ	110

アル中カラカラコンパ	3,500
ウォッカ道	10,000
うろ覚えファミマ	220
エアプ合コン	3,000
エクストリーム帰寮	70,000
エス・アンダーソン	4,780
かつおのわらやき	3,000
カルディの変なお茶全部飲む・カルディの変なお茶以外全部飲む	18,000
クイズ！テキサゴン	2,910
クスノキかざりつけ	4,301
クッキー★コンパ	2,000
くまの湯	5,000
グラップラー刃牙コンパ	3,000
ゴミバケツプリン・ぐりとぐらのカステラ・からすのパン屋さん	22,000
コンパクトじゃない食パンを作ろう	641
サイゼコンパ	10,000
さいだのサイダー	2,748
シネマ上映	18,310
じゃんけんトーナメント	1,000
シャンパンタワー	10,000
ストローメガネコンパ	2,760
たき火	5,000
たらふく朝マック	15,000
テキーラであそぼ	5,710
とけいだいせんぎょ	3,000
にとりたに人狼	500
ぬいぐるみが連れ去られるのを指を咥えている	1,000
ハッピーシュガーライフ	1,262
ハロー！コンパ	4,665
ビールかけ	5,000
フェラムネコンパ・水切りの石戻す	8,230
フライドチキンで骨格標本・標識再補法・利き着ぶくれ高野さん	4,840

プラセボ	3,000
ブランコ再建	4,807
フルメタルパニック！	2,000
ベイブレード大会	8,000
ベーシストコンパ	5,000
ポーカートーナメント	10,000
マイティー講習会・マイ将皇帝戦	5,000
まえだりょう祭	3,000
マッドハニー	10,000
マリーアントワネットになろう	927
みんなの小学校校歌・高校ジャージコレクション	6,000
ゆあーんゆよーんやや詩人	2,000
ラブエール早飲み	1,965
ローニンを探せ	4,446
ローリングストックホルム	2,767
闇揚げ・賞味期限切れコンパ	7,000
河の企画諸々	12,000
河合新宿コンパ・駿茶コンパ	4,730
外山合宿同窓会	5,000
学寮交流コンパ	29,998
鴨川イカダレース	3,459
鴨川すくい	3,000
鴨川ラブショット	2,935
甘いものコンパ	2,000
議事あるよ・すきあらばけいおん！	10,000
吉田山かくれんぼ	4,200
京大ケイドロ	2,119
京都駅大階段グリコ	1,082
限界メンバトル	2,240
合格発表	1,800
三回生コンパ	10,000
四条大運動会	3,000
寺井企画諸々	2,730
寺田さん企画諸々	23,286

持留企画諸々	4,600
時計台占拠	2,500
七五三	5,000
手刀クリームチーズ	1,290
周回走・卒論王	6,000
勝手にヤンパオ	7,683
小出ドーナツ	4,862
小澤企画諸々	3,642
食堂水泳自由形	890
深夜写経	550
身内やばい人コンパ	8,473
人間シャンデリア	10,000
占いたい！	2,000
善良コンパ・全飲・単色コンパ	11,110
全手動マイニング	1,200
全寮餅つき	5,000
全力TOEFL受験	996
大酒豪	1,888
鉄扉コンパ	5,000
二郎系はしご	1,000
虹になろう！	9,000
日本銀行券・改	200
猫になりたい	1,985
乃木坂46「新参者」Live	4,461
髪の毛長い人コンパ	4,742
非合理かき氷	2,654
本返せない人コンパ	1,984
湊総長、清水の舞台から飛び降りる	415
明るい歌限定カラオケ・暗い歌限定カラオケ	6,000
餅をついて食べよう	1,500
癒しの空間	3,729
藍染め	17,967
利き酒	10,000
理農学コンパ	30,000
寮祭パーカーにうさ耳をつけよう	550

臨キャパ作成	30,000
労いバチェラー	500
浪人留年コンパ・間常夜鍋	10,000
	704334

各寮祭企画総括は末尾または別ファイルにあります。

## 第117期方針

### 常任委員会

#### 1.総論:

##### 1-1.117期の方向性

大学の自治そのものが破壊されてきた今、京大における自治は様々な形で攻撃、分断されている。全国的に見れば自治的な空間はほとんど残っていない。熊野寮は本当の最後の生き残りというような状況になりつつある。数多の自治寮がつぶされてきた中で、生き残ってきた熊野寮には闘いの展望と力がある。ここが最後なのではなく、むしろここが最初、ここが全国の学生を引っ張っていくんだ、という精神で自治寮防衛を貫徹していこう。

後述の情勢提起の繰り返しになるがそのためには情勢認識の議論が必要不可欠である。今、熊野寮を取り巻く状況は激甚なものになっている。当局からの度重なるネガキャンと介入を示唆した通告、あらたな処分呼び出し。単にこれだけ見ても熊野寮への自治潰し攻撃が激しく行われているのは明らかである。しかしこれに反撃するには熊野寮が社会の一部であることを捉えなおさなければならない。どのような社会情勢の中に寮が置かれているか、どういう攻撃がかけられているのかをはっきりさせることが必要だ。そうでなければ方針を見誤るし、そうすることで寮外でも同じ攻撃と闘っている人、団体と連帯しより広範な陣形を作ることができる。

一方で寮内の議論について、前提的な不一致が省みられないまま捨て置かれてしまう状況がある。特に今年は昨年の総長室突入の総括がしっかり為されていないこともあって、総長室突入議論の際に根本的な部分でも認識が異なっている。寮内での一致なくして寮自治を存続・拡大していく闘いは不可能だ。完全に解決することは難しいかもしれないが乖離が拡大し再生産されることは避けなければならない。来年度の寮自治会の活動の基盤を作っていくのは新歓期までの寮内議論だ。寮自治会の活動に関するより内容的な議論を持ちかけ全寮的に闘う団結の実現を目指す。

##### 1-2.自治論:

自治とは何か。自分たちのことは自分達で決めることだ。しかしなぜ自分たちのことは自分達で決めるのだろうか。

一つには生活・権利を守るということがある。京大の現状を見ても分かるように権力による一方的な管理を許しては私たちの権利や自由はどんどん奪われていく。個人では到底当局や国の権力に対抗し得ない。それを自治会という生活に根差した集団があることによって、自分たちの手で権利を勝ち取り、権利を認めさせてきた。

そして自治をしている根本には人間解放の思想があるだろう。自治をすることで、管理されている中では決して生まれないより良い、より人間集団の可能性を引き出すものが作り出され得る。この自治が持つ可能性が私たちを自治に引き込むのではないだろうか。

熊野寮に限らず、自治寮はすべからず権力からの攻撃を受ける。したがって、自治寮防衛は「防衛」と言いながらその内実には権力からの弾圧に抗し、権力を奪いにいく「攻め」の闘いである。大学の自治寮、労働組合をはじめとした自治は、これまで全国、全世界でことごとく潰され、人々は分断されてきた。そんな中でも、熊野寮は攻めの姿勢で権力と闘える空間、団結できる空間とし

て処分・逮捕弾圧、警察権力による家宅捜索、ネガティブキャンペーンなどの攻撃に屈せず残ってきた。これまでの自治寮防衛の地平をさらにレベルアップさせ、熊野寮に対する攻撃を、熊野寮だけに対する攻撃ではなく社会全体への弾圧・分断攻撃であると捉え、国家権力からの弾圧と闘う最前線として全寮生は主体的に自治寮防衛を闘おう。

### 1-3.情勢提起:

熊野寮にかけられる攻撃は、社会の情勢によって規定されている。それは熊野寮が社会的な存在であり、国家の政策として寮つぶし、自治潰しが行われているからだ。したがって、熊野寮への攻撃やそれに対する方針について一致するためには、そして寮外に打ち出していくには、情勢認識で一致することが不可欠である。その認識の上で、以下情勢について述べる。

昨年2月ウクライナ戦争が始まり、今年10月にはパレスチナの蜂起をきっかけにイスラエルによるパレスチナへの虐殺が始まっている。そんな中、東アジアでは台湾有事が叫ばれ、中国との戦争が構えられている。このような世界の戦争情勢の中で日本はアメリカの軍事的枠組みにコミットする形で戦争できる国への歩みを加速させている。

昨年12月には安保三文書(国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画)が決定され、それは「戦後のわが国の安全保障政策を実践面から大きく転換するものである」と明言されるように、日本の「防衛力」を抜本的に強化していこうというものだった。その具体的な準備として2023年度から5年間の軍事費を総額約43兆円へと倍増させる方針が打ち出され、改憲案が作成され、自衛隊基地への敵基地攻撃能力の整備が進められている。さらに今年5月には被爆地ヒロシマでG7サミットが開催され、核抑論、つまり核の保持を肯定する広島ビジョンが出され、戦争を激化させるウクライナへの軍事支援も決まった。反戦運動、反核運動を潰し、戦争へ突き進んでいくという岸田政権の姿勢の明確な表れと言っていいたいだろう。

日本が戦争へ突き進んでいく中、大学や自治会もそれに無関係ではいられない。何故なら戦争は国家のあらゆる人・物を動員し行われるからだ。またそれ故に戦争反対勢力を潰す攻撃がかけられるからだ。

昨年は「先端的な重要技術の開発支援に関する制度」を一つの柱とする経済安全保障推進法が策定され、「経済安全保障推進会議及び統合イノベーション戦略推進会議の下、内閣府、文部科学省及び経済産業省が中心となって、府省横断的に、経済安全保障上重要な先端技術の研究開発を推進します。」とするKプログラム(経済安全保障重要技術育成プログラム)が始まった。産官学連携で戦争のための研究開発を進めようというものだ。

今年には稼げる大学、政府の言いなりになる大学を完成させる国際卓越研究大学制度が始まった。つい最近では、国立大学法人法改正が狙われており、その中では国際卓越研究大学制度で特段問題になっていた、学外委員を含み、強力な権限をもつ合議体(運営方針会議と言う。運営方針委員3人以上と学長で組織)を特定の国立大学(京大も含む)に設置することが義務付けられている(※1)。学術会議も政府の圧力によって完全敗北を喫している。

「政府からの介入反対」も「軍事研究反対」も失った名ばかりの「大学の自治」、「学問の自由」が現在の大学を取り巻く状況と言っていいたいだろう。

こうした中で京大における自治潰し、国策(戦争推進)に反対する運動への攻撃は激しさを増している。熊野寮には寮自治を否定する内容の通告が繰り返され、全学自治会同学会再建準備会は何かするたびにネガキャンされ、吉田寮は立ち退き訴訟をかけられて今年2月には判決が出るという状況である。全国に目を向けると泉学寮が潰され、反戦運動に関係した学生への処分策動が愛知大、広島大で行われている。

そして今回、新たに5人の学生(内4名寮生)に対して処分に向けた呼び出しが行われた。理由とされているのは昨年の総長室突入だ。無学籍者2名への出禁処分が突入直後に行われたのに対し今回の呼び出しははるかに遅く、当局側の動揺は見て取れる。しかし一方で今回の呼び出しはそれだけ当局側がなりふり構わず、学生の権力を、大学の決定に対する関与を徹底的に潰しに来ていることを意味している。

熊野寮にかけられている攻撃は何も熊野寮だけの問題ではない。現大学当局を何とかすれば良いというだけの話でもない(その上で当局との力関係を築くのは大事)。これらの攻撃は社会全体に対する分断攻撃だ。分断に対して断固闘う、一緒に闘うという陣形を広げていくことが今の情勢に対する最大のカウンターになる。敵が大きすぎるように見えるかもしれないが、それに打ち勝ってきたのがこれまでの熊野寮の実践であり、処分反対運動である。最前線には立てないという人もいるかもしれないが、熊野寮に住み、議論すること自体がその実践を作っている。

またこの激しい情勢に対し各地で同じ攻撃に対し闘う運動が起こっている。積極的に連帯し、国策を、戦争情勢をひっくり返すような闘いを作っていこう。  
(※1)13日、改正案が成立した。

## 2.各論

### 2-1.反戦:

情勢でも確認したが日本が戦争に向かって突き進んでおり、大学もその国策の中で位置づけられている。これから起こる戦争がどういうものか、何が原因なのか、どう対処するのか、という議論も寮内で巻き起こっているが、117期ではまずこの戦争情勢下で自治寮としては戦争絶対反対であるという方向を確認したい。戦争はそれがどういうものであれ国境によって人々が分断され、国家権力によって動員され、殺し合いをさせられるものである。最悪の生活破壊であり、権利破壊である。また戦争の具体的な様相を考えた時、戦争情勢下で我々は寮で共に暮らす留学生と銃を向けあうことになる。熊野寮がこれまで作り上げてきた寮自治とは全く対立するものだ。

反戦など当たり前で、自治にはそもそも反戦の精神があるという意見もあるが、戦前は結局対抗しきれず、学生自治会は報国団体へと変貌した。今の激しい戦争策動の中で改めて寮の方針として反戦を確認し貫いていく必要があると考える。

具体的には総長室突入の時のように寮生に反戦闘争への参加、連帯を呼びかけ、情勢の議論をしていきたい。また同学会再建準備会では全学的な反戦自治会建設が目指されている。そこについても議論を重ね、今迫っている戦争情勢に対峙できる学生の団結を作っていく。

### 2-2.反差別:

反差別は難しい。何故なら社会には差別があふれており、それは単なる悪意ではなく構造の問題だからである。支配者が支配するために被支配者を分断できる構造を作るからである。その構造の中で生きてきた、生きている私たちは誰も、差別に関して無謬の存在ではいられない。そして寮生同士の分断が引き起こされる。意識的にならなければその構造を見破ることすらできない。そしてその構造を認識したうえでもそれを打破するのは至難の業だ。皆が無意識で作り出しているものを打破するには、全員が自ら問題点を認識し、それを改めるための意識的な自己変革を求めなければならないからだ。

しかし難しいからといって逃げるわけにはいかない。熊野寮は個人の快樂のためにあるのではなく、万人の解放のためにある。寮を真に(あらゆる)人間の解放の場にしていこう。

寮において、特に差別が具体的に表れるのはハラスメントの問題である。今期は、まずハラスメントを寮自治会としてどう捉え、何に対して立ち向かうべきなのかを具体化する段階から始めていきたい。ハラスメント対応グループや人権擁護部とも連携して進めていく。

### 2-3.SC・SC会議(組織論):

SCは全寮の団結を作っていく組織だ。重要な問題に対して寮のこれまでの総括、情勢を踏まえながら、議論を重ね方針を作っていく。そしてその方針に人を組織し、実行していく。

SC会議参加者が少数に固定される問題は毎期のように総括されている。これは以下のようなことを引き起こす。

- ・検証する視点が減り、重要な部分を見逃したまま全寮に方針提起をしてしまう。
- ・固定化された人の負担が増え疲弊する。

対策としてこれまでも様々なことが試みられてきた。117期も以下方針を立てる。

- ①SC会議で扱う議題を全寮に周知し、その議題の時だけでも参加する事をしやすくする。
- ②SC会議で扱われている議題について積極的に寮生に議論を持ちかけ、可能ならSC会議に来てもらう。
- ③扱う議題については正副で事前にある程度整理する。
- ④平SCについて。SCのすべきこと(方針提起と組織化)を正副だけで遂行するのは不可能である。平SCには(正副にもだが)一緒に議論し方針を作っていくこと、方針の貫徹のために動くこと、また動いてくれる寮生を組織していくことを求める。

会議でしっかり議論するためにも議場外でのコミュニケーションを重視する。まずSC同士で。今回の方針の内容や重要議題について会議外でしっかり議論する。そしてSC一人一人がその議論をSC以外の寮生の中にどんどん持ち込んでいけることを目指す。親睦を深めるためミニSCコンパを何度か開くことも検討する。

SCには部会、局の長が入り、委員会の長も慣例的に入っている。これまで通り連携をとっていく。それと同時に、忙しいかもしれないがいちSCとして動いてくれるようはたらきかけていく。

#### 2-4.局:

局はSCの下部組織である。局の方針はSC方針に内包されているが、それを形式だけにしてはならない。現在寮には6つの局があるが、局の存在意義や各活動の目的についてあらためて各局と一緒に確認し、連携して動けるようにする。

#### 2-5.対寮外:

今回提起している大枠の方針を貫徹していく上で絶対に欠かせないのは寮生が寮自治について自信を持って語れることである。自分達のやっける自治に自信を持とう、持てないなら持てるようにしていこう。それなしに寮外を獲得できるはずがない。また語ってみることによって今の寮の在り方を問い直すこともできる。

寮外に向けて目指すのは何か。それは単に寮外生に寮を気に入ってもらうのではなく、今寮や学生自治が置かれている状況、もっと言うと全学生、全社会が置かれているような状況に対して熊野寮と一緒に行動をする存在になってもらう事だ。熊野寮はこれまでも熊野寮に対する攻撃を、熊野寮だけに対する攻撃ではなく社会全体への弾圧・分断攻撃であると捉え、全学的、全社会的な枠組みで反撃してきた。近年では学生処分との闘いがその筆頭だ。同じ攻撃にさらされているならば一緒に闘えるはずである。熊野寮とともに行動してくれることを求め、第三者的に「頑張ってるね」「大変だね」ではなく、根を同じくするそれぞれの問題と一緒に取り組むことができる関係をつくる。また、それができる寮自治会にしていきたい。

一方で寮自治会と一緒に行動する、に至る水路は色々あると思う。最初の入口は「好き」とか「興味」とか、それは大切にしたい。しかし最終的に目指す所については上記の内容を目指していく。

現在熊野寮には寮外に向けて、地域連帯局、寮外連携局、広報局、国際交流局という四つの局が存在している。熊野寮コンパも定期的に開催している。こちら側からコストを掛けて積極的に寮外に入口を設けていて、それぞれ蓄積もある。アプローチが多様であることは良いが、コストを掛けるだけにならないようそれぞれの獲得目標を明確にして行っていく。またそれぞれの活動は寮全体の団結を作っていけるものであるべきであり、この点について再度確認していく必要がある。

熊野寮コンパについて。まず116期の寮で開いた二回コンパについて、学習会的に提起することで寮自治に関する話はしやすくなったという意見がある一方で、寮外への打ち出し方を学習会中心にし、参加者を興味あるものに絞るような方向にしたために、小規模になっていた。今後もアピール的に提起を行うのは続ける予定だが、折角開くならより多くの寮外生と交流できるものにできるよう、打ち出し方等は考えていく。また参加者が少なかった原因の一つとして寮生を多く巻き込んで実施することができなかったということがある。どういう獲得目標で実施するのかしっかり議論をして、寮生皆で運営・広報をする熊野寮コンパを目指す。

#### 2-6.くまのまつり:

くまのまつりは自治発信のおまつりとして確立されてきた。春のくまのまつりでは今年新たに処分問題に関するブースを設け、夏の夜まつりでは処分問題を中心とするアジェンダが行われた。特に一回生が自治について考え、自分の言葉で発信することができる場になった。

117期では春のくまのまつりに向けて動くことになる。春は入ってきた新入寮生とどのようにして、どんな内容で自治発信企画を作っていくかが鍵になる。どのようにしての部分では昨年は寮生が提起し新入寮生と寮生がそれについて議論するという形で新入寮生の主体性を引き出して自治発信をすることができた。来年もそのノウハウを踏襲しようと考えている。内容に関しては激動する情勢や寮の方針に合わせて更新していく必要がある。今年は処分問題に関して新たに提起したが、不当性や寮自治への攻撃という内容は出せても、処分闘争やそのもととなる情勢認識についてまで伝えきることはできなかった。もっとも全てを新入寮生会議だけで何とかしようとしても上手くは行かないだろう。今年は秋のまつりの発信でグレードアップを図った。117期では後述する新歓期の学習会も合わせながら、新入寮生会議で寮、大学に限らないより広い政治的な議論もできるようにしていきたい。寮の魅力も語りながら、政治的な提起もゴリゴリできるまつりにし、地域の人達に単に「正しく理解される」だけでなく、この熊野寮への自治潰しが単に熊野寮だけの問題ではないことを訴え「一緒に闘ってくれる」ことを求めていこう。



寮や大学の話に加えて「政治」や「社会」の話もするというのではない。まず社会がどうあるべきかを考え、その思想に基づいて寮のあり方を提起する。そのようにしてこれまで熊野寮は「この社会においてどのような学生寮が必要か」を体現してきたはずだ。

同じ社会の情勢に対峙し、私達が出した答えが現在の自治寮熊野寮を発展させ守ることだと発信すること、そして地域のみなさんはこの社会に対してどんな答え/行動を選びますかと問うこと、その一つは熊野寮の活動への賛同であって欲しいし、各々が自分の生活圏で決起して社会を変えていく主体になってほしいと提起できるような体制を目指す。

## 2-7. 処分闘争：

学生処分の阻止・撤回に寮自治会として取り組む。学生処分は個人攻撃でありながら、その実は社会全体に対する分断攻撃である。当該の学ぶ権利を脅かし、奪うことで社会と切り離し、人々を委縮させてその声を圧殺する団結破壊だ。116期では現在、2022年の寮祭企画「総長室突入」に参加したとして寮生を含む5名の学生が京大当局に呼び出しを受けている。学生処分をはじめとした学生の権利縮小を推進する湊総長の独裁体制に抗議の声を突き付けた学生に対し、処分が狙われているのだ。しかも今回の呼び出しの理由はすべて「(本部棟への)侵入を扇動した」「喧騒を激化させた」というもので、大学職員の業務妨害を理由にしていたこれまでの処分よりも当局が踏み込んできていることは明らかである。

しかしこれまでの処分闘争の地平から、寮内・周辺地域で、処分が不当であるということはスタンダードになってきている。116期では寮内・NFでこれまでの処分闘争をまとめた学習会も実施されたほか、上述の5学生呼び出しにも屈せず総長室突入を決行し、大学職員・警察権力に一切弾圧をさせずにキャンパスを解放区にすることができた。寮として、学生処分とそれに対する闘争についての総括を継承し、発展させていこう。また、今年の総長室突入に寮外生を含む2、300人の学生が参加したり、上述の呼び出しに対する反対署名が寮外生からも集まったりと、キャンパス内でも徐々に学生処分の不当性が認識されつつあることが確認されている。学内での情宣・スタンディング・集会、そして後述する新歓闘争を貫徹し、寮内、キャンパス、社会全体で「学生処分を許さない」という空気をさらに高めていこう。

これまでの処分闘争では処分が不当であるだけでなく、処分がどのような情勢下で起こっているかを捉え、処分は皆の問題なんだ、国策に対して共に闘おうと団結を拡大してきた。「一人の仲間も見捨てない」と国策、およびその暴力装置である学生処分に真向から立ち向かってきた。大学改革、さらには戦争政策をも打ち返さうと団結がここにはある。この地平をより発展させていくことがこの激しい自治潰しの中で方針を貫徹する鍵となる。寮自治と処分闘争とは不可分一体だ。全寮生は処分粉碎に立ち上がろう。そして処分粉碎で作った団結を、全学に広げていこう。

## 2-8. 全学自治会：

ここ数期、全学自治会再建は方針として掲げられてきた。全学自治会再建はこれまで寮として行ってきた処分闘争、時計台占拠、総長室突入、熊野寮コンパなどで確認されてきた方針を具体的組織として結実させようという運動である。今京大は学生を徹底的に分断し、管理し、大学の自治を政府に明け渡し、戦争政策を担おうとしている。熊野寮にかけられている攻撃、他の学生団体にかけられている攻撃、バラバラに掛けられてくる攻撃は全て学生全体に掛けられている攻撃だ。それを全学生で跳ね返す全学自治会が今必要だ。

学生が団結すれば国による分断攻撃にも屈せず、学生の権利を守り、拡大することができる。大学を変えることができる。50年以上戦い抜かれてきた熊野寮の自治を担っている私たちは学生にその力があることを知っている。また昨年、今年と総長室突入には200人ぐらいの学生が参加している。その一方で今年は寮祭初日の360度タテカンにも総長室突入にも大学はまともな弾圧ができていない。全学的な学生自治権力の樹立への機運は高まっている。この状況を作り出してきた熊野寮が先頭に立って、胸を張って学生自治の展望を語り、学生を全学自治に獲得していこう。

まず全寮生は来年2月の同学会代議員会に集まろう。皆で学内での組織戦を展開し、全学的な学生自治会の実現を目指す。

## 2-9. 他自治会との連帯：

京大にはまだまだ学生自治会が多く残っている。学生自治会建設の動きもある。アンテナを張って積極的に連帯していこう。自治会それぞれで直面している課題は必ずしも同じではない。しかし同じ管理強化、自治潰しにさらされる立場である以上共に闘っていくべきである。SC会議

では各学部自治会からの報告を受けている。単に報告を受けるだけでなく、イベントに参加したり逆にこちらから呼んだりして連携が取りやすい体制づくりを行う。協力できることにはどんどん協力していく。

#### 2-10.学寮交流:

日本全国にはまだ幾つも学生自治寮が残っている。熊野寮と同じく廃寮化攻撃にさらされている寮もある。個々の寮に対する攻撃に対して全国学寮で連携して反撃していく陣形を作っていく必要がある。熊野寮としては国策としての自治潰しと闘う自治寮防衛を全国学寮に積極的に提起していきたい。

これまでと引き続き、春の学寮交流会への参加と日就寮の入寮パンフまき応援を行う。

#### 2-11.吉田寮について:

今の吉田寮をとりまく情勢は危機的である。2月16日に吉田寮裁判の判決が下される。これまでの自治寮の廃寮化をめぐる裁判で寮側が勝ったことはほとんどない。最悪の場合、来年度中に食堂・現棟への強制執行が来ることもありうる。つまりは、急がなければいけないということだ。

そのうえで、現状では吉田寮自治会とうまく連携は取れていない。吉田寮と熊野寮では方針に大きな違いがあり、共闘するところまで方針についての議論ができていない現状がある。

情勢提起であったように、現在国は戦争に向かっており、その中で全国で自治潰しが行われている。そしてその弾圧は今後さらに激しくなっていくだろう。現に国立大学法人法改正によって大学の自治は国によって否定された。この中で本当に自治寮を守っていくためには、現在の大学における自治潰しの遂行者である大学当局に期待はできないし対決も避けられない。そして大学当局との非和解性を自覚し実力闘争、自分たちの利害を体現するための団結に依拠した闘争を方針として掲げ続けているのが熊野寮である。

しかし四寮会議で共有された吉田寮の方針は、この情勢の中で吉田寮を守ることもできる方針とは到底言えないものであった。理事や教授会への働きかけ、譲歩案の提示、新棟への食堂・現棟機能の移転など、大学当局の良心に期待し、食堂や現棟を切り縮めながら生き残っていこうとする方針が提示された。

熊野寮としては、当局との非和解性を自覚したうえでの実力闘争方針に吉田寮を獲得することを目指す。

また、ここまで方針や情勢についての議論ができてこなかった理由は、吉田寮には当局の存在を絶対視して当局に許された範囲内で活動し、非和解的に闘う学生を徹底的に排除しようとする思想潮流(「赤ヘル」と俗称される)が存在しているからだ。この勢力は単に路線的な不一致があるというだけの問題ではなく、過去にはNF全学実の私物化や同学会執行部選挙の破壊など、闘う学生の排除を暴力的に行っていたこともある。いま、吉田寮の中で闘う勢力が生まれているにもかかわらず、赤ヘル勢力が吉田寮の闘いのストッパーとして機能している現状も四寮会議などで露呈している(※2)。熊野寮自治会としては、吉田寮の中で赤ヘル勢力に獲得されていない闘う勢力と団結する姿勢で方針を提起していく。また、赤ヘルについてなど特殊な背景事情は、学習会を開催するなどして全寮的に共有していきたい。

今後は吉田寮と共同でコンパや学習会などを開催し、吉田寮生と気軽に討論できる関係を作ること、吉田寮の対話路線に獲得されきっていない層を熊野寮の路線に獲得していく。また、四(五)寮会議などを開催し、公式な場での議論も行っていく。

(※2)四寮会議で、吉田寮の若手から実力闘争に関する質問がされた。それに答えるかたちで三里塚闘争の話をしようとしたところ横からストップが掛けられ、その後討論自体を締める流れになった。

#### 2-12.新歓闘争:

新歓は闘争である。というのも今の社会で約20年生きてきた人間の管理・分断・競争が当たり前となっている思想を粉碎し、自治に獲得しなければならないからだ。

・新歓・・・まずは「新歓コンパ」の位置づけから一致する議論をしていきたい。新入寮生と積極的に議論し、寮自治に獲得していく場としてコンパを構え、その意識を持ってSCを中心とした上回生がコンパに参加するよう働きかけていく。

・学習会強化・・・これまでもオリエンテーションやくまのまつり新入寮生会議が新入寮生を熊野寮の自治に獲得すべく奮闘してきた。しかしそれだけでは厳しい情勢にもなっている。京大への大学改革攻撃、確約・団交無視、吉田寮問題、処分闘争、等々、ここ数年の寮とそれを取り巻く

状況は激動している。新歓期に学習会を多く打ち、上回生も含め熊野寮寮、学生自治に対する認識を深められるようにしたい。

・寮外へのはたらきかけ・・・全学的な学生の学生自治への獲得も課題である。新歓期のイベントやキャンパス情勢で何度かキャンパスに繰り出し、当局のネガキャンを打ち破っていきたい。熊野寮新歓の延長として時計台コンパのような戦闘的で開放的なイベントを打ち、大学が学生のものであることを示す行動を春先の熊野寮新歓の一環として打ちたいと考えている。。

#### 2-13.学習会:

新歓にも述べてある通り学習会を強化する。新歓期に集中するのはもちろん、それ以外の時期も多く打ち出し、ブロック会議などの議場では扱いきれない部分を補いたい。またSC会議で内容を精査する前提で、個人提起も歓迎する。寮自治会として学習会をやるべきだと思う内容があればSC会議に提起してほしい。必要であれば予算も出せるように学習会予算は多めにする。

#### 2-14.財政:

現在自治会会計は右肩下がりとなっている。このまま行くといつか行き詰まるので少しずつでも財政改善を目指す。一旦は来期部長、委員長や局長ともに予算について検討する場を設けた。また素晴らしいアイデアがある人がいればぜひ積極的に提起してほしい。特に無駄な支出を生んでいるのは購入した物品の扱いの悪さである。SCとしてはSC室の掃除・整理を行い寮の物品が散乱してしまわないようにする。また今SC室等で放置されているコンパのあまりも有効利用できるようにしたい。全寮生には寮の物品を使う際は丁寧に扱い、使用後は元の場所に戻すように呼びかける。

また当局に出させるべきところは当局にガンガン要求していく姿勢も持ちたい。

#### 2-15.資料保存:

熊野寮には過去の総括、方針、ビラなど多くの資料が残されているが、資料の保存状態は良いとは言えない。放置しておく、熊野寮の軌跡が永遠に失われてしまいかねない。今期から寮の資料の保存と整理を本格的に始めていく。現在ある資料保存PTをSCの下で資料保存を行う組織として位置づけ、そこに寮生を組織して活動を行う。

手始めに寮に関する資料の収集とスキャンによる電子化を行う。資料はSC室、地下にあるものの他に卒業生等に打診して集める。スキャンに必要な機器を購入し、順次資料のスキャンと整理を行う。スキャンしたデータの公開範囲については別途議論が必要となるが、当面は寮内に限る。

寮の資料の保存・整理が適切になされれば有事の際に素早く必要な資料を確認できるし、寮生が寮に関する学習会を行う際に大きな助けとなる。

詳しくは別議案を参照してください。(関連議案にあります)

#### 3.予算

SC新歓・・・春先のSC新歓の料理、飲み物に使う

ブロック新歓補助費・・・各ブロック2万円

寮生大会差し入れ・・・寮生大会や代議委員会への差し入れに使う

物品補充・維持費・・・街宣車の維持、トラメガの購入、その他文房具や寮の備品補充に使う

寮外交流費・・・後期末と新歓期のキャンパス情宣、熊野寮コンパに使う

学寮交流費・・・日就寮パンフまき、春の学寮交流会で10万づつ。今回は京都で行われる予定であり、全国からきた学生の布団レンタルなどに5万。

会議運営費・・・ミニSCコンパなどで使う

学習会コンパ運営費・・・学習会にかかる費用とコンパを学習会後に行う場合の費用

PT予算・・・PTが発足しお金が必要な場合はSCの判断でここから出す

資料保存PT・・・スキャナの購入と新歓に使う。

局予算は各局の方針を参照

項目	収入	支出
----	----	----

自治会会計より	¥2,868,826	
SC新歓		¥100,000
ブロック新歓補助費		¥180,000
寮生大会差し入れ		¥10,000
物品補充・維持費		¥250,000
緊急時対応費		¥80,000
寮外交流費		¥250,000
学寮交流費		¥250,000
会議運営費		¥50,000
学習会コンパ運営費		¥150,000
PT予算		¥10,000
資料保存PT		¥50,000
広報局		¥93,830
国際交流局		¥80,000
寮外連携局		¥265,000
地域連帯局		¥570,000
増築建設局		¥59,996
対処分戦略推進局		¥420,000
計		¥2,868,826

## 広報局

### 【前回議事録への返答】

A406原：メディア出演について広報局は囓んでいたのですか？

←116期ではSCメンバーが対応しました。平SCと広報局を兼任するものが主体的に取り掛り、ノウハウがたまったことから、今後はSCのチェックを受けながら、広報局が主体的に対応したいと思います。

B105片桐：予算は表にして出しましょう

←表にしました。すみません。

### 【前回会議からの変更点】

2.4予算のところを変更しました。

## 目次

0. はじめに (広報の意義)

1. 総論

2. 各論

2.1 会議運営

2.2 広報戦略

## 2.3 具体的活動

## 2.4 予算

## 総論

### 0. はじめに(広報の意義)

広報局に限らず、部局は委員会や部会のような寮という空間で生活していく上で必ず必要な機関と違って、最悪なくともよい機関であるのかもしれない。しかし、予算を割いても広報する必要があると主張したい。ここで広報の意義を確認して、今期の方針へ移りたい。熊野寮における広報の意義を5つ挙げてみた。

#### ① 知名度向上

大前提として、熊野寮には知名度がまだまだない。吉田寮のことは知っていても、熊野寮のことは存在すら知らない。格安で住むことのできる福利厚生施設としての熊野寮の知名度を向上することで、経済的な理由で進学を諦めようとしていた高校生に学ぶ自由を保障することができる。更に、抑圧が尽きないこの世の中で人間解放の場としての熊野寮をもっと広めたい。

#### ② ネガティブイメージ払拭、過激派上等

たとえ、熊野寮を知っていても、なんかやばい寮というイメージを持っている人間が大半である。このようなイメージは熊野寮を潰そうとする大学当局、警察、マスメディアなどによるネガティブキャンペーンによって強化されている。そのような創られたネガティブイメージを払拭し、イメージ向上を図る必要がある。ただし、イメージ向上の際に「危なくない」、「過激なのは一部だけ」のような「健全さ」をアピールする消極的な姿勢に陥ってはいけな。寮生による真剣な議論によって築いてきた寮のあり方を、胸を張って堂々とアピールしようとする積極的な姿勢を持つ必要がある。過激であるというレッテル貼りによって、「近づかない方が良さそう」、「危険である」というマイナスイメージが植え付けられている。それに対して、「危なくない」、「楽しいところもあるよ」というアピールはそのような負のイメージを払拭することはできるだろう。しかし、それで熊野寮の実態を伝えることはできない。③に述べる獲得にも繋がらない。熊野寮に政治的な側面は付きものだし、やはり「過激」なのである。むしろ、その「過激さ」が寮そのものや楽しさを守っているし、面白さそのものなのかもしれない。「過激だね」と言われたら、どういうことに対して過激だと言っているのかに注目して、事実として正しいことには「そうです、そういう意味では過激です。でもそうして自分の意見を表明したり、学生の権利を守ったり、国家権力からの国家権力に不当に介入させることを防いだりしています。」と堂々と答えよう。熊野寮の持つ過激さは必要な過激さである。「過激」の中身を丁寧に説明してポジティブなものとして語ろう。そしてそこも含めて応援してもらうような広報を目指す。このようなネガティブイメージ払拭に留まらない、過激派上等の精神に基づく広報を目指す。

#### ③ 獲得

熊野寮という存在を認識して、世間の噂のようなやばいところではなく、楽しい面白い寮であると思ってもらえたとしても、それで終わってしまったら、広報として不十分である。それでは「京大は自由でおもしろい、そして熊野寮はその典型的である。」として、コンテンツ消費されるだけである。今までの広報では、寮の魅力を伝えることに重きが置かれていたが、熊野寮や京大の現状を伝えることも重要である。タテカンが規制され、京大構内のイベントを職員・警察が妨害する。そして、停学などの処分も乱発する。大学当局が、そのように学生の活動を邪魔して自由を奪っている。熊野寮のような自治空間を破壊しようとしている。熊野寮自治会は権力を利用した抑圧を絶対に許さず、闘っている。このことを知ってもらい、一緒に声をあげてもらいたい。不当なガサや処分を受けたときに抗議の声をあげてくれる人の獲得を目指したい。

#### ④ 魅力 再認識・新発見・創造

広報するには、その対象をよく理解することが求められる。広報を模索するなかで、熊野寮にはどのような魅力があるのかを再認識するだけでなく、新たな魅力を発見し、更には新たな魅力を創り上げたい。

## ⑤ 交流

広報活動を通して、今までにはなかった寮内の交流を作ることができる。いろんなアイデアを出し合い実行する中で、今までの知り合いの知らなかった一面を知ることでもあるだろう。

以上は寮外に向けた広報の意義である。寮内広報の意義もここで確認する。広報局に限らず、寮の会議、イベントに顔を出す寮生が固定化してしまうという問題がある。もちろん、寮に関することに使える時間は人それぞれであるし、寮への関わり方に正解などあるわけない。しかし、そのような問題は、寮の現状がわからず、関わりにくいという原因があるのではないだろうか。寮で何が起きているのかを全寮生が把握できるように、寮内広報にも力を入れたい。

### 1. 総論

広報局は、熊野寮の広報戦略を考え、積極的な熊野寮の宣伝や魅力の発信などを行うことを目的として、2019年12月(109期)に新設された部局である。117期では、「はじめに」で確認した意義をもとに、寮外寮内問わずに広報を行っていく。広報局は寮生の自由なアイデアを実現し、寮外へと活動を広げていくプラットフォーム的な場になることを目指す。

### 2. 各論

#### 2.1 会議運営

116期の熊野寮広報局の会議は来る人が固定され、人数もすくないという課題に直面した。その原因として、広報局が今なにをしているのかがわかりにくいからというものがある。全寮LINEなどを用いて、定期的にどんな活動をしているか周知する。会議は、お菓子などを用意して、食堂の人を巻き込んだオープンなものを目指す。

#### 2.2 広報戦略

SNSやメディアを通した発信は幅広く、多くの人間に発信ができるが、一方向発信であり、コンテンツ消費にとどまり、獲得に繋がらないことが多い。獲得するには、実際熊野寮に足を運んでもらったり、寮生と話したりすることが不可欠である。浅く広い広報からどう獲得につなげるかを模索したい。117期では双方向で顔の見える広報を目指す。また広報局の活動に関与しないとしても、寮生一人一人が寮に住むものとして、寮外生に自信を持って熊野寮の魅力・現状、特に熊野寮の「過激さ」(いわゆる過激派上等の精神)を語り、獲得できるようになることを目指す。

熊野寮のキャラクターである「くまのあじり」を積極的に活用していく。今期はかわいい見た目ののに、とてつもなくアジリというギャップをもったキャラとして打ち出す。グッズもたくさん作成する。

#### 2.3 具体的活動

寮内広報とは寮内生に向けた広報であり、寮外広報とは寮外生に向けたものである。

##### 寮内広報

##### ○寮内カレンダー

コンパや会議の予定を載せたカレンダーを寮内に設置する。

##### ○BLL会議、SC会議、寮生大会の会議

会議で話されたことを短くまとめて、今何が議論されているかを周知し、次の会議への参加を呼びかける。

##### ○寮内掲示板

寮内にはどこでもビラを貼れるが故に情報が分散してしまうという問題がある。ここを見れば、寮の基本情報や現状が把握できるようになることを目指す。

以上の三つともまだ計画段階である。どこに設置するのか何を載せるかなどまだ何もきまっていないので、ぜひ会議や議事録で意見を出してほしい。会議の情報などは寮外秘もふくまれるので、流出しないような工夫を施す。

#### 寮外広報

##### ○広報誌の発行

寮の今後のイベントの告知や寮内の出来事を紹介する季刊誌を発行する。主に熊野寮・京大周辺の人々により深く熊野寮を知ってもらい、熊野寮に愛着を持ってもらうことを目指す。寮内だけでなく、京大生、教員、地域住民などからの寄稿も募り、双方向性を持たせる。113期で刊行された熊野寮通信、吉田寮通信、東竹屋町だよりを参考にして作成する。作成した通信は寮食堂や寮前掲示板、地域のお店等にて頒布予定である。くまのまつりにあわせて刊行したい。

##### ○パンフレット作成

熊野寮がどんな寮であるかがわかるパンフレットを作成する。類似するものとして、入寮パンフレットがあるが、①分厚すぎる、②数に限りがある、③入寮する人向けであるという三点はいつでも、だれにでも配るものとしての難点であった。それを改善して、スリムで全人類に向けた熊野寮紹介のパンフレットを作成する。寮内見学、コンパ、ライブ、情宣などで配ることを想定している。

##### ○寮前掲示板

現状のバス停近くにある掲示板は寮外の方の宣伝スペースになってしまっている。声明文やイベントのビラなどを貼って積極的に宣伝する。熊野寮を紹介するスペースを作って、熊野寮の存在をアピールする。また、声明文や窓口交渉のことを書いたタテカンを新規に制作したい。

##### ○学内イベントへの参加

4月の紅萌祭や11月のNFに参加し、積極的に熊野寮の存在をアピールし、寮へ遊びに来てもらう。情宣や熊野寮コンパが内輪で閉じず、寮学生の獲得につながるような工夫をしたい。112期までは学生自治をひろげるため、主に新歓期に京大裏ツアーというものが行われていた。クスノキ前集合後、ブンピカ(文学部学生控室)、L地下(文学部東館地下)、J地下(法学部地下)、西部講堂、タテカン墓場といった大学構内の学生自治に関連するスポットを巡り、その後熊野寮食堂で交流会を行うといものであった。自治団体同士の団結を深めるという点でも、この企画を復活させたい。珍しい場所をただ巡るだけの企画に終わらず、自治を理解してもらえるように設計する。

##### ○メディア出演

116期では、「よ〜いドン!」、「アンタッチャぶるTV」の二つの番組に取り上げられ、TV対応の対応ノウハウが蓄積されている。ただ、TVは一方向の発信になってしまうし、TV局が取り上げたい方向に持ってかれてしまい、ただ楽しいところが切り抜かれてしまいやすい。どのようにメディアに出ていくか議論を重ねたい。

##### ○SNS発信

TwitterなどのSNSを用いた広報は一方向の発信になりやすい。2019年ぐらいまでは、質問箱というサイト上で「熊野寮生だけど質問ある?」と題して、入寮希望者などからの質問に答えていた。今期で新設して様々な質問に答える。

##### ○寮内見学

今までの寮内見学は寮の施設をただ紹介しておわりになっていた感が否めない。自治、過激派上等精神、学内問題、処分問題などをうまく伝え、獲得できるようなものに改善していく。また、案内するひとが少数に限られていた。寮生誰でも案内できるようにマニュアル化し、さらなる改善のため、見学者の反応や案内者が気づいたことなどを共有できるようにする。

## 2.4 予算

予算は新歓費1万円、その他活動費5万円を請求する。いろんなプロジェクトにお金を出せるようにざっくりとしたものとした。116期でカメラの充電ケーブル、バッテリーが紛失する事態が起きた。カメラを使用するには必要なため、予算請求するとともに、カメラなどの備品をしっかりと管理できる体制を整える。

項目	収入	支出
自治会会計	¥93,830	
新歓費		¥10,000
カメラ備品		¥33,830
プロジェクト費		¥50,000
合計	¥93,830	¥93,830

## 対処分戦略推進局

### 1. 総論(寮自治会と処分闘争・全学自治会)

処分がどういうものであるかを確認したい。それはまず、大学当局や国家にとって都合の悪い学生を大学から排除するものである。当局や国家と闘う学生に対して都合の悪いというだけで一方的に処分を下し、人生を破壊している。この点だけにおいても処分は十分不当である。しかし、当局が処分を行う目的はこれだけにとどまらない。処分の本当の目的は処分をちらつかせることで処分当該以外の学生に対しても当局や国家と闘えなくさせるという、学生の団結破壊である。処分を許してしまうと、学生が当局や国家に対して抗議できなくなってしまう。そうして当局や国家にとって都合の悪い存在である寮自治、学生自治は解体されて行ってしまう。そうすることによって大学を当局が一方的に支配していくために処分が行われている。この点において熊野寮が寮として処分に反対していかなければならない。これが熊野寮に処分局が存在する理由である。しかし、学生はこれまで処分を個人の問題ではなく学生全員の問題だととらえて処分問題に取り組み、全学自治会建設を目指してきた。熊野寮は自治によって成り立っている寮として、自治を解体しようとする処分を許してはならない。さらに、処分は戦争へ向けた大学の管理強化であるということもとらえると、寮として戦争に反対する立場からも処分問題に取り組むべきである。したがって、処分局は処分を一つもさせないように処分闘争を拡大していきたい。

そのためには詳しくは各論をよんでほしいが新歓や署名によって寮内で処分問題について議論し、寮内世論を形成していきたい。さらに、キャンパスや街頭での宣伝によって寮外にも処分闘争を拡大していき、全学自治会として処分に対抗していきたい。

### 2. 116期総括(新たな処分と寮祭・12月集会)

2019年に始まった処分闘争は、大学の決定権をめぐる攻防として学内の力関係を形成してきた。さまざまな学生勢力が学内で政治的な活動を行っている。19年時点ではトラメガを使った宣伝すらできなかったところから、処分を粉碎する闘いで盛り返してきた。

しかし、それは処分問題が「過去のものになった」ということではない。大学の決定権は依然として大学当局がトップダウンで握っており、政府から戦争政策を背景として「ガバナンス強化」を後押しされその傾向は強まっているし、いまだにこれまでの処分は撤回されておらず停学中の学生がおり、11月21日には新たな処分に向けた呼び出しが寮生4名を含む5学生にかけられた。

この状況下で2023年度寮祭が戦闘的かつ解放的に打ちぬかれた。時計台コンパでは1回生を含む若い世代がタテカン防衛やコンパの貫徹に積極的に決起し、時計台前は学生の解放区となった。この日、弾圧職員は巨大タテカンにすら一切手出しできず、完全な勝利を勝ち取った。さらに総長室突入では、本部棟に立てこもった職員たち、学生の声を徹頭徹尾「ないもの」として扱



うという当局側の意識性によって、逆にキャンパスは学生の手明け渡され、警察権力も職員すらも一人もいないという歴史的な状況(2012年以降、集会やイベントの場に職員がいないのははじめて)を作り出した。

ここまで形勢逆転を果たすことができたのは、多くの学生たちが処分に怯まず闘ってきたからである。それを可能にした処分闘争を引継ぎ、さらに発展させるものとして117期を構えたい。

この解放区で何を訴えるのが全学生に真に問われている。この答えとして12月全国学生反戦集会が同学会再建準備会の主催で開催され、全国の学生の反戦闘争の結集軸として闘いとられた。処分局は戦争反対-パレスチナ連帯、処分撤回、大学奪還を訴えるこの集会への熊野寮自治会の賛同についての議論を担い、寮内議論を牽引した。

### 3. 情勢

・処分問題も社会情勢から規定される

→戦争情勢。日本はさまざまな手段で戦争に加担している。大学もしかり。

→5学生呼び出しは学生自治を一掃する攻撃としてかけられた。戦争動員の布石として捉え闘おう。

→反戦闘争と一体のものとして処分闘争を闘う必要がある。

処分は大学当局が決定するわけだが、その決定は国家の意思に従っている。したがって日本や世界の情勢を見ていく必要がある。

まずはいま、世界は戦争情勢である。それはいま、ウクライナやパレスチナで戦争が実際に起きているということ見れば明らかである。そしてウクライナ支援、イスラエル支援といって日本もこの戦争に協力している。さらに言えば京都大学もイスラエルの大学と提携して戦争協力をしている。その中で国公立大学法人法が改悪されて大学のトップに半数以上の学外者を含む合議体を設置して大学を国策に従う機関にしようとしている。このような社会情勢の流れによって当局は大学の管理を強化しようとしている。その結果、今実際に5人の学生が処分に向けて呼び出しを受けている。この処分攻撃は戦争に向けた大学の管理強化によるものだとして反戦闘争と一体で処分撤回運動を闘っていききたい。

### 4. 各論

#### a. 新歓

→トークショー、学習会、コンパなど多様な形態を目指していっぱい獲得したい！

→まつりとの連携

多くの新入寮生には処分は悪いことをした人への懲罰であるというイメージが植え付けられている。したがってまずは処分の本質は総論で述べたようなことであると明らかにしなければならぬ。そして処分に対して一緒に闘っていくように獲得していきたい。そのためには新歓期にトークショー、学習会、コンパなどの多様な形で新入寮生を獲得していきたい。さらにくまのまつりと連携して処分問題を地域の人に発表するということを通じて新入寮生と議論していきたい。

#### b. 寮自治会名義のリーフレット・署名作成・街頭宣伝

116期では、2019年以降の処分闘争を総括し、まとまった見解を提起する学習会を開催した。これをもとに、寮自治会としての見解を公式に出すリーフレット・署名を作成したい。

処分局としてビラを出す場合自治会としての決議が必要であり、あまりひとつひとつの動きに細かく頻度高くは対応できていないのが現状である。今期は、歴史的経緯と現在の状況を大きくまとめたものとして作成し、その内容で寮内での一致を形成することを目指す。以降この一致をもとにマイナーチェンジして更新しつつ、寮の議論を牽引するような基盤としたい。処分闘争の路線を

捉えながら、くまのまつり等各種イベントでも使用できるような汎用性の高いものにできるよう工夫する。

また、5学生処分策動を阻止する署名用紙も作成し、4月あたりを目途に提出する。この署名用紙を用いて、寮自治会としての街頭宣伝やキャンパス宣伝を積極的に行う予定である。全寮に周知もするので皆さんぜひ参加してください。

#### c. 国際連帯

この間、集会や街宣などで留学生からの注目が増えている。戦争情勢の中で全世界的に反権力運動・反政府運動が盛り上がりを見せている中で、処分阻止・撤回を通じて大学から社会を変え、戦争を止める運動として訴える処分闘争は、国際的な広がりを作るポテンシャルのある運動である。

まずはビラの英語版、中国語版の作成をスタンダードにしたり、集会や街宣の場で留学生に質問されたときのテンプレートを作成したりして、広く他言語話者にも主張が伝わるように工夫していく。学術連帯PTや国際交流局など、他の寮内組織とも連携して進めていきたい。

#### d. 財政闘争

新たな呼び出しが5名に来ている。もっとも多くお金が必要になるルートは5人全員無期停学で、そうなると現在無期停学の学生1名をあわせて6名が無期停学処分当該となり、年間6人×53万円＝318万円が年間通して必要になってくる。気を緩めずに寮でのイベントや街宣でコツコツ集め、有事に対応できる財政を建設する。

予算表は以下の通り

第117期対処分戦略推進局予算表

項目	収入(円)	支出(円)	備考
自治会会計より	420,000.00		
弁護士費用		300,000.00	
集会、交流会費用		60,000.00	
交通費		30,000.00	企画講師・ゲスト交通費など
ビラなどの広報費		30,000.00	
計	420,000.00	420,000.00	

## 国際交流局

### 0.はじめに

現在、熊野寮には多くの留学生が生活している。様々な生い立ちを持つ寮生が互いの多様さを理解し合い、この多様さを寮自治会の発展に繋げたい。そこで、国際交流局の方針を大きく寮内向けと寮外向けに掲げる。

#### 1. 対寮内方針

国際交流局は、出身国の如何を問わず快適に暮らすことのできる寮を目指すという理念を掲げ活動する。そのため、人種や言語、文化の壁を超えて理解し合える関係を作るために、異文化間交流および寮生活のサポートを実施する。

また、国際交流局が保有する音響機材等を他部局に貸し出しとともに連帯することで寮で行われるイベントを活性化するサポートを行い、ともに寮自治の発展を目指す。

#### 2. 対寮外方針

1で述べた異文化交流の点を寮内に留めず、寮外の留学生等に関しても行い広く熊野寮の存在を周知することや、国際交流局が主催するイベントが自治寮で行われるイベントであるという点などをフックにし、全世界の人々および未来の熊野寮生に広く熊野寮の素晴らしさを発信することを目指す。また、国際交流局で行っている CLUB KUMANOやアイリッシュパブなどの企画で今まで熊野寮のことを知らなかった層に知ってもらったり関心を持ってもらうきっかけにはなったものの、そうした人々の獲得にはさらなる努力の余地があるため、そのような層の獲得を目指す。

### 3. 具体案

#### ①言語の面で留学生をサポートする。

寮の国際化を図り、入寮を希望する留学生に対して外国語面接を実施して入選をサポートする。日本語があまり喋れない留学生については、部会・委員会・ブロック会議への参加をサポートするために、局員を当該留学生と同じ部屋または同じブロックに配置するようすすめる。また熊野寮の広報資料や面接資料の外国語訳を進め、入寮を希望する留学生に対応する。

#### ②機材の共有やイベントの共催について

国際交流局が所有している音響機材を寮内の他部局などに貸し出し、イベントのバックアップを行ったり、ともにイベントを行うことで幅広い層に寮のことを知ってもらえるように努力する。

#### ③CLUB KUMANOの開催について

CLUB KUMANOを開催(日程、回数は未定)する。留学生や寮外生の熊野寮への興味関心を育み、ともに企画に参画してもらうことでこれまで手が届かなかった層へのフックとして機能することを狙う。また、異文化間の理解の促進に努める。

また、CLUB KUMANOのSNSを活用し寮についての情報を広く共有することや、寮外の自治空間、周辺の地域との連帯を行いともにイベントを開催したりすることで寮のことを知ってもらえる機会を増やすことで寮自治の広い周知などを行っていく。

また、CLUB KUMANOがcharity partyであるという周知と処分者への学費カンパは117期も継続して行っていく。

#### ④パブイベントの開催について

116期はアジア料理のパブイベントを企画していたが、寮内でのインフルエンザや風邪の大規模な流行により開催できなかった。そのため、117期では従来予定されていたアジア料理のパブイベントと新たなパブイベントを開催し、普段のクラブイベントとは違う層の獲得や留学生などのさらなる交流を目指す。

#### 4. 予算

	収入	予算	備考
自治会会計より	80,000		
アジアコンパ企画費		40,000	食器、食材、ドリンク費を含む
パブイベント企画費		30,000	食器、食材、ドリンク費を含む
新歓費用		10,000	
合計	80,000	80,000	

#### 地域連帯局

##### ・地域獲得論

熊野寮は自治寮であるからこそ安価に住むことができ、当事者である住人による意思決定権が担保され、思想信条で住民が選別されることもない。一方でこのような寮の存在は、法人化した国立大学にとっては経営上の障害でしかなく、現政権与党にとっても「紛争の根源地」とされ、排除対象であることは明白である。さらに4300円という破格の寮費だけを見ても、公共福祉を否定する受益者負担論が蔓延る日本社会では非常に稀有な存在であるが故に、今のままの熊野寮の存続を即座に支持してもらうことは容易ではないかもしれない。「過激で暴力的な学生の巣窟だ」などという無内容なネガティブキャンペーンに晒されていればなおさらである。

このような厳しい状況の中でこの10年余り、熊野寮が力を入れてきたのが地域連帯である。寮で開催されるイベントは多岐にわたるが、熊野寮の存在や自治空間ならではの楽しさを知ってもらう「つかみ」のイベントとともに、自治寮として熊野寮が存在する意義やその活動の理念まで深く知ってもらうための「獲得」のイベントを開催してきた。「つかみ」と「獲得」はどちらも同じくらい重要な取り組みである。

ステップとして「つかみ」が必須であることは当然だが、いくら「つかみ」を積み重ねても寮と一緒に守れる主体は生まれない。いくら当人が寮のことを好きになろうとも、どれだけ寮の存続を望もうとも、寮の理念を知らなければ足並みを揃えて一緒に闘うことができないのである。熊野寮を好きになってくれた人には、その思いに報いるためにも、一緒に闘うための理念を共有して「獲得」していくことが必要なのである。

その「獲得」の最たるものとして熊野寮では「くまのまつり」が開催されてきた。「社会に迎合して萎縮するのではなく、積極的に寮の魅力や意義を発信して社会を獲得していく」という姿勢で寮自治の素晴らしさを発信してきた。過激に見えるかもしれないが、私たちは学生の生活と権利を守るために闘っており、そしてこれは本来、社会全体で守るべき公共福祉の範疇なのだ、京大当局や文科省の方針が寧ろナンセンスなのだと胸を張って真摯に説明してきた。抗議の声を上げるだけで過激派だと言われるなら、私たちは過激派で構わない。「熊野寮は過激派の拠点」などという空虚で無内容なレッテル貼りには屈せず、中身で勝負してきたのである。

##### ・局活動の目的意識

97期からの渉外局、それ以前の常任委員会が取り組んでいた地域（町内会から左京区規模まで）との関係づくりを継承する局である。

外部のイベントへの出店など、外に出向く形の活動も実践していきたいが、外で様々な人と関係を築いた上で、最終的にはくまのまつりに参画してもらうなどして、内に招く形の活動を目指す。

熊野寮という自治空間の中で寮生と外部の人が一緒になにかを創造すること、そしてそういった活動を通して外部の人と連帯を強めていくことを意識していきたい。例えば、2010年に熊野寮の敷地を「熊野・聖護院まつり」の会場として貸し出すという形から、寮生と地域店主との協働の関係が確立されたのが「くまのまつり」である。

局による自主開催企画も行う予定であるが、全ての活動を熊野寮自治発信の要であるくまのまつりに繋げることを意識していく。

#### ・くまのまつりを「自治発信のお祭り」としての完成形へ

楽しいだけのイベントではなく、寮を存続させるための「自治発信のお祭り」として構想されたくまのまつりは着実に完成へと近づいている。そして自治発信をはじめとする政治的内容のアピールをまつりの中心に据えていることこそがくまのまつりの大きな魅力であり、唯一無二の寮自治発信のお祭りとしてさらなる盛り上がりを目指していきたい。

直近の課題としては自治発信体制の確立、自治発信以外にも寮生が準備する全ての企画が自治への獲得をその中心に据えて取り組まれる空気をつくることである。

5月の最終週末に「くまのまつり」を開催する。

#### ・左京区内のイベントとの絡み

秋に開催される様々な外部イベントと、昨年に引き続き連帯していく。

外部イベントへの参画はすべて「くまのまつり」に繋げる意識で進める。イベント企画者、出店者、出演者など外部イベントでいろんな人と関わる中で人脈をつくり、この人脈がくまのまつりに参加してもらう、宣伝協力をしてもらう、機材協力をしてもらう、出店・出演に興味ありそうな人を紹介してもらう、など、くまのまつりの連帯の輪の拡大に繋がってきている。

#### ・ワークショップくまの

2019年から左京区の後援を得て、寮内や外部イベント、聖護院町内会の夏まつりなどで開催している子どもアートワークショップ企画である。

「子どもの主体性を重視し、創作に取り組むハードルを下げ、自己表現の楽しさを知ってもらうことを目指す」という教育的理念は事業報告会においても他の教育系団体から高評価を得た。このように企画自体を中身あるものにすることで、外部からの出展依頼も届いており、まつり拡大に繋がる成果を生んでいる。

#### ・周辺町内会との関係構築

2021年度より熊野寮自治会として東竹屋町町内会年会費を三人分支払っており、町内会新聞の配布手伝い、川東自治連合会（川東学区の町内会連合体）の集会所を会場とする寺子屋企画「KUMAN」の共同開催を通して良好な関係が構築されている。

2019年以来、きっかけがなく復活できていない関係として、聖護院町内会との連帯がある。熊野寮は東竹屋町と聖護院の境界に位置しているのでどちらとも連帯していきたい。コロナ禍以前のようにイベントポスター掲示やお祭りへの出店などができる関係を取り戻したい。今年は吉田東夜市など近隣地域でのお祭りも復活の傾向にあるため、動向を調査して連帯の機会を模索したい。

#### ・土地整備部門

まつりに際して、寮内の土地整備や清掃活動、寮設備の修繕やメンテナンスを行う。

まつりで使用する範囲に限らず寮内の環境整備を進めることで、寮自治会の他の活動の可能性も広がるだろう。

整備のコンセプトとして、殺風景な空間を作るわけではなく、木陰創出やイベントに際する吊り物用の装置としても有用な植物を保護し、適度に緑のある魅力的な環境を目指す。土地利用については当事者とケースバイケースで議論をしていくことになると思われる。

まつりに向けた除草作業の手間を省き、見世物にもなるヤギを管理する。冬季は飼料として干し草を購入する。

#### ・予算内訳

局には会計が存在せず、経費はSC会計からの直接支出である。予算処理についてはSC方針予算表を確認するものとし、ここでは予算配分を掲載する。

#### (予算使途)

くまのまつり：宣伝費3万、設備費6万、寮生企画補助1万、打上げ4万、出演料6万

ワークショップくまの：ベニヤ板や塗料代など、出展する外部のイベント主催者と相談し、企画内容に応じて必要な物品を購入する。

土地整備費：除草や剪定などに必要な工具、農具、あるいはヤギの購入など、除草の人的労力を削減する手段も検討している。

設備修繕・資材費：設備修繕や物品管理にまつわる資材費（セメント、木材、単管等）。簡易の物品小屋の設置も行う。

東竹屋町内会費：毎年度3口分払っている。

KUMAN：KUMAN開催に伴う費用。

117期地域連帯局 予算内訳		
支出項目	金額	備考
新歓費	¥20,000	
くまのまつり	¥200,000	宣伝費3万、設備費6万、寮生企画補助1万、打上げ4万、出演料6万
ワークショップくまの	¥60,000	ベニヤ板や塗料代
土地整備費	¥60,000	除草や剪定などに必要な工具等
設備修繕・資材費	¥60,000	会場周辺土地整備にまつわる資材費
ヤギ小屋費用	¥60,000	
ヤギ飼料	¥50,000	
東竹屋町内会費	¥10,000	
KUMAN	¥50,000	
合計	¥570,000	

## 増築建設局

### 1. 増築建設論

日本国内の大学生数は1950年で約32万人、2019年では約290万人で最大となった。熊野寮が建設された1965年当時(約100万人)からいけば、大学生の数は約3倍になっている。京都大学の学生数も新学部を設置や研究科の増設にともなって増加傾向にあり、近年では留学生の受け入れも進んでいる。特に日本は経済国の中でも相対的貧困率が高いとされ、2016年に発表された世界の貧困率比における日本の位置は14番目の15.7%となった。大学周辺に目を向ければ、2019年では平均仕送り額から家賃を除いた生活費は1日当たり730円になり、過去最低だった前年度の677円に次いで低くなった(東京地区私立大学教職員組合連合の調査、2019)。入学関連の費用を借入金で賄った家庭は17.3%で、平均借入額は194万円だったと報告されている。このような状況においても、経済的な理由で学問に関わる機会が奪われてはならず、安価に居住できる自治寮の存在意義はあらゆる大学生にとって大きい。一方で、熊野寮のような自治寮は減っており、吉田寮については廃寮攻撃を受けている。今こそ必要とされている熊野寮の取り組みを拡大し、選択肢を増やしていくことを目指したい。

#### [自治会への施設投資というアイディア]

本局の目的は、自治会の財産を施設や空間として保有する事で自治会の利益を拡大しようという、施設への投資の考えに基づく。自治会の財産は人間であり、またこの人間を保障する衣食住だ。寮生の数と多様さ、そしてこれを活かせる設備が整うことが、自治会の大きな力になる。

急激な物価の高騰や出口政策の行き詰まりが各国で進む中、数少なく残る自治寮に更地化攻撃の矛先が向かない訳がない。建物の老朽化を含む様々な口実をきっかけにして京大当局や文科省が熊野寮を廃寮しようとするとき、寮自治会の力となる人間と物質力を育てよう。

### 2. 会議

現在、増築建設局では月曜20時半から会議を開いているが、局員の不足などにより確実に開催することができていない。来期からは、開催時間などについても検討しつつ局と会議の関わり方を考えたい。

### 3. 設置コンテナの用途

現在C棟北のコンテナは新型コロナウイルス感染者隔離施設として用いられているが、流行も落ち着いてきた情勢の中、第117期以降、SCの管理下で寮生の希望に応じて自由に使用できる場所として運用することを提案したい。また、今後、設置コンテナをキャパシティとして採用するかどうかという議論を、結論は出ずともある程度進めたい。

### 4. 建設

#### 4.1 概要

近年では他局の活動や寮内企画が盛り上がり、設備を整えたり建設したりすることが増えた。他の局とも連携しつつ、まずは祭などの行事に関連して必要な設備の建設に着手する。また、入寮希望者の数が退寮者のそれを上回る現状を受け、キャパシティ拡充の方法を議論し、現実的な案が出たならば実行する。さらに、いいアイディアが寮内から出れば漏れなく挑戦したい。欲しいと考えているものがある人は議事録に載せて下さい。

#### 4.2 休憩所

現在、C棟裏側に、大きさ4畳半程度の追加キャパシティ(休憩所)を建設する案が局員より提案されている。ただし、提起者との連携が不十分であり、建設方法や建設後の使用方法について詰め切れていない部分がある状態で建設が一部開始してしまっているため、今期はSCとも連携して議論と作業を進めていく。

### 5. 予算

第116期新歓費は第116期中に追加予算として請求する予定でしたが、期内に請求することが困難なため、変則的ですが、第117期の予算に組み込もうと考えています。事後の請求となってしまったのは、請求者が新歓総括後に請求するものだとの勘違いしていたためです。申し訳ございません。今後同じことが起こらないよう、局内で周知を徹底します。

第117期増築建設局予算案

	収入（円）	予算（円）	備考
自治会会計より	59,996		
設備費など		30,000	臨時キャパシティの環境改善等
第116期新歓費		14,996	
第117期新歓費		15,000	
合計	59,996	59,996	

## 寮外連携局

### 1.はじめに

国策としての寮潰しに対抗するための大きい団結を寮外に創り出すためにイベントという手段で広報・獲得を行う寮外連携局は116期に京都学生狂奏祭・yoeiリリースライブ・京大ダークjazzライブの3つのイベントを行った。

そこで残った課題は、引き続き、深い獲得を達成できていなかったことだ。現状のイベントではイベント自体の満足度や寮への好感度は高いが、自治への魅力を感じてもらうことや寮の理念に賛同してもらうことは不十分である。

### 2.総論

引き続き、寮外連携局は深い獲得を目指してのイベント開催を目指して活動を行う。117期の寮外連携局の活動では今まで不十分だった自治発信や寮の理念発信をイベントにより一層組み込む。

### 3.各イベントについて

117期に予定しているイベントは現時点で2つある。熊野文芸市場とサークル合同新歓の2つだ。加えて、内容は未定であるがもう一つ同規模のイベントを開催したいと考えている。

#### 3.1.熊野文芸市場

文芸サークルなどを集め、即売会を行うこの企画は昨年度100人規模のイベントとなった。昨年度行った施策に加えてより寮のことを知ってもらえるような頒布物の作成や寮生と対話できる場の創出を新たに試みる。

#### 3.2.サークル合同新歓

様々なジャンルのサークルを集め、寮食堂でお話しブース、音楽室でライブを行ったサークル合同新歓では他のイベントと比べて当局のネガキャンに先手を打って新生にポジキャンできる点やサークルとのつながりを増やしやす。昨年度よりも大きな規模でより大きな広報・獲得を狙いたい。

#### 3.3.未定



現在、映画祭や芸術祭など新たなテーマのイベントを検討している。

#### 4. 予算案

予算案は以下の通りです。

項目	収入	支出
自治会会計より	¥265,000	
新歓費		¥10,000
熊野文芸市場		¥10,000
サークル合同新歓		¥20,000
その他イベント費		¥30,000
雑費		¥30,000
116期未払いギャラ		¥165,000
計	¥265,000	¥265,000

## <専門部>

### 文化部

#### 目次

- 1.はじめに
- 2.部会運営
- 3.企画運営
- 3-1.全般
- 3-2.恒例企画
- 3-3.持ち込み企画について
- 4.文化部管理の物品について
- 5.コンパでのハラスメント対策について
- 6.B地下セクション
- 7.音楽室利用者会議(MUC)について
- 8.予算案

#### 1. はじめに

文化部が行っている実質的な業務は、下に述べるようなイベントの企画・運営、及び物品の管理であるが、文化部が担う本質的な役割は、自治空間で育まれる豊かな発想を実現し開花させること、そして、それを通して寮生の顔の見える関係をつくり、寮生を自治活動に獲得していくことである。持ち込み企画として自由なアイデアが生まれたり、毎月のように寮生が百人規模で集まったりするのは、熊野寮が、そこで暮らす人間が議論を重ね、主体的に管理している空間、すなわち自治空間であるからこそである。文化部が果たすべき役割は、企画を運営したり、人を集めたりすることでその自治空間を活かすことと、そうして創り上げた活動への参加や運営を通して作った団結で自治空間をつくることである。また、熊野寮の魅力は文化部が企画するイベントだけで

はないが、こうしたイベントは分かりやすく楽しいものではあり、寮生が自治へ参加するための入口として重要である。

以上から言えるのは、文化部員はもちろん、そうでない人も潜在的文化部員であるということである。全寮を挙げて更なる文化部の発展を目指そう。

## 2. 部会運営

文化部会は原則として毎週月曜日の22時から食堂で行う。会議では、企画に関する議論や準備、また持ち込み企画の募集、検討を行う。準備から企画に携わる魅力を伝えられるような部会運営を目指す。

## 3. 企画運営

### 3-1. 全般

今期も文化部企画を全身全霊をかけて貫徹する。誰しもが楽しいと思えるイベントにできるよう、文化部員が主体となって最高に楽しむ。また、第117期では特に、準備・片付けにも様々な人が参加してくれるよう工夫することに力を入れる。現状、料理する人や片付けをする人が固定化しているため、改善に努める。また、コンパで使わなかった食品管理にもしっかり取り組む。具体的には、コンパの買い出し前に残りの食品を確認する等の工夫をしたい。

### 3-2. 恒例企画

#### 117期のイベント

12月: 書初め

1月: 新年会(寮祭実打ち上げ)

2月: 追いコン

3月: 古本市準備、オリテ発表

4月: 花見、文化部新歓

5月: 大文字コンパ、ピザ釜新歓、北海道コンパ

6月: 雀皇戦

### 3-3. 持ち込み企画について

第117期でも持ち込み企画を全寮生から募集する。持ち込み企画とは、恒例企画とは別で、各々の寮生が考えた実現したい企画のことである。毎回の会議で募集しているので、何か企画したい人は是非文化部会に来てほしい。文化部で全力でサポートする。

## 4. 文化部管理の物品について

文化部ではスポーツ用品などの物品を管理してきたが、その実態は放置に近いものであった。今期では物品を整理、把握し、必要な時に使えるようきちんと管理するよう努める。

## 5. コンパでのハラスメント対策について

騒音問題やアルコールに関する問題など、コンパに伴い生じる諸問題について、人権擁護部と連携しながら、今期でも真面目に取り組んで行く。コンパに参加する人皆がハラスメントに意識的になれるような環境づくりを目指す。

## 6. B地下セクション

熊野寮への当局・国家権力による弾圧が強まる情勢の中、権力から防衛された会議室の存在の重要性は日に日に増している。第117期文化部B地下セクションは、以下の方針のもとに活動し、権力から防衛された会議室の維持に努める。

6-1. B地下について問題意識のある人がいれば話し合う。

6-2. 今期は、図書室長江、A101中川によりB地下は管理される。

6-3. 硬鉄庵の使用目的に関しては、政治的及びプライバシーに関する項目が優先される。

6-4. 私物に関しては、話し合いながら残したり減らしたりしていく。退出時にガサ物は残留させない。

6-5. ドライスペースは必要に応じて掃除する。

6-6.廊下の防火扉は、音楽室利用時には騒音防止のため閉めるよう徹底する。

## 7.音楽室利用者会議(MUC)について

### 目次

#### 1. 総論

#### 2. 各論

##### 2-1. 会議運営

##### 2-2. ライブについて

##### 2-3. 各種企画

##### 2-4. 機材について

##### 2-5. 機材等貸し出しについて

#### 3. 予算について

#### 1. 総論

音楽室利用者会議(以下MUC)の存在意義について述べる。MUCの存在意義は音楽を通しての寮自治への参加の場、自己表現の場を提供する、ということである。音楽を通して人と人との関係が深まり、より強固な団結につながる。また、音楽を通して自己を表現することで、より寮の生活が豊かになると考える。その上で、寮は多くの学生が生活をともにしており、当然その中には大きな音や、MUCで演奏されるような音楽を好まない人もいると考える。そういった方に配慮しながらライブを運営することを今期では心がけていきたい。さらにはMUCに興味を持ってもらうことも念頭に置きながら、さらなる音楽の可能性を追求していきたいと考える。

新歓ライブでは、より多くの新入寮生がMUCに興味を持ってくれるようにより多くの人に受け入れられるようなライブを心がけていきたい。特にモッシュなど、危険が伴うような事柄に関しては強く対策についての周知をしていきたい。

#### 2. 各論

##### 2-1. 会議運営

毎週月曜21:30~22:00に会議をおこなって音楽室の管理やライブ運営について話し合う。116期ではそれぞれのライブの獲得目標を決め、それを会議で共有し議論したり、また、水上ライブの是非についての議論するなど、会議内で話し合うことが多かった。そのため、会議が22時をこえ、文化部会議を遅らせてもらう、ということが多々あった。117期では効率的な会議運営を心がけ、時間短縮を図る。その上で、議論が長引くことが予想される場合は事前に文化部と折衝する。

## 2-2. ライブについて

現在主催する予定のライブは追いコン(3月)、春新歓ライブ(5月)、くまのまつり(5月)である。さらに必要に応じて持ち込みライブを行う。各ライブについての説明は注釈を参照。

ライブを通じて圧倒的なパフォーマンスで春新入寮生をMUCに獲得していきたい。ライブの形態についても食堂で開催する際に後ろのほうに畳を敷いてモッシュに参加するのが得意ではない人なども楽しめるようなライブ環境づくりをしていく。さらにタイムキープの問題に対しては余裕を持ってタイムテーブルを組んだり時間の厳守を徹底して対処し、食堂でのライブの際は、窓に畳を立てかけたり、段ボールを貼るなどして防音を徹底するとともに、近隣に騒音周知のビラまきをするなど音楽活動に理解を得られるようにしていく。

ライブを成功させるには機材の知識を持った人間がいることが必要不可欠である。PAを2人一組で行うなどして、機材の知識を深めていきたいと考えている。

115期以来モッシュに関する注意点を周知しているが、今期は多くの新入寮生がライブに参加することも見込まれるため、より強く周知していきたい。近年のバンド増加に伴い、設営の開始時間が早まり、設営に参加する人員の減少が顕著になっている。この点については、構成員一人一人が、ライブに参加する人間としての自覚を持ち、責任を持って設営に参加すべきであると考ええる。また、設営をする中で、機材や配線についての知識を蓄え、ライブ運営に役立ててほしいと願う。

ライブの運営について、前期から変更したい点として、「分業化」を進めていきたいと考える。具体的にはPA係や、買い出し係など、ライブごとに役職を決め、1人に仕事が集中しないようにしていきたい。

加えて、ライブを行う場所について主な場所は、次の4つである。各場所について説明をした。各ライブで適切なものを選択していきたい。

・音楽室: 照明を切ってミラーボールをつけるため、薄暗い独特な雰囲気でのライブになる。部屋が狭いため、人口密度が大きくなるので、モッシュが激しくなる傾向にある。地下にあるため、ほかの場所よりも遅い時間まで音を出すことができる。また、ライブの準備に機材の運び出しがなく、配線をしてその他諸々の準備をするだけでライブができるので楽である。

・食堂: 寮生の団結の場である食堂では、多くの寮生が集まる。また、食堂は、広いため、モッシュに参加したくない人でも後ろのほうに座って音楽を聴くことができるなど、いろいろな人がライブに参加できる。

・駐輪場: 主にくまのまつりのときにこの場所でライブを行う。寮の門を入れてすぐの場所にあるので、地域の方々が多く参加する。

・民青池: 民青池の上にステージを設置してライブを行う。演者と観客の距離がほかの場所よりも遠いため、モッシュには向かないが、アコースティック系の音楽はエモーショナルになる。116期で開催した水上ライブコンパにおいて、民青池でのライブに対して反対する議案が提出され、民青池でのライブは十分な説明と採決が必要ということで一致した。MUCとしても、民青池でライブする場合は慎重に進めていきたい。

### 2-3. 各種企画

主に新入寮生をターゲットとしてMUC構成員を増やすためにMUCで新歓を行う。またMUC内の交流や技術の向上のために楽器講習会やセッション会などを適宜行っていく。また、116期に数回開催されていたケーブル自作講座も続けていきたいと考えている。

### 2-4. 機材について

壊れた機材についてはMUC会議にて報告をしてもらい承認をとって購入または修理する。また誤って使ったら寿命が縮まってしまう機材に関しては使い方を貼ったり機材講習会を開くことで正しい使い方を学んでもらう。ケーブルなども可能な限り、自分たちの手で修理し、出費を減らしていきたいと考えている。

116期では国際交流局の機材を借用し、ライブを行うことが多かった。今後も国際交流局と協力して、ライブの音質をより良いものにしていきたいと考えている。

### 2-5. 機材等貸し出しについて

外部の団体からの要望に応じて適宜機材やステージを貸し出したり、音楽室をライブハウスとして貸し出す。116期では狂奏祭、yoeiリリパ、west祭、北部祭、Dark Jazzライブに機材を貸し出した。前期では一部の構成員のみが、それらのイベントに携わる、という形が多く見受けられた。獲得という点では寮外連携局が達成していたが、MUCとしても寮外連携局と協力しながら、獲得に貢献していきたい。

## 3. 予算について

音楽室整備費は、音楽室機材の買い替え・メンテナンスなどに利用する。

音楽室機材故障対応積立金は、アンプやミキサー、ドラムなど、高額な機材が万が一故障した場合に備えて毎期定額積み立てている費用である。12月11日現在〇〇円積み立てられている。

ライブ費用は、追いコンライブ、春新歓ライブについては出演者・参加者への酒類・ソフトドリンク提供、くまのまつりではPAの熱中症対策用飲料に用いる。寮外生、上回生からはカンパを集め、予算超過額を補填する。予算の残額は返金し、繰り越さないが、カンパの残額は次回ライブに繰越す。基本的にライブは二日間開催を想定している。

### 〈注釈〉

・追いコン: 卒業する寮生を盛大に追い出すライブ。

・モッシュ: 主にロック・コンサートにおいて見られる観客が密集した状態で無秩序に体をぶつけ合うこと。(wikipedia)

・アンプ: 音響を表現した電気信号を増幅する機械。(wikipedia)

・ミキサー: 入力された電気信号を混合する機器。(wikipedia)

8. 予算案  
以下の通り。

	収入(円)	予算(円)
自治会会計より	¥710,000	
116期より	¥240,693	
書初め大会		¥1,000
新年会		¥40,000
追いコン		¥80,000
花見		¥20,000
文化部新歓		¥20,000
ピザ窯新歓		¥30,000
大文字コンパ		¥20,000
北海道コンパ		¥85,000
持ち込み企画		¥400,000
備品修理補修費		¥25,000
スポーツ用品費		¥3,000
恒例企画・仕事問題検討費		¥5,000
音楽室整備費		¥100,000
追いコンライブ		¥30,000
春新歓ライブ		¥30,000
不定期ライブ		¥20,000
くまのまつり		¥2,000
新歓費		¥10,000
音楽室機材故障対応積立金		¥20,000
雑費		¥9,693
総計	¥950,693	¥950,693

## 炊事部

### 第117期炊事部方針案

## 目次

### 1.概要

### 2.各論

#### 2.1食数

#### 2.2炊事当番制度の運用

#### 2.3新入寮生に対して

#### 2.4食堂環境の維持

#### 2.5部会運営

#### 2.6感染症関連

#### 2.7各種企画

#### 2.8厨房に関して

### 3.予算

### 1.概要

熊野寮食堂は単に寮食を喫食するだけの場ではない。交流、勉強、議論の様々な場面において重要な役割を担う、寮自治に不可欠な空間である。また寮食は寮生の日々の生活を支え、熊野寮が福利厚生施設であることを内外に示している。食堂・寮食を守り発展させていくために、厨房内の業務や労働状況を栄養士や厚生課に任せるのではなく、炊事部やSCが主体となって積極的に関わっていく。厨房は寮生とともにあるという自覚をもって以下の諸策を実行する。

### 2.各論

#### 2.1食数

寮食の喫食状況を把握しながら、売れ残りが出ないように食数の調整を行う。朝の喫食数促進のために朝食ダービーを開催する予定。また夜寮食について、主菜が魚料理である日の喫食数が伸び悩むという問題があるため、引き続きポテッカーなどで選り好みせず喫食するよう促していく。

#### 2.2炊事当番制度の運用

炊事当番が存在することにより、寮食運営は機能している。炊事当番が遅刻してくるようなことがあると、寮生のみならず厨房にも迷惑が掛かり、軋轢の一因となりうる。部会での当番日程確

認、下膳口横へのシフト表の貼り出し、各ブロックでの炊事部員による周知などを通して確実に当番の仕事がなされるように努める。

### 2.3新入寮生に対して

春に多く入ると予想させる新入寮生に食堂・寮食の魅力、意義を伝え、恒常的な利用を促す。また、食堂利用のルールについて各上回生が教えるように周知する。

### 2.4食堂環境の維持

食堂で虫や鼠が目撃された際に、駆除グッズを購入する。厨房に連絡して駆除業者を呼んでもらうなどの対応をとる。また、食堂に配置しているヒーターおよび扇風機を管理する。さらに、熊野寮祭期間中の同釜会に来訪した元栄養士H氏から食堂が汚いとの指摘を受けたため、私物の撤去・局の荷物の整理を促していきたい。また床の汚れに対しては清掃用具を用いた掃除を炊事部の業務に含めることを検討していく。ただ、食堂の清掃は本来、厨房が長期休暇などに行う仕事であり、それを炊事部が担わねばならない現状はあまり好ましくない状況であることを確認しておく。

### 2.5部会運営

炊事部会は引き続き火曜日21時半からとする。部会の形式は対面を主とし、必要に応じてZOOMを併用する。

### 2.6感染症関連

食前の手洗いを励行する。海外渡航者や、コロナウイルスなどの感染症の陽性者、濃厚接触者の食堂利用の禁止を周知により徹底し、各ブロックの炊事部員と有志で寮食運搬などの措置をとる。その場合は厚生部と連携して対応する。詳しくは寮食運搬マニュアルに記載。寮食運搬マニュアルとは、食堂に立ち入ることのできない寮生の部屋へ寮食を運搬する際の手順や使用する皿、注意点などをまとめたもので、炊事部員内で共有されている。部員が対応できない際にはブロック内の有志へ依頼して適宜マニュアルを共有する。

### 2.7各種企画

寮食と食堂の利用拡大を目的に、全寮新歓、部会新歓、朝食ダービー、寮食人気投票などの企画を行う予定。

### 2.8厨房に関して



現在の厨房運営は栄養士の決定に左右され、上下関係が強まる中で労働環境・条件が悪化し、厨房員が頻繁にやめると厨房の存続に影響が出る。また、業務が省略された結果、寮食の質が下がったり、喫食・期間が短くなったりすることにより食堂機能が低下する。その対策として、定期的に厨房員面談を行う、新任の厨房員との挨拶を兼ね寮の説明をきちんと行い理解を得る、コンパ・企画などに厨房員を誘うなどして寮生と厨房との連帯の機会を増やし、仕事にやりがいを持ってもらう。なお、一部の厨房員に関し、対話の余地はまだまだあると思わせる話を他の厨房員から聞いたため、粘り強く対話の機会を探っていきたい。もちろん、友好的な関係を目指しつつも、問題行為があった際には厳正に対処する。また、SCと協力し、食堂運営会の積極的な活用、厚生課と交渉をして良好な労働環境の提供に努める。

### 3. 予算

予算表は以下の通り。

項目	収入(円)	支出(円)	
第116期から繰越	16,914		
自治会会計より	190,000		
新入寮生歓迎企画		10,000	
全寮新歓		150,000	
部会新歓		15,000	
朝食ダービー		15,000	主に景品代として
雑費		16,914	清掃用具費を含む
合計	206,914	206,914	

## 庶務部

### 1. 業務について

#### 1.1. 全体にかかわるもの

##### ・在寮証明書の発行

寮生の要請に応じて在寮証明書を発行する。基本的には発行希望日の一週間以上前に庶務部会に来て申請していただく。

#### 1.2. 事務室関係のもの

##### ・荷物管理

毎週の部会の際に荷物アプリ、掛札、荷物現物を照合し、誤記がないかチェックする。

- ・ 備品管理

事務室内にある庶務部管轄の備品について毎週の部会の際に確認し、適宜補充していく。

- ・ 荷物アプリの管理

情報部と連携して荷物アプリの管理を行う。庶務部としては主に定期的なデータのバックアップと名簿の更新を行う。

- ・ ノート管理

事務室内にあるノート管理、保管、補充を行う。事務当番日誌にも目を通し、業務が適切に行われているかどうかを確認する。

- ・ 事務当番決め

ブロックを単位として事務当番のシフトを作成、周知する。スーパー事務当番、ハイパー事務当番についても同様にシフトの作成、周知を行う。

- ・ 事務当番指導

新入寮生を対象に、各ブロックで事務当番マニュアルに基づいて事務当番業務の指導を行う。

- ・ 購読書籍の選定

事務室に置く書籍を選定し、月に一冊は新しい書籍を購入する。

- ・ その他

事務室の利便性や機能性、快適性を高める取り組みを必要に応じて庶務部が主体的に検討、実行する。事務当番の質の低下を防ぐため、事務当番の仕事及び事務室維持の仕組みについて寮生の更なる理解を深めていく。必要に応じて事務当マニュアルの改善を行う。また、泊まり事務当番の環境改善を目指し、場合によっては追加予算請求を行う。

### 1.3. 駐輪場及び駐車場関係のもの

- ・ 駐輪場整備

毎週部会後に駐輪場の整備を行い、自転車を駐輪場の線の内側に全て収める。これは自転車が駐輪場の線の内側に止められていないと、食堂に荷物を搬入する車やゴミ収集車が入れなくなるなど寮業務の妨げになるためである。原付、バイクについても同様、寮業務の円滑な遂行ために整備を行う。

ロードバイクのスタンドを活用し、駐輪場の更なる整備を試みる。

- ・ 放置自転車、バイク、原付の撤去

車両の数が増え、駐輪場のキャパシティが少なくなった際に行う。所有者不明かつ直近での使用の形跡が無い自転車、バイク、原付を紐づけによってあぶり出し、撤去する。放置自転車については数が多く対応に苦労するので、各自でリユースや処分をするようにビラなどで促す。

- ・ 短期駐車

当面の間、短期駐車場の管理を行い、短期駐車場の見回りや不審車のロック、短期駐車場の登録をチェックする。事務室で短期駐車場の登録が行えるように登録用紙の補充をする。事務室にて徴収した短期駐車料金を庶務部会計が一時管理し、自治会会計に渡す。

## 2.新歓について

春の新入寮生との親睦を深めるために4月ごろに実施する。

## 3.予算案

- ・事務室用品費—事務室の機能向上並びに備品補充の為に使用。  
⇒28,500円(フローリング3,500 虫よけ 5,000 その他 20,000)
- ・駐輪場整備費—駐輪場の機能向上並びに備品補充の為に使用。  
⇒20,000円
- ・新歓費—春に入る庶務部員の新入寮生を歓迎する為に使用。  
⇒20,000円
- ・書籍費—事務室に置く書籍を購入するために使用。  
⇒15,000円
- ・雑費⇒5,464円

合計88,964円

	収入	支出
繰越金	64,964	
自治会会計より	24,000	
事務室用品費		28,500
駐輪場整備費		20,000
新歓費		20,000
書籍費		15,000
雑費		5,464
総計	88,964	88,964

## 厚生部

### 1. 全体方針

前期の総括をふまえて、寮内の住環境の整備・改善を推進する。ブロックの清掃活動の補助・促進を行う。シャワー部門、物品補充部門、衛生部門の3部門に分かれて業務を行う。

## 2. 各部門方針

### 2.1. シャワー部門方針

- ・全ての寮生が当たり前！気持ちよく！元気いっぱい！シャワー室を利用できるようにしていくことを基本理念とする。
  - ・シャワー室備品の故障・消耗に対し可及的速やかに対応をする。また、古くなった物品の更新も行う。
  - ・プリペイドカードに関する機器や金銭の運用、管理を行う。
  - ・退寮者へのカード返却の周知を徹底する。
  - ・総括にシャワー局の口座(※)の最終残高と自治会会計の収入として渡した金額を記載する。
  - ・厚生部員の主導のもと、有志をつのりシャワー室清掃を2, 3ヶ月に一回行う。
  - ・女子シャワー室の増設を目指す。
  - ・シャワーカードチャージPCの老朽化に伴い、PCまたはバッテリーの買い替えを行う。
- ※注)シャワー局の口座:チャージ代金とデポジット代金を一時保管している銀行口座のこと。

### 2.2. 物品補充部門方針

- ・大型物品の希望調査が大学からあるはずなので、ブロック会議などで調査を行う。
- ・グロー球、蛍光灯、食堂の医薬品などの補充を行う。
- ・使用済みの蛍光灯、電池の整理、回収を行う。
- ・大学から支給された物品の修理などの寮生の要望を、各ブロック厚生部員を通じて集約し、教育推進・学生支援部厚生課に連絡するなど対応をする。前期に引き続き、ドア・洗濯機・乾燥機などの交換を依頼していく。
- ・その他寮内の衛生環境に関する問題においても必要に応じて厚生課に対応を要請する。117期では116期に引き続き、A棟のネズミ問題について、トラップの増設を要請するなどして取り組んでいく。
- ・業者や厚生課の職員が来寮した際に立ち会いを行う。特に後者については厚生部の構成員に限らず全寮的な協力を呼びかける。

### 2.3. 衛生部門方針

- ・ゴミの分別、出し方について呼びかける。
- ・寮内の衛生状態について注意喚起する。
- ・自主清掃費を各ブロックに配布する。
- ・粗大ゴミ回収バイトを募集し、粗大ゴミ回収を行う。
- ・粗大ごみの分別を行い、鉄製品の買い取り業者や家電店のリサイクルを利用するなどの費用削減のための対策を行う。また、一般ごみとして廃棄可能な比較的小さなゴミが粗大ごみとして処分されないように周知と管理を徹底する。
- ・粗大ごみに関する諸問題(不法投棄、分別方法、ゴミを減らす工夫)について議論する。
- ・各ブロックの厚生部員は自分のブロックの大掃除等の企画・指揮を行い、自ブロックの美化に努める。
- ・屋上清掃(期に一度)を貫徹する。
- ・コロナ対策について、流行はおおかた収束しているものの、念のためコロナに対する備えを引き続き行っていく。今後の具体的な方針については部会内で話していく。

## 3. 予算

以下の表の通り。

項目	収入	支出	
自治会会計より	¥720,000		
第116期からの繰越	¥343,044		
自主清掃費		¥65,000	C12、C34は10,000円、B12は15,000円、その他各ブロック5,000円
粗大ごみ回収		¥400,000	
ゴミ袋購入		¥350,000	
シャワー室備品購入費		¥30,000	
医薬品等購入費		¥20,000	
吐瀉物処理備品購入費		¥5,000	
新歓費		¥20,000	
寮内清掃費		¥10,000	
シャワーカードチャージPC購入費		¥100,000	
コロナ対策費		¥50,000	
雑費		¥13,044	
合計	¥1,063,044	¥1,063,044	

## 人権擁護部

### 目次

- 1.はじめに
- 2.部会の運営について
- 3.弾圧対策
- 4.防犯・防災
- 5.ハラスメント対応・仲裁・救護
- 6.予算

### 1.はじめに

人権擁護部は、警察や大学当局といった外部権力からの暴力に始まり、災害や寮内事故、さらには寮での共同生活におけるハラスメントに至るまで幅広い問題に対処し、特に弱い立場にある人に寄り添うことで「すべての寮生が不快な思いをせずに生活できるように」という理念を実現するために活動している専門部である。

以上の理念のもと、人権擁護部は、新入寮生オリエンテーションを出発点に継続的な学習会で活発な議論を促すこと、家宅搜索や逮捕・勾留による外部権力からの人権侵害に対応すること、防犯・防災態勢の整備や相談受付によって寮自治会の福利厚生機能を維持・向上させること、などの業務を精力的に行う。

## 2.部会の運営について

今期も「弾圧対策局」「防犯防災局」「ハラスメント対策局」の3つの局および各々の局長を設置する。部員を各局に振り分けるという形ではなく、各局の業務領域に関わる学習会の企画・開催を局長中心に進めるなどして、多岐にわたる人権擁護部の業務を分担し、その理念を継承することを目的としたものである。前期は学習会などが行えなかったが、これは期が始まる前に各局長と各々の局に関する方針を議論してこなかったことが原因の一旦をになっていると考えられるため、局、ひいては人権擁護部に関する具体的な方針を各局長と議論する。

また、今期も主に部長経験者からなる「人権擁護部幹部会」を設置する。「人権擁護部幹部会」は、幅広い領域にわたる人権擁護部の活動を統括する部長を補佐すると共に、人権擁護部の各領域の活動の中でも、逮捕事案やハラスメント対応など、特に情報の扱いに注意を要し、通常の部会内では対応が難しい事柄を専門的に処理するための組織である。現在人権擁護部幹部会は若手が不足しているため、持続可能な組織にしていくための議論を行っていく。

また、月例点検などの恒常業務を各棟持ち回りで行っていくなどして、多くの部員に実働を担ってもらう。

相談受付については、これまで同様相談アドレス(kumano.jinken@gmail.com)を管理し寮生からの相談や意見を受け付ける。プライバシーの観点から、投稿された内容は担当者のみが閲覧できるようにし、担当者が誰であるかについては定期的にブロック会議議案等で周知を行う。

また、人権擁護部の設置する会議体である女子寮生向けハラスメント相談窓口とは、綿密な連携を取っていく。

## 3.弾圧対策

近年、寮祭企画や立て看板規制などで京大キャンパス内へ当局による警察への通報やキャンパス内への警察動員が繰り返し行われている。また、106期には京大当局から放学処分を受けた(2017年)寮生らが相次いで「建造物侵入」などの容疑で逮捕され、112期には、寮外生の活動家1名の逮捕(免状不実記載)に伴い京都府警による家宅捜索が行われた。そして2023年に入ってから寮生が4人も逮捕、それに伴う家宅捜索が行われた。後述の通り、こうした逮捕・捜索は寮生に対する人権侵害の最たるものであり、これらへの対応は自治会を挙げて行うに値すると思う。また、近年大学当局による学生処分や集会規制などが相次いでおり、熊野寮への廃寮化攻撃とも取れる弾圧も強まっている。このような大学当局や職員への対応も人権擁護部として行っていく。

前期は家宅捜索がなかったこともあり、弾圧対策が精力的に行われたわけではなかったが、今期は弾圧が日々激化する情勢に向き合い、有事の際に備えて学習会などをはじめとした部会向け・全寮規模の学習会などに力をいれていきたい。

### (1)家宅捜索への対応

熊野寮ではこれまで警察による家宅捜索が度々行われてきており、過剰な人数の機動隊員による寮内の占拠、抗議する寮生の撮影、寮生の私物の押収、マスコミを用いたのネガティブキャンペーン報道等、寮生の人権を侵害するいくつもの行為が行われてきた。人権擁護部ではこのような不当な家宅捜索を断固容認せず、次なる家宅捜索に備えて対応策を議論・周知していく。特に、116期に行えなかった、現在最後に行われた2023年4月(115期)の家宅捜索時の対応についての継承・検討を行い、より効果的な対応策を考え、ガサ対マニュアルを更新するとともに、入寮オリエンテーションや学習会を通して部内外に共有していく。家宅捜索への普段からの備えとしては、玄関や廊下などにマスク・サングラスを設置し、定期的に数を確認するなどの管理をこれまで通り行っていく。

### (2)逮捕弾圧への対応

今年に入ってから4人も寮生が逮捕された。これらの逮捕の概要を見るとわかる通り、これまでの警察による熊野寮生の逮捕は不当な理由のでっち上げによる逮捕そのものを目的としたものが多く、この根底にあるのは思想弾圧である。また、寮祭企画や吉田寮の申し入れ行動に対して警察を呼ぶなど、寮自治会の活動そのものが取り締まる対象となるケースもある。逮捕後には、捜査に不必要な長期勾留や事件とは関係のない取り調べといった、被逮捕者への人権侵害を伴う場合が多々ある。こうした不当な逮捕・勾留に対し人権擁護部は、救援対策会議を設置し当該寮生の救援活動を行うほか、抗議文案などを作成して全寮に提起する。こうした体制を維持

していくため、これまでに実際に逮捕者が生じた際の救援活動のノウハウ、その意義を学習会などを通じて周知する。

### (3)大学当局への対応

近年、時計台占拠に対する学生9名への呼び出し、総長室突入による寮生と元寮生への出禁措置、特に今年の寮祭直前に去年の総長室突入に対して学生5人個人への呼び出しなど当局側の強行的な姿勢が際立っている。こうした弾圧・分断を受ける中でも、寮生が不安をすぐに相談できるような体制を徹底することで寮生を個人攻撃から守り、寮生が団結して当局に立ち向かえるような寮を目指す。また、SCや処分局と連携を取りつつ、警察対応のノウハウを活かして寮内への職員立ち入りへの対応、学内集会での弾圧対策等を行う。またその方法を全寮的に継承することを目標に、学習会等の周知活動を行う。

## 4.防犯・防災

寮生が安心かつ安全な寮生活を送るためには防犯への適切な対処が必要である。特に、可能な限り警察や大学当局を介入させない体制は、自主管理の観点から見ても重要である。今期は以下のような業務に取り組んでいく。

### [防犯領域]

#### (1)不審者・特別来寮者対応

不審な挙動をする、または様々な理由により意思の疎通に困難のある人物が来寮する可能性がある。このような来寮者に対しては、寮生と来寮者双方に不利益が生じないよう慎重に、また柔軟に対応していく。人権擁護部ではこれまでの事例を振り返りながら、このような来寮者に対する寮としての対応を主導していく。

#### (2)各種防犯

寮の防犯のために、居室の合鍵の把握や事務室にある原キーの管理、防犯器具の管理、合鍵作成費補助及びその周知等を行う。東門の鍵は部長が、食堂横ポンプ室の鍵は事務室で管理する。また、学習会等を通じて防犯意識の向上に努め、適切な防犯マニュアルの頒布を目指す。

特に、各棟東側の非常口の施錠を徹底する。115期にキーボックスを設置したが、扉が解放されているなど施錠が徹底されていない場所も見受けられる。これを踏まえて、施錠を徹底してもらうための策を継続議論していく。

#### (3)喫煙所

喫煙者から要請があれば喫煙所会議を行う。また、寮内イベントに際し喫煙所を一時的に喫煙者の協力のもと移動することがある。

### [防災領域]

#### (1)避難訓練

左京消防署の協力のもと、消防訓練を今期も実施する。寮と左京消防署の直接のコネクションを強く持つことで、左京消防署が大学当局に対して熊野寮に関する指導を行い、その指導内容を利用する形で大学当局が規制強化をしていくのを防ぐためでもある。ただし、消防は警察と密に連携する行政機関であることも意識して、情報の保守など対権力的な原則を重視し連携は常任委員会と相談しつつ進める。

当日は、左京消防署の消防士と共に、消火器や避難器具を実際に使用した(または使用している様子を見学できる)訓練を行う。訓練に際してブロックを回る部員を予め決めておくなどして、各ブロックから多くの寮生に参加してもらえるよう努める。

また、あたらしい試みとして地震訓練を実施したい。地震の際は火事などとは異なるフローでの避難となることが予想され、日頃の訓練が非常に重要である。他にも地震の揺れを疑似体験する起震車を呼ぶことで寮生の災害への意識を高めたい。

#### (2)日常点検

月1回をめぐに部会で寮内の防災点検を行い、各ブロック単位で避難経路の確保や消防設備のスムーズな使用ができるよう指導する。点検フォームの改善や、点検で見つかった問題点を放置しない体制づくりについても検討する。突っ張り棒等の器具が必要であれば適宜購入し、非常食や非常用持ち出し物品の必要性については継続議論を行う。また、慣習的に人権擁護部が担当してきた消火器ポンプ・関西電気保安協会点検の立ち合いを今期も行う。

### (3)マニュアル整備

防災マニュアルや、112期に改訂された焚き火マニュアルの徹底周知に努めるとともに、引き続き内容の検討を行っていく。特に6月に行われた消防訓練の総括から防災マニュアルをさらにより良いものにしていく。

### (4)お掃除デー開催

厚生部と合同でお掃除デーを行い、廊下の物品の削減に努める。緊急時避難経路の確保のため、居室前廊下に出されている荷物を減らす目的で行う。当日は、寮生に広く参加してもらえるよう炊き出しを行う。

## 5.ハラスメント対策・仲裁・救護

ハラスメントは生活空間である熊野寮において基本的な生活を破壊するだけでなく、寮自治の根本である団結をも破壊するものである。ハラスメントが起きることのない寮を目指し、防止のための啓発活動や、起きてしまった場合の事後対応を行う。ハラスメント対策局領域におけるハラスメント対応・トラブル仲裁のフローは以下の通りである。

1.部員が相談を受けた場合、または相談メールへ相談があった場合、当事者の承諾の下、部長に情報が共有される。また、当事者の承諾があれば、人権擁護部幹部会へも共有され、対応が協議される。この際に、各段階において相談者が情報の共有を望まない主体に対しては、情報の共有は行われない。

2.女子寮生向け相談窓口への相談は、当事者の承諾と、女子寮生向けハラスメント相談窓口の判断の下で、1.と同様に部長および人権擁護部幹部会に情報が共有され、対応が協議される。情報の取り扱いに関しては、1.と同様。

3.協議され決定された方針に基づき、対応を行う。

今期は以下のような業務を行う。

### (1)啓発活動及び事後対応

ハラスメント対策は生活・自治空間の熊野寮において根幹をなすものであり、差別的な社会構造によって形成された個人の価値観を改めていく作業が必要である。そのためにもより全寮に拡大された啓発活動を行っていく。具体的には入寮オリエンテーションや学習会を通して、新入寮生・在寮生双方にハラスメント防止や飲酒に関する注意喚起を行っていく。いままで文化部持ち込み企画になっていた「介抱者学習会」も重要性・継承性の観点から人権擁護部として行っていく。後述の女子寮生向けハラスメント相談窓口が構成員向けに開く講習会にも、人権擁護部の学習会費から費用を捻出するものとする。また、ハラスメントによって寮生活を続けることが困難になった寮生が出る場合や、法的措置が必要となる場合に備え、ハラスメント対応費を設けた。

### (2)相談メールと目安箱の設置

寮内で起こったトラブル、その他自治会への改善要求をする場として引き続き相談メール(kumano.jinken@gmail.com)を管理し、目安箱を設置する。相談メールの運用については「部会の運営について」に述べた通りである。

### (3)新歓期における相談受付およびハラスメント対策

新歓期には、各種新歓などのコンパや寮生同士の飲み会などが多く開催され、アルハラ・セクハラが起こる可能性も高まる。また入寮したばかりの新入寮生がそうした被害に遭った際、誰に相談したらよいか分からない、ということも十分考えられる。このため新歓期には人権擁護部員を中心に、有志によるハラスメント対策グループを組織し、腕章を付けるなどして誰に相談すればよいのか分かりやすく示した上で、迅速な対応ができるよう準備する。



#### (4)女子寮生向けハラスメント相談窓口の設置

前期に引き続き、人権擁護部の下部組織として女子寮生向けハラスメント相談窓口を設置する。相談窓口で受け付けた内容について、何らかの事後対応が必要である場合には人権擁護部がその実働を担うとともに、その総括を部内で継承していく。また、その事案を受けた啓発活動を行う必要性がある場合にも、人権擁護部が主体となっていく。

(以下、女子寮生向けハラスメント相談窓口方針)

##### 1. 理念および目的意識の引き継ぎ

構成員全員が理念や目的意識を共有し、引き継いでいけるような体制をつくる。女子寮生向けハラスメント相談窓口は、ハラスメントの被害者になりがちな女子寮生が安心して相談できる媒体を用意すべく半独立の会議体として設置された。上部組織の人権擁護部から半独立的な形態をとるのは、問題意識のある人員を集めやすくすること、「相談のみ」に特化する事によって相談のハードルを下げること、といった目的がある。後述のとおり、対応については人権擁護部と共同で行う。なお、現状の「女子寮生だけ」を対象とした在り方では、女子が苦手な女子寮生や男性被害者をいったん捨象してしまっていることには自覚的でなければならない。

##### 2. 構成員の拡充、学習

学年やブロック、学部などについて様々なコミュニティに属する相談員がいることで、相談者の選択肢が広がり、相談を持ちかける負担が軽減できる。加えて、相談員自身の負担の軽減のためにも構成員の拡大が重要である。周知と勧誘を怠らないようにする。

また、相談者の安心のためには、構成員がハラスメントおよびその対応に関する知見を深めることも不可欠である。そのため外部講師を招き学習会を開催する。これは主な対象者として相談員を想定した内容とするが、全寮に開かれた形で実施する。

##### 3. 人権擁護部および寮全体との連携

寮内のハラスメントに対して責任を持てる自治会の形成には、女子寮生向けハラスメント相談窓口のみの活動では不十分であり、上部組織である人権擁護部ひいては全寮での取り組みが必須である。相談窓口は「相談」のみを扱う組織であるため、実際の対応や総括、さらにハラスメント学習については人権擁護部と連携・協力で行う。また、学習会は全寮に向けて行い、参加しやすいものや外部講師を招いた専門性のあるものなど幅広く実りのあるものにすべく努力する。

#### ○主な活動内容

##### 1. ハラスメントに関する相談の受付

女子寮生を対象にハラスメントに関する相談を受ける窓口の運営をする。構成員は女子寮生のみで、活動としては相談を受けるのみとする。何らかの対応が必要な際は、人権擁護部が主体となって連携していく。

##### 2. 女子寮生新歓の開催

111期から113期までの間、女子寮生新歓は有志による文化部持ち込み企画として行われてきた。117期では、116期と同様に、この企画の理念を継承していくため、女子寮生向けハラスメント相談窓口主催の新歓企画として行う。女子寮生新歓が開催されることになった経緯および意義・目的については以下に詳述する。

#### ・企画背景

寮生活において、女子寮生が女性であることや「女性とみなされる」ことによって起こる問題にはさまざまなものがあります。トイレなどの共用スペースが、生理のある人が使用することを想定されていない場合があること(①)、性役割を押し付けられることによって、寮自治に積極的に参加する機会や意志を失ってしまうこと(②)などです。こうした問題は、女子寮生がこの熊野寮においてマイノリティであるということに起因したり、それによって深刻化したりします。先に挙げた2つの例をもとに説明します。

①について...多目的トイレには、かつてサンタリーボックスが置かれていませんでした。生理のある人(女性の大半には生理があります)は寮内に少数であるため、想定されていなかったのでしょう。また、男性が多数を占める寮内では、生理などのタブー視されがちな事柄について話されにくいことも問題です。

②について...ブロック会議で新入寮生が所属する部会を決める際に、「(仕事の内容)とかもあるし、1回生の女子が入るような部会じゃないよ」といったブロック内の先輩の発言を受け、その部会に入ることをやめたという例があります。このような発言は、性役割についての固定的な観念に基づくものと考えられますが、この事例は、女子寮生の人数が少ないことによって深刻化している問題でもあると言えるのではないのでしょうか。男子寮生であれば、各ブロックの各部会に1人以上同性がいることはほぼ確実であり、特定の部会や男性に対する誤った認識による発言があったとしても、その発言の不当性を確認したり、同性の先輩がいるという事実で安心感を覚えたりすることができるでしょう。またこのような事例は、そのブロック内でのジェンダーステレオタイプの再生産を促してしまいます。

上記のような問題には、女子寮生同士が広くつながることで、繰り返されたり、より深刻になったりすることを防げる面もあります。堂々と口にしがらみを感じている悩みも、自分だけの問題ではないと感じられれば他の人と共有することができます。一人では声を上げられなかったことでも、賛同する人が多ければ訴える勇気が生まれるでしょう。早い時期からブロック外に女性の知り合いが(それもたくさん)いれば、女子寮生の中にもさまざまな人がいること、他者や社会に規定された「女らしさ」の範囲内で寮生活を送る必要がないことに、気づくことができたかもしれません。

それでは根本的な解決になっていない、と思われるでしょう。まったくその通りです。しかし、今すぐ寮生の男女比を1:1にする、または大幅に近づけることはできませんし、ジェンダーに基づく偏見や不平等は社会全体に深く根ざし、熊野寮という限られた範囲においてさえも、完全になくすことは容易ではないのです。差別的な価値観や、非対称性をはらむ構造を是正する取り組みが必要であることは言うまでもありません。しかしまた同時に、それらが実際に存在することを認め、その中で生まれ続ける問題のひとつひとつに対処していくために、手を取り合おうとすることには大きな意義があるのではないのでしょうか。女子寮生新歓は、その一歩です。

#### ・目的

当企画は、女子寮生がブロックの垣根を越えて知り合い、自由に交流し、情報交換を行える場を設けることによって、実際の悩みを共有し相談できる人間関係を築ききっかけを作ることをめざします。

熊野寮という新しい環境に身を投じたばかりの新入寮生は、生活上の不安を抱えやすく、またそれを相談できる人間関係も希薄です。特に女子寮生は、寮内において少数派であることにより、先に示したような問題と向き合わざるを得ない立場であると考えます。

また、新歓期には頻繁に寮内でのコンパや寮生同士の飲み会が催されます。そうした場でセクシャルハラスメントなどのハラスメント被害を受けることは性別問わず起こりうるということ、そして誰に対する人権侵害も起こらないよう全寮で取り組まねばならないことはここで確認しておきますが、弱い立場と見なされがちである(特に下回生の)女性がそうした嫌がらせの対象となりやすいこともまた事実です。

企画背景の中で述べたような、自身が「女性とみなされる」ことに何らかの理由がある問題に直面したときや、ハラスメント被害に苦しんでいるなどのデリケートな悩みを抱えたときには、同性の相談相手が必要とする場合があります。人権擁護部の相談窓口を利用することもできますが、入寮したばかりで誰が部員なのかわからない、部員に声をかける/メールを送ることに心理的に高いハードルを感じる、などの理由で利用しにくいこともあるでしょう。

安心して相談できる人間関係を築くには、まず女子寮生同士がより広く知り合うきっかけが必要不可欠であり、そのための場を設けることは積極的に行われるべきです。また、寮生が個人の問

題と捉えていることの中には構造上避けられないものが存在すること、そしてその現状を変えようとする動きが寮内に生まれていることを知る機会があれば、違和感や悩みを人と共有することへの抵抗感を軽減することにも繋がるものと考えます。

・よくある質問

①なぜ勉強会などではなく「コンパ」なのか？

→この企画がコンパである必要性は、同性の相談相手を見つける機会の提供という目的意識から生じるものです。コンパという「参加しやすい形」で「ブロックの垣根を越えて」行われる必要があるのです。なぜなら問題意識を持たない新入寮生（寮社会の実態を把握していないので、問題意識を持ちようがない）が、せいぜい12人前後しかいない同ブロックの女子の他にも頼れる同性の友人を見つけることこそが重要だからです。最初のブロック会議の前に全寮的な女子の顔合わせの機会を設けることで、寮という社会の中に、信頼できるかもしれない同性の知り合いを見つける機会を提供したいと考えています。

同性の相談相手がどうしても必要なのかというと、強固な男女二元論の上で成り立っている社会の中で（性別に限って言えば）同じ立場の人間にしか相談しえないこと、わかりえないことがあるからなのです。例えば生理周辺の話、下着の話、ライフプランの話は、異性に相談するにあたっては「前提の共有」から始めねばならない、あるいは話すことそのものすらタブーにされている現状があります。

②男性を排除しているのではないのか？

→参加資格を男子寮生を含む全寮生に開放した時、熊野寮の圧倒的な男女比から考えると、少数の女子寮生が参加する「男子寮生コンパ」になってしまうため、制限を設けることはやむを得ないと考えています。

また過去には（111期以前に行われていた女子寮生新歓において）、「コンパの開催時間を区切り、途中から男子寮生含む全寮生に開放する」といった方式を取っていたことがあるようです。その頃の実情について、事実確認を行うことができていないため詳細は控えますが、キャバクラ的なノリが発生していた、いわゆる“女好き”の男子寮生しか参加して来ず不安を感じた、などの声が寄せられていました。我々がめざす女子寮生新歓とは、女子寮生同士が人間関係を築くきっかけを作るための企画です。新入寮生が少しでも「自分はこの寮でやっていけそうだ」と思えるような場を作らなければなりません。参加者同士が安心して交流できるよう、前述のようなノリ・雰囲気を作り出さない工夫が、運営側にも参加する側にも必要です。

### 3.女子寮生座談会の開催及び広報誌の発行

これまで有志によって企画され、入寮パンフレットに掲載されてきた「女子寮生座談会」を、企画の理念を継承していくため、116期に引き続き女子寮生向けハラスメント相談窓口主催の企画として行う。また、過去の座談会や構成員による寄稿文を掲載した広報誌の製作を行う。これは春季の入寮パンフと合わせて広く頒布することを目指している。

（以上、女子寮生向けハラスメント相談窓口方針）

### （5）トラブル仲裁

多様な価値観を持った寮生が密接して暮らす熊野寮において、時には寮生間でトラブルが生じることもある。このような場合に、当事者間や所属ブロック内で解決を促し、当事者同士の話し合いが難しい場合には人権擁護部が代理で話し合いに出向く。そうした方法でも解決が難しいと考えられる場合には、常任委員会に協力を要請し、常任委員会による権力的な裁定を求める。また、以後同様の事例が生じたときのため、取った対応を総括・議論する。

### （6）救護活動

寮内で事故が発生したり体調不良者が生じたりした場合には迅速な対応が必要であり、これにはコンパ中の酒類の飲みすぎによる卒倒等も含まれる。学習会等を通じて人権擁護部員に限らず寮生全体の意識向上・知識獲得を目指していく。

## 6.予算

学習会費については、外部講師を招く場合の交通費と若干額の謝礼を想定している。

介抱学習会費は前述の通り、来期から人権擁護部として組織的に開催する。

ハラスメント対応費はウィークリーマンション2ヶ月分を目安としている。

	収入	支出	115期予算
116期より繰越	¥214,265		
自治会会計より	¥115,000		
学習会費		¥25,000	¥25,000
介抱学習会費		¥20,000	¥0
弾圧対策費		¥50,000	¥60,000
防犯費		¥20,000	¥20,000
合鍵作成補助費		¥10,000	¥10,000
防災費		¥20,000	¥0
耐震対策費		¥0	¥15,000
お掃除デー昼食代		¥10,000	¥10,000
ハラスメント対応費		¥100,000	¥100,000
喫煙所備品費		¥30,000	¥50,000
新歓費		¥20,000	¥10,000
女子寮生新歓費		¥20,000	¥15,000
雑費		¥4,265	¥3,424
計	¥329,265	¥329,265	

情報部

部長より

第117期情報部の方針は、第116期に引き続き、仕事の管理、分担、共有の徹底である。そのためにタスク管理ツールGithub issueによる仕事の管理、分担や、部会LINEを用いた仕事の共有を行い、部会・委員会の区分に囚われず既存のシステムの保守及び寮内の業務の効率化に横断的に取り組む。

## 発信セクション

### 方針

- ・外部に提供する情報量を増やす。
- ・熊野寮のイメージアップを目的とする。
- ・熊野寮ホームページを改良する。

### 方法

- ・X(旧Twitter)通じて各種イベントの報告や宣伝及び声明などを熊野寮として外部に発信する。
- ・外部向けホームページの管理・更新を行う。また、ホームページに改善を加えるべく検討を続ける。特にパソコンだけでなく、スマホなどの携帯端末などでも見やすいように、コンテンツのサイズ比が端末によって変化するようにするなど。
- ・広報局と連携しながら、発信方法の模索及び効率化を図る。

## 技術セクション

### アプリケーションの保守管理

情報部で作成したアプリケーションの不具合に対応する。

### 新たなアプリケーションの開発

寮生の仕事を軽減するべく、新たなアプリケーションの必要性を議論し、必要に応じて開発する。

### 引継ぎ用マニュアルの作成

将来の担当者への引継ぎや現在の技術者の傷病による業務継続不可となる事態に備えて資料システム管理者用のマニュアルを作成する

## 監督セクション

恒常的に機材の管理、必要な場合は機材の購入も行う。プロジェクターの準備等寮生大会の準備を行う。

## 決算のDropbox代について

例年Dropbox代として15,000円を請求しており、今期も同額の予算を請求しましたがDropbox代は米ドル建て（1年で\$131.87）で支払われており2023/12/5現在のレート\$1=¥146.96換算では予算を超えてしまい支払うことができませんでした。幸い、支払いまでに猶予があるので追加予算請求ではなく117期の予算として改めて請求する予定です。

請求額に関しては\$1=¥159換算とし、¥21,000とすることを考えています。不手際によりご迷惑をおかけして申し訳ありません。

117期予算表		
項目	収入(円)	支出(円)
116期より	¥27,872	
自治会会計より	¥78,000	
Dropbox		¥21,000

kuma LAN		¥5,000
証明書		¥20,000
新歓費		¥20,000
修理消耗品代		¥39,872
合計	¥105,872	¥105,872

## <特別委員会>

### 入退寮選考委員会

#### 第117期入退寮選考委員会方針案

##### 1. 入寮選考

##### 1-1. 方針

例年通り3月に入寮選考を行う。入寮面接は全寮を挙げて取り組むことになるが、当委員会は各段階において流れを把握し、準備・運営などを担当する。

##### 1-2. 入寮選考の流れ

2月上旬～下旬 空きキャパシティ調査

随時 パンフレット配布など宣伝活動

2月中旬～3月上旬 面接官講習会・入寮面接・部屋決め会議

##### 1-3. 空きキャパ調査

正確な調査を行うため、各ブロックの空きキャパの状況をよく分かっていそうな人と連絡をとる、調査担当者から提出された名簿を副委員長他数名で確認する等の対策を講じる。

##### 1-4. 宣伝活動

来年度の入寮パンフレットは現在、記事及び編集メンバーを募集している。記事が集まり次第、作成を開始し、2月上旬の完成を目指す。完成したパンフレットは学部一般入試の日に配布するほか、熊野寮ホームページに掲載したり、吉田寮をはじめとする他寮においてもらったりするなど他寮との連携も図るとともに、その他にも様々な広報の手段を考えたい。寮を必要とする人のできるだけ多くに情報を行き渡らせられるよう努力したい。

##### 1-5. 面接

面接は2月25日(日)、26日(月)、3月10日(日)、11日(月)、12日(火)に行う。主に初めて面接をする人や講習会を受けたことがない人向けに面接官講習会を実施する。面接官講習会では、面接官マニュアルに沿って面接の流れや面接時の注意点を確認する。

入寮面接は入選だけでなく全寮生に積極的に参加してもらえるように呼びかける。117期では116期に引き続き対面で入寮面接を行う予定である。もし入寮希望者からの要望があれば一部オンラインでの対応を行うことも考えている。

見学可能部屋をブロック会議等であらかじめ募集し、当日手間取らないようにしたい。入寮面接の具体的な事項については今後も話し合いを続け改善を目指す。入寮希望者数が

空きキャパシティ数を上回る場合には、一人でも多く入寮できるように部屋移動なども検討する。

#### 1-6. 面接後の日程

3月13日 キヤパ調整会議

3月15日 当落連絡、部屋決め会議

#### 1-7. 男子・女子部屋化、+α部屋化

入寮希望者数が多く落選者が出そうな場合は、落選者を減らすために男子女子部屋化・+α部屋化を行うことも視野に入れている。男子・女子部屋化、+α部屋化が必要であると判断され、それが実行された場合、「女子部屋化・男子部屋化補助制度」に基づいて補助金を支払う。補助金の存在を複数回に分けて議案で周知する。

また、男子部屋化については以下の方針に則り対応していく。

・男子ブロック化するなどの採決を全寮でとった場合、ブロック移動することになる人たちの意見が過小に評価されてしまうおそれがある。寮生大会やブロック会議での採決は行わない。

・入寮希望者数が確定しないと具体的にどのような方策を取るべきか決められないが、何人くらい希望者がいればどのようにするかといった仮の決定は事前にしておく方がよい。そのために、遅くとも空きキャパ調査の結果が出る頃にはどの部屋が男子部屋化の対象になりうるかを入選で把握し、事前に部屋移動・ブロック移動の可能性があることを話しておく。

・その上で、寮全体で女性が少ないことにより女子寮生受ける不利益を是正するため、積極的に女子寮生を呼び込むような方策（入寮パンフに女性向けの記事を掲載する、女子比率が高い学部の入試のパンフまきに女子寮生を多く配置するなど）を入選としてとっていく。また全寮的に女性が少数派で、住みづらさを感じている、という問題の解決に向け、積極的に向き合っていく。

#### 1-8. 途中入寮、仮入寮

現在の入選には、春、秋の入寮選考以外の臨時の入寮に関して、複数の方法が存在するが、明確な制度化はされていなかった。制度の設定について、臨時入寮の際にスムーズに対応できるように議論を進める。議論の対象となる事柄としては、

・対象者が入寮してから直近の入寮選考まで、ブロック、部屋を確定せず、直近の入選で再選考をおこなう仮入寮と、部屋、ブロックを確定する途中入寮

・臨時入寮者の受け入れ基準  
などがあると考えている。

#### 3. 在寮選考方針

維持費滞納による在選対象になった者、および仕事を選システムを導入しているブロックにおいて仕事回数不足により在選対象になった者がいる場合は、熊野システムに則って在寮選考を行う。その際、常任委員会並びに監察委員会と連携し、滞りなく処理が行われるようにする。

#### 4. 日本語能力基準

撤廃はしないが希望する全ての人が入寮できるように、できる限りサポート体制を整える。その整備は今期も国際交流局が主となるが、入選も引き続き協力して行っていく。

4. 予算  
表を参照。

項目	収入(円)	支出(円)
116期からの繰越金	118,008	
自治会会計より	0	
文房具代		5,508
入寮募集宣伝費		11,000
電話代		5,000
面接官用差し入れ		1,500
女子部屋・男子部屋化助成金		40,000
+α部屋化助成金		40,000
新歓費		15,000
合計	118,008	118,008

## 選挙管理委員会

1. 第117期選挙管理委員会として以下を行う

- \*正副常任委員長選挙の周知・運営
- \*寮生大会の周知・運営
- \*その他選挙管理委員会に委託された投票や集会等の周知・運営
- \*選挙管理委員会に関する議論

2. 正副常任委員長選挙



正副常任委員長選挙においては、立会演説会・選挙の周知・運営・投票の呼びかけなどを行う。特に運営においては監察委員会から最新の名簿を借り、それに基づいて行う。

今期も引き続き無効票を減らすために、投票の例を投票所に掲示する、記入欄を明確にするなどの対策を行う。

また、投票の部屋周りや代理投票の呼びかけといった業務に委員会として組織的に取り組んでいく。

### 3. 寮生大会

寮生大会においては、周知・出欠調査・運営などを行う。この際にも監察委員会から借りた最新の名簿を基に行う。また、円滑に議論を進めるために、自由討論の議題の募集を寮生大会に先立って行う。

また、次の寮生大会の欠席・遅刻・早退理由書の承認条件は以下のようにする。

- ・就職活動
- ・研究活動(指導教官の印鑑が必要)
- ・冠婚葬祭
- ・留学生のバイト
- ・課外活動(部活の重要な大会など)
- ・入院
- ・単位の出る授業
- ・当人の人生に関わるその他の事由

その他選挙管理委員会の過半数がやむを得ないと判断したこと。詳しくは欠席理由書の注意事項を参照。

上記の理由で寮生大会の欠席・遅刻・早退を申請する場合、それらが寮生大会の開催時間(開催時間から20時間)以内に行われることを証明する書類を必要とする。必要書類が用意できない場合、選挙管理委員が代替書類の提案、または具体的な聞き取りを行うので、本人が月曜日の選挙管理委員会に出席することが望ましい。

### 4. その他選挙管理委員会に委託された投票や集会等

第102期では居住理由判定制度改正案の投票の運営を委託されて行ったように、今後もそのような委託があれば、選挙管理委員会として周知・運営を行う。

### 5. 選挙管理委員会に関する議論

選挙管理委員会では、正副常任委員長選挙、寮生大会、ひいては選挙管理委員会そのものの改善や見直しの議論を行う。第117期では特に立会演説会や投票受付のより良い運営のための議論、選挙の公示形式の検討、寮生大会の遅刻早退欠席理由書の判断基準の検討を行う。

### 6. 予算案について

新歓費1万5千円、雑費5千円、立会演説会での書記への差し入れ費3千円を請求する。

来期も選挙・寮生大会等の円滑な運営のためのご協力をお願いします。

	収入(円)	支出(円)
自治会会計より	23,000	
新歓費		15,000

立会演説会 差し入れ費		3,000
雑費		5,000
合計	23,000	23,000

## 監察委員会

### 第117期監察委員会方針案

#### 1. 通常業務

- ・ 毎月の維持費支払いチェック
- ・ 維持費滞納者に対する督促及び橙食券販売の制限
- ・ 高額維持費滞納者に対する在寮選考の告知、橙食券販売の制限
- ・ 休寮願の審査及び結果の通知
- ・ 自治会予算、食堂関係費の寮生大会前の会計監査

#### 2. 維持費在選システムの運営とシステム周知の徹底

- ・ 入退寮選考委員会への維持費滞納者情報提供等の業務提携
- ・ 生活マニュアルへの当該システム及び関連諸制度を周知する項の掲載

#### 3. 全寮寮生名簿の管理

- ・ 全寮寮生名簿を随時更新
- ・ 関係諸部局への名簿の提供
- ・ 京大新聞への入退寮者名簿掲載

#### 4. 維持費滞納者に関する対応

- ・ 維持費のまとめ払いを強く推奨
- ・ 積極的に支払いを督促

#### 5. 振り込みシステム

- ・ 維持費振込システムの運用を継続

#### 6. 休寮審査について

- ・ 生活マニュアルにおける周知

#### 7. 維持費免除制度について

- ・ 周知、運用をしていく

#### 8. その他

- ・ 自治会財政収支の推移を4月中のブロック会議に提出する
- ・ 予算は請求しないので予算表はない

## 資料委員会

### 第117期資料委員会方針

#### 1. 恒常業務

資料委員会の構成員により、以下の業務を行う。

- ・ブロック会議資料のチェック、編集、印刷
- ・印刷したブロック会議資料の回収
- ・ブロック会議議事録の校正、保存
- ・自治会業務に用いるための印刷用紙やインクの補充、並びに印刷機(オルフィス)の管理
- ・ブロック会議資料システム関連のバグやトラブルがあったときの情報部への対応の依頼
- ・資料委員会が補充、管理する物品を自治会用途以外で使用しない旨の注意喚起
- ・ブロック会議の議案投稿についての注意喚起
- ・検討会の日程周知、ポテッカー作り
- ・寮生大会前のブロック会議に総括方針案が3回以上提起されているかの確認および各部局委員会への呼びかけ
- ・厚生課から支給されたパンフレット用紙の受けとり

#### 2. 議事運営セクション

今期の活動内容については未定である。

#### 3. 第116期までの不足分について

第116期の資料委員会予算では、インク代として294,800円を計上していました。これは、インクを8本購入する予定で、去年度までのインクの単価33,500円(+消費税)をもとに計算したものです。しかし、今年度からインクが値上げされており、単価が36,900円(+消費税)になっていたため、予算を超過して使っていた状況です。また、2月に購入したインクの代金が未払いであったため、その分の費用147,400円も今期の資料委員会予算から支出しています。

※1...B4:95,000枚、B5:22,500枚、A3:5,000枚、A4:17,500枚を購入予定。見積もりの根拠は以下の通り。

【B4】 在庫5000枚。入寮パンフレットの印刷に備えるため。ブロック会議資料の印刷に使用するため。

【B5】 在庫2500枚。B5ビラなどに利用するため。

【A3】 在庫2000枚。A4二つ折りビラに使用するため

【A4】 在庫0枚。要求書提出等に使用するため。

※2...黒インクは8本購入予定。

※3... 印刷機積立金は例年通り200,000円請求している

項目	収入(円)	支出(円)	備考
第116期から繰越	¥259,057		
自治会会計より	¥650,000		
コピー用紙代		¥190,428	※1
インク代		¥324,720	※2
第117期までの払い残し分		¥177,320	
印刷機積立金		¥200,000	※3
雑費		¥16,589	
合計	¥909,057	¥909,057	

#### 参考資料：第116期資料委員会印刷費積立金明細

第116期資料委員会印刷費積立金		
項目	収入	支出
第115期から繰越	¥1,300,000	
第116期の積立金	¥200,000	
インク購入用に一時的に一部支出		¥177,320
第117期への繰越		¥1,322,680
合計	¥1,500,000	¥1,500,000

## 居住理由判定委員会

私たち熊野寮生は、それぞれの目的を果たすため、熊野寮に住むことを決め、かつ、許された。そして、寮生それぞれの自由を独断から守り、寮生同士の自由の調和を図り、また、生活環境を向上させるため。自らルールを作り、そのルールに沿って物事を進め、問題が起きたときにはできる限り自ら解決することを選んだ。

居住理由判定制度とは、各寮生の寮に居住する自由が一方的に奪われることを阻むため、ここに居住する権利についてルールを定めたものである。権利の濫用は許されず、本制度は、各寮生の尊重と平等を第一として、解釈及び運用されなければならないものである(制度前文、第1条、第2条及び第3条より)。

第117期居住理由判定委員会は、制度に則り以下の業務を行う予定である。

- ・前期に引き続き、今年度の学籍喪失推定者に対して、居住理由の審査を進めること。

・来年度4月時点で寮に在籍する者のうち、休寮者と2023年度の新入寮生を除いた者の学籍確認書類を収集すること。及び、学籍確認書類を提出できない者に対して各棟委員会ないしは全寮委員会を開催し、その者の居住理由を審査すること。

以上

# 自治会会計

## 自治会会計決算

- ※1 従来、入寮予備金として自治会会計が徴収していたものは、食堂予備金へ変更となり、自治会会計は徴収せず。
- ※2 各部会・委員会決算の内訳については、各総括にて。
- ※3 読売新聞・朝日新聞は大学支給。
- ※4 令和5年7月より、購読料が¥4,900/月から¥5,500/月に値上がり。
- ※5 令和5年6月より、購読料が¥4,300/月から¥4,900/月に値上がり。
- ※6 令和5年11月より、購読料が¥4,400/月から¥4,900/月に値上がり。

1.一般会計				
1.1 収入の部				
	概要	116期決算		116期予算
	自治会費6月分	¥344,230		¥360,000
	自治会費7月分	¥276,900		¥360,000
	自治会費8月分	—		¥360,000
	自治会費9月分	—		¥360,000
	自治会費10月分	—		¥360,000
	自治会費8~10月分	¥1,006,200		—
	自治会費11月分	¥280,500		¥360,000
	入寮予備金※1	¥0		¥21,000
	シャワー収入	¥913,000		¥500,000
	自動販売機収入	¥50,000		—
	短期駐車料金	¥29,920		¥10,000
	受取利子	¥23		¥30
	寮外連携局より返還	¥1,013,103		¥1,500,000
	寮外連携局よりイベント売上金引上げ	¥172,832		—
	常任委員会より返還(SC新歓費)	¥2,397		—
	カンパ	¥5,000		—

	合計	¥4,094,105		¥4,191,030
1.2 支出の部				
	概要※2	116期決算	116期追加予算	116期予算
	常任委員会	¥3,017,311	—	¥4,525,000
	文化部	¥960,000	—	¥960,000
	炊事部	¥200,000	—	¥200,000
	厚生部	¥420,000	—	¥420,000
	庶務部	¥52,000	—	¥52,000
	人権擁護部	¥220,000	—	¥220,000
	情報部	¥31,000	—	¥31,000
	入退寮選考委員会	¥40,000	—	¥40,000
	資料委員会	¥500,000	—	¥500,000
	選挙管理委員会	¥19,764	—	¥23,000
	新聞	¥88,700	—	¥81,600
	コロナ対策費(SC)	¥80,178	¥100,000	—
	機材費(資料委員会)	¥324,720	¥324,720	—
	機材費(国際交流局)	¥59,800	¥59,800	—
	合計	¥6,013,473		¥7,052,600
1.3 差引残高				
	概要	116期決算		116期予算
	収入合計	¥4,094,105		¥4,191,030
	支出合計	¥6,013,473		¥7,052,600
	差引残高(収入合計－支出合計)	-¥1,919,368		-¥2,861,570
2.繰越金				
	概要	116期決算		116期予算
	累計繰越金	¥8,240,067		¥8,240,067
	差引残高	-¥1,919,368		-¥2,861,570
	合計	¥6,320,699		¥5,378,497
3.明細				
3.1 新聞				

	概要※3	116期決算		116期予算
	日経新聞※4	¥32,400		¥29,400
	毎日新聞※5	¥29,400		¥25,800
	京都新聞※6	¥26,900		¥26,400
	合計	¥88,700		¥81,600

## 自治会会計予算

※1 従来、入寮予備金として自治会会計が徴収していたものは、食堂予備金へ変更となり、自治会会計は徴収せず。

※2 各部会・委員会予算の内訳については、各方針にて。なお、入退寮選考委員会と監察委員会に関して、今期の自治会会計からの支出はなし。

※3 読売新聞、朝日新聞は大学支給。

1. 一般会計							
1.1 収入の部							
	概要	単価		数量	117期予算	115期決算	
	自治会費12月分	¥900	×	400	=	¥360,000	¥340,100
	自治会費1月分	¥900	×	400	=	¥360,000	¥322,000
	自治会費2月分	¥900	×	400	=	¥360,000	¥251,700
	自治会費3月分	¥900	×	400	=	¥360,000	¥173,700
	自治会費4月分	¥900	×	400	=	¥360,000	¥1,383,900
	自治会費5月分	¥900	×	400	=	¥360,000	¥501,300
	入寮予備金※1					—	¥72,800
	シャワー収入					¥700,000	¥760,000
	自動販売機収入					¥50,000	—
	短期駐車料金					¥20,000	¥27,000
	受取利子					¥30	¥24
	広報局よりグッズ売り上げを返還					¥32,350	—
	人権擁護部から返還					—	¥45,000
	学術連帯PTからのカンパ					—	¥83,000
	その他カンパ					—	¥53,524
	合計					¥2,962,380	¥4,014,048

1.2 支出の部						
	概要※2				117期予算	115期決算
	常任委員会				¥2,868,826	¥1,133,561
	文化部				¥710,000	¥600,000
	炊事部				¥190,000	¥180,000
	厚生部				¥720,000	¥640,000
	庶務部				¥24,000	¥61,000
	人権擁護部				¥115,000	—
	情報部				¥78,000	¥108,000
	資料委員会				¥800,000	¥610,000
	選挙管理委員会				¥23,000	¥8,915
	新聞				¥91,800	¥81,600
	追加予算(大文字コンパ費(文化部))				—	¥10,000
	追加予算(新歓費(入退寮選考委員会))				—	¥15,000
	追加予算(弁護士費用(常任委員会))				—	¥300,000
	合計				¥5,620,626	¥3,748,076
1.3 差引残高						
	概要				117期予算	115期決算
	収入合計				¥2,962,380	¥4,014,048
	支出合計				¥5,620,626	¥3,748,076
	差引残高(収入合計－支出合計)				-¥2,658,246	¥265,972
2.繰越金						
	概要				117期予算	115期決算
	累計繰越金				¥6,320,699	¥7,974,095
	差引残高				-¥2,658,246	¥265,972
	合計				¥3,662,453	¥8,240,067
3.明細						
3.1 新聞						
	概要※3				117期予算	115期決算



	日経新聞					¥33,000	¥29,400
	毎日新聞					¥29,400	¥25,800
	京都新聞					¥29,400	¥26,400
	合計					¥91,800	¥81,600

特別決議案